

2022(令和4)年度

埼玉県東部地区大学
単位互換特別聴講学生募集要項

後期(秋学期)

(シラバス)

埼玉県立大学

シラバス詳細

教養科目		人文社会科学												
授業科目名														
カリキュラム2019														
文化人類学 Cultural Anthropology														
No.	時間割番号		開講時期				曜日・時限							
1	200101301		後期				月曜4限							
ナンバリング														
B_LBA1210														
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別														
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職	
	編入					専攻	編入		専攻	編入	専攻	専攻		
1	1○	3○	1○	1○		1○	3○	1○	1○		1○	1○		
履修における注意点・履修条件等														
<ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項や資料配付・課題提出等はWeb Classを利用します。毎回確認してください。 ・初回に履修上の注意点や課題の説明をします。履修希望者は必ず出席してください。 														
科目責任者		浅川 泰宏			単位数・時間数		2単位 30時間		授業形態		講義			
科目担当者														
科目に関連する実務経験														
授業の概要														
<p>文化人類学は文化(culture)という観点から人間と社会を考える学問です。本講義では、文化人類学の基本的な考え方を学び、映像資料等も活用した様々な「フィールドワーク」を通して現代社会の多様な「文化」を体験します。</p> <p>本講義では、リアクションペーパーやディスカッション、フィールドワーク、学修成果の共有など、皆さんが主体的に活動する形式を取り入れています。自由・活発に思考を働かせながら、知性を鍛えてください。</p>														
学習のねらい														
<p>①さまざまな人の営みに触れることで、「人間」に興味と敬意を持つ姿勢を養うこと。</p> <p>②学修を通して、自分のアイデアや考えを掘り起こし、形にする能力を養うこと。</p> <p>③フィールド資料を通して、文化の多様性とダイナミズムを体験し、様々な価値が共生する社会像を探究する能力を養うこと。</p>														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域		
○			○									○		
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者			
1	第1部 文化人類学の視点				ガイダンス・文化人類学について				浅川		<input type="checkbox"/>			
2	・文化人類学の「モノの見方」を学ぶ。				人類と文化				浅川		<input type="checkbox"/>			
3	・文化人類学の「モノの見方」を学ぶ。				文化の定義				浅川		<input type="checkbox"/>			
4	第2部 フィールドワークの営み				異文化理解とフィールドワーク(1)				浅川		<input type="checkbox"/>			
5	・異文化を体験する「フィールドワーク」を学ぶ				異文化理解とフィールドワーク(2)				浅川		<input type="checkbox"/>			
6	・異文化から「常識」を再考する				人々のつながり—家族・婚姻・生殖				浅川		<input type="checkbox"/>			
7	・異文化から「常識」を再考する				知性のカタチ—野生の思考とプリコラージュ				浅川		<input type="checkbox"/>			
8	・異文化から「常識」を再考する				オリエンタリズムと異文化理解の課題				浅川		<input type="checkbox"/>			
9	第3部 文化人類学の実践				贈与と交換				浅川		<input type="checkbox"/>			
10	・文化人類学的思考で自分の体験を振り返る				祝祭の人類学 (1)				浅川		<input type="checkbox"/>			
11	・文化人類学的思考で自分の体験を振り返る				祝祭の人類学 (2)				浅川		<input type="checkbox"/>			
12	・文化人類学的思考で自分の体験を振り返る				旅する人類学—冒険と巡礼				浅川		<input type="checkbox"/>			
13	第4部 文化のダイナミズム				ポストコロナのフィールドワーク計画				浅川		<input type="checkbox"/>			
14	・文化の多様性や変容を学ぶ				文化のダイナミズム				浅川		<input type="checkbox"/>			
15	本講義の到達点を確認する				まとめ				浅川		<input type="checkbox"/>			
授業計画に関する特記事項														
<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を原則としますが、一部、遠隔授業で実施する可能性があります。 ・新型コロナウイルスやその他の社会状況、履修者数等によって、授業計画を変更する場合があります。 														
教科書														

指定しません。

参考書、教材等

綾部恒雄・桑山敬己編 2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房。
奥野克己・花淵馨也編 2011『文化人類学のレッスン―フィールドからの出発（増補版）』学陽書房。
※講義資料はWeb-classで配信します。

評価方法

小課題（60%）＋総合的課題（40%）
・小課題は、主に各回のリアクションペーパーが該当します。
・総合的な課題は、「ポストコロナのフィールドワーク計画～もしあなたが大学時代に文化人類学的フィールドワークを行うとしたら」を予定しています。
※定期試験は実施しません。

授業外における学習方法

・講義資料に事前に目を通し、専門用語や人名・地名などを確認してください。
・総合的な課題は、積極的な自主学習で計画的に遂行してください。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

自己、他者そして「世界」に興味と敬意を持ってください。本講義の受講によって、皆さんの「ものの見方」が変わることを期待します。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/02/24 11:38

印刷 閉じる

シラバス詳細

教養科目		人間性涵養												
授業科目名														
カリキュラム2019														
生命の意味 The Meaning of Life														
No.	時間割番号				開講時期				曜日・時限					
1	200106301				後期				月曜1限					
ナンバリング														
B_LBA2680														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	理学	作業		社福	福子	行動	検査	口腔	教職				
	編入				専攻	編入	専攻	専攻	専攻					
1	2○	3○	2○	2○	2○	3○	2○	2○	2○	2○				
履修における注意点・履修条件等														
2年次以上であること														
科目責任者	小林 憲生				単位数・時間数	1 単位 15 時間		授業形態	講義					
科目担当者	四ノ宮美保													
科目に関連する実務経験														
授業の概要														
ある現象には様々な要因が内在している。本科目では、生物学分野以外からのアプローチを含め、様々な角度から生命現象を取り扱う。														
学習のねらい														
知識としての生物学ではなく、その背景にある現象を理解することで教養を深め、生物とは何かを考える契機になることを目標とする。ヒトを含む全ての生物は進化の産物であり、「生命の起源」から生物を学ぶ事は「ヒトをよく知る」初歩であるとも言える。「生命とは何か?」及び「生き物としてのヒトとは?」を総合的に理解し、自らの「生命観」に関する考えを深めるきっかけになる事を目指している。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考				多面的・専門的				連携・統合		国際的・地域			
	○				○						○			
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者			
1	生命の化学的な側面を理解する				化学進化とは何か?				小林、四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
2	生命の物理学的な側面を理解する				生物を構成する物質について				小林		<input type="checkbox"/>			
3	生命の生物学的な側面を理解する				生命とはどのようなものか?				小林		<input type="checkbox"/>			
4	生命の歴史的な側面を理解する2				どの様にして今の生物やヒトが出来てきたか				小林		<input type="checkbox"/>			
5	他個体と共存するための仕組みを理解する1				利他行動とは何か?				小林		<input type="checkbox"/>			
6	他個体と共存するための仕組みを理解する2				利他行動とは何か?				小林		<input type="checkbox"/>			
7	生命に関するテーマを考える				レポートのテーマ抽出				小林		<input type="checkbox"/>			
8	レポート作成により多面的な視野を形成する				レポート作成・提出				小林		<input type="checkbox"/>			
教科書														
指定しない														
参考書、教材等														
長谷川真理子著「生き物をめぐる4つのなぜ」														
評価方法														
毎回提出する小レポート(60%)及び読書感想文(40%)で評価を行う。														
授業外における学習方法														
レポートの作成にあたって、複数の文献・書籍等を読む必要があるので、その旨理解する事。														
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント														
学生のうちに、数多くの様々な書籍を読む機会を増やしてほしいと思っています。														
授業における講演者(ゲストスピーカー)の情報														
回	講演者氏名				講演の概要				備考					
最終更新日: 2022/02/24 13:04														
													印刷	開く

シラバス詳細

教養科目		人間性涵養												
授業科目名														
カリキュラム2019														
人間の探求 Human Exploration														
No.	時間割番号				開講時期				曜日・時限					
1	200106601				後期				月曜2限					
ナンバリング														
B_LBA2680														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	理学	作業		社福	福子	行動	検査	口腔	教職				
	編入				専攻	編入	専攻	専攻	専攻					
1	2○	3○	2○	2○	2○	3○	2○	2○	2○	2○				
履修における注意点・履修条件等														
2年次以上であること														
科目責任者	小林 憲生				単位数・時間数	1 単位 15 時間		授業形態	講義					
科目担当者	高村夏輝、浅川泰宏、鈴木誠治													
科目に関連する実務経験														
授業の概要														
各回の授業では、講義15分とその後のグループディスカッション15分を3回程度繰り返して行う。講義パートでは人間を様々な視点（生命、社会など）から見つめなおすことを目標とする。議論パートでは講義パートで扱った内容に関して、学生間での討論を行う。														
学習のねらい														
様々な側面を知ることにより深く人間を理解し、多様な価値観や思想の上に人間尊重の考え方が形成されていることを理解することを目指す。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域		
			○			○								
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者			
1	ヒトの文化的な側面を学ぶ				ヒトの定義とは何か？ホモ・サピエンス、ホモ・エコノミクス、ホモ・ポリティックスとは何か？				小林、浅川		□			
2	ヒトの倫理的な側面を学ぶ				生きることに何の意味があるのか、何の価値があるのか？				小林、高村、浅川		□			
3	自然界の子育てを通じ、ヒトとの相同性を考える				包括適応度とはどのような事か？				小林、浅川、鈴木		□			
4	ヒトやその他の生物の寿命について学ぶ				寿命とはどのような現象か？				小林、浅川		□			
5	ヒトやその他の生物の性について考える1				性とはなにか？				小林、高村、浅川		□			
6	ヒトやその他の生物の性について考える2				性差とはなにか？				小林、高村、浅川		□			
7	議論を通じ、批判的思考を養う				レポート作成				小林		□			
8	レポート作成を通じ、客観的な思考や他人が理解できる表現を身に着ける				レポート作成				小林		□			
授業計画に関する特記事項														
時間外の文献調査やレポート作成を行うので、理解した上で履修する事 授業は対面と遠隔の併用で行う可能性が有る														
教科書														
無し														
参考書、教材等														
無し														
評価方法														
授業への参加と授業後に実施するWebClassでの課題の取り組み（60%）、及び、最終レポート（40%）で成績を評価する。														
授業外における学習方法														
時間外の文献調査やレポート作成を行う														
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント														
時間外の文献調査やレポート作成など、積極的に取り組むことを期待する														

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日: 2022/02/24 12:50

[印刷](#) [閉じる](#)

シラバス詳細

教養科目		総合力養成												
授業科目名														
カリキュラム2019														
地球環境論 Global Environment Issues														
No.	時間割番号				開講時期				曜日・時限					
1	200106001				後期				月曜1限					
ナンバリング														
B_LBA2580														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	編入	理学	作業		社福	編入	福子	行動	編入	検査	口腔	教職	
						専攻			専攻		専攻	専攻		
1	2○	3○	2○	2○		2○	3○	2○	2○		2○	2○		
履修における注意点・履修条件等														
発展段階科目のため、2年次以降に履修することができる。														
科目責任者	四ノ宮 美保				単位数・時間数	1 単位 15 時間			授業形態	講義				
科目担当者														
科目に関連する実務経験	○	国家公務員として環境保全に携わった教員が、その経験を活かして地球環境に関する講義を行う。												
授業の概要														
気候変動、海洋プラスチック問題やSDGsなどの地球規模での環境問題に係る話題が、テレビ番組、ネットニュース、雑誌などの様々な媒体で取り上げられている。本科目では、地球環境の概要と問題について説明すると共に、問題解決に向けての国際的な枠組みや国内での具体的な取り組みについて解説する。各回の授業の前半は、配付資料に沿った講義形式で進めるが、後半は課題に対して各グループで話し合う、あるいは個人で調べて考えをまとめるなどの自主的学習を行う。授業はすべて対面授業で行う。														
学習のねらい														
本科目では、①地球環境問題の背景と現状について正しい知識を得ること、②科学、社会、経済などの様々な視点で事象を捉えて考える力を養うこと、を目指す。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考				多面的・専門的				連携・統合			国際的・地域		
	○				○							○		
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員			講演者		
1	地球環境の概要と環境問題の歴史を知り、地球環境問題を学ぶ意義について理解する。				地球環境と環境問題の概要				四ノ宮			□		
2	大気組成やその役割について理解し、酸性雨やPM2.5などの大気汚染問題とその解決に向けての国内外での取り組みを知る。				大気環境				四ノ宮			□		
3	気候変動（地球温暖化）の現状とその対策について国際的な枠組みと国内での取り組みを知る。また、オゾン層破壊物質であるフロン類の係わりを理解する。				気候変動（地球温暖化）				四ノ宮			□		
4	地球上の水の循環について理解し、河川、湖沼、及び地下水における水質汚濁の問題を知る。また、地下水や農作物に影響を与える土壌環境についても理解する。さらに、汚染物質による生態系及び人の健康への影響を理解し、国内外での対策等について知る。				水環境と土壌環境				四ノ宮			□		
5	廃棄物の定義と特徴、及び有害廃棄物の越境移動等の廃棄物問題の現状と対策について知る。また、国内での循環型社会の形成に向けての取組を理解する。				廃棄物問題と循環型社会				四ノ宮			□		
6	マイクロプラスチック問題などの海洋汚染の現状と生態系及び人の健康への影響を理解し、対策に向けての課題について知る。				海洋環境				四ノ宮			□		
7	森林破壊・砂漠化の現状と生物多様性を守る意義について理解すると共に、国際的な対策や国際協力の状況を知る。				森林破壊、砂漠化と生物多様性の減少				四ノ宮			□		

8	第7回までの重要事項を再確認し、環境問題解決に向けて自分たちに何ができるのかを考えることができる。	まとめ	四ノ宮	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
授業はすべて対面形式で行う予定であるが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては遠隔授業（zoomによるリアルタイム授業）に切り替える。				
教科書				
指定しない。資料を配付する。				
参考書、教材等				
適宜、授業中に紹介する。				
評価方法				
各回での課題への取組（60%）と期末レポート（40%）によって総合的に評価する。				
授業外における学習方法				
授業前に関連サイトの説明などを読み、各テーマの概要を掴んでおく。 授業後には、授業で紹介した資料や記事等を閲覧し、授業内容の復習をする。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業を通じて、マスコミ等で報道される環境問題を科学的に正しく理解し、問題解決に向けて自分たちに何ができるのかを考える契機となることを期待します。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/03/28 08:51				
				印刷
				閉じる

シラバス詳細

IPE科目													
授業科目名													
カリキュラム2019													
I P W論 Interprofessional Work													
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限					
1	200300301			後期				月曜3限					
2	200300302			後期				月曜3限					
ナンバリング													
B_IPE2100													
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別													
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職				
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻					
1	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	2◎	
2	2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	3◎	2◎	2◎		2◎	2◎	
履修における注意点・履修条件等													
ヒューマンケア論・ヒューマンケア体験実習につづく全学必修の科目です。履修者は前期の前半（学籍番号が奇数＝①）、後半（学籍番号が偶数＝②）に分かれていますので、掲示などにより自分がいつ履修するのか確認してください。またチームごとおよび授業内容によって講義室が変わることがありますのでご注意ください。													
科目責任者	國澤 尚子			単位数・時間数	1 単位 15 時間			授業形態	講義				
科目担当者	吉村基宜、高柳雅朗、川俣実、小川孔美、國澤尚子												
科目に関連する実務経験													
授業の概要													
IPW論は、保健医療福祉・教育分野の多職種が、患者・利用者中心の支援活動をチームで行うための基本的な考え方とスキルを学び、3年次のIPW演習、4年次のIPW実習に発展していく科目です。IPW論では「尊重」をテーマに、自分が目指す職種及び自分以外の関係職種の理解、およびチーム活動の基本的なスキルの獲得を目指します。これらに関する考え方・理論を講義にて教授するとともに、異なる学科の学生による混合グループでチーム活動を行い、体験を通じて学びます。ヒューマンケア論（共有）、ヒューマンケア体験学習（発見）を基盤として、IPW論（尊重）、IPW演習（合意）、IPW実習（創造）と学年進行に伴って連携と統合のための能力を養うIPE科目の一科目です。 授業は対面で行います。													
学習のねらい													
授業の到達目標として、次の4つを設定しています。 ①患者・利用者を中心とした専門職連携実践の意義と方法を理解する ②チームメンバー個々人やその専門分野の特徴と多様性を相互に理解する ③チーム形成の理論と方法を学び、課題解決のための議論を主体的に行う。 ④リフレクションの理論と方法を用いて、チーム活動に関する今後の自己学習課題を明確にする。													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考			多面的・専門的				連携・統合		国際的・地域			
○				○				○					
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者		
1	IPWが必要とされている背景と、本授業で獲得を目指す連携の能力の概要を理解する。 本学の異なる学科の学生同士グループを形成し、各メンバー個人の理解と、そのメンバーが学ぶ専門知識・技術に対する理解を深める。また、ディスカッションやコミュニケーションの基本的様態について理解し、実践する。				【奇数クラス】 10/10 【偶数クラス】 12/5 オリエンテーション チーム形成 ・自己紹介（私の大切なもの） ・学科紹介				國澤、高柳、小川		□		
2	チームによるディスカッションのための方法論に基づき、実際にグループディスカッションを行い、基本的方法を習得する。				【奇数クラス】 10/17 【偶数クラス】 12/12 チームワークの実際				國澤、高柳、小川		□		
3	リフレクションの意義と意味を理解し、実際に各グループでリフレクションを行うことを通じ、各個人及びそれぞれのチームが、「体験から学ぶ」方法を習得する。				【奇数クラス】 10/24 【偶数クラス】 12/19 リフレクション				國澤、高柳、小川		□		
4	本学で養成していない専門職が、どのようなIPWの経験から、どのようにIPWを捉え、行動しているかについて理解する。				【奇数クラス】 10/31 【偶数クラス】 12/26 多職種を知る（ゲストスピーカー）				國澤、高柳、小川				

		精神保健福祉士、薬剤師、主任介護支援専門員／ 医師、栄養士、コミュニティ・デザイナー のいずれか		<input checked="" type="checkbox"/>
5	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。	【奇数クラス】11/7 【偶数クラス】1/16 模擬IPW①	國澤、高柳、小川	<input type="checkbox"/>
6	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。	【奇数クラス】11/14 【偶数クラス】1/23 模擬IPW②	國澤、高柳、小川	<input type="checkbox"/>
7	事例に対する目標の設定や援助計画をチーム間で共有する。 チームでこれまでの活動をリフレクションし、今後の自己学習課題を見出す。	【奇数クラス】11/21 【偶数クラス】1/30 模擬IPW③（発表） リフレクション	國澤、高柳、小川	<input type="checkbox"/>
教科書				
教科書：埼玉県立大学編『新しいIPWを学ぶ－利用者とともに展開する保健医療福祉連携』（中央法規）				
参考書、教材等				
評価方法				
課題シート（第1回で使用）、リフレクションシート（毎回）、最終レポート（授業終了1週間後提出締切）、授業への参加度により評価を行う。				
最終レポートの課題：IPW論で学んだことの中から、印象深いことを3つ選び、それぞれについて自分のIPW論の授業における具体的体験と結び付けて論じる（2,000字以上／WebClassに提出）。				
授業外における学習方法				
教材を取りまとめた冊子を配布します。教材を一読したうえで毎回の授業に望んでください。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
複数学科の混成チームで履修します。欠席の多さや参加度の低さはチームの学びを減少させます。積極的にチーム活動に参加し、主体的に学びを獲得してください。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
1	佐藤厚志	三郷市地域包括支援センターみさと南 元所長・主任介護支援専門員・ 精神保健福祉士		
1	土居努	埼玉筑波病院 薬剤師		
1	松家まゆみ	越谷市医療と介護の連携窓口 主任介護支援専門員・介護福祉士		
2	中野智紀	東埼玉総合病院 医師		
2	時田美恵子	東埼玉総合病院 管理栄養士		
2	小泉圭司	元気スタンドリズム代表社員 コミュニティデザイナー		
最終更新日：2022/03/11 18:07				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

IPE科目														
授業科目名														
カリキュラム2012														
I P W実習 Interprofessional Work: Practicum														
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限						
1	200300501			後期				集中						
ナンバリング														
B_IPE4300														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職					
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻						
1	4◎	4◎	4◎	4◎	4◎	4◎	4◎	4◎	4◎					
履修における注意点・履修条件等														
履修条件なし														
科目責任者		川俣 実		単位数・時間数		1 単位 45 時間		授業形態		実習				
科目担当者		畔上光代、櫻井育穂、宮部明美、黒田真由美、千葉真希子、滑川道人、井上和久、久保田章仁、松尾彰久、川俣実、小泉浩平、大岡華子、富田文子、久保田亮、秋山恭子、井原寛子												
科目に関連する実務経験		○ 殆どの教員は、保健医療福祉領域の施設や機関での実務経験があり、その経験を活かして、学生チームの専門職連携の学修を促進する。												
授業の概要														
IPW実習は今年度は実習施設では行わないが、インターネット遠隔教育システムを使用し行う。各学科と他大学学生で構成される5~6名の混合チームとなつて、チームに与えられた課題に対し事前学習を行った後、インターネット遠隔教育システムで実習施設とリアルタイムにつながり、実習施設の利用者様や担当者からの情報などを提供してもらい、チーム活動を通し課題解決を行う。実習の最終日には複数チームで地域ごとに報告会を行い、討論と学びの共有をして、実習の到達目標の達成をめざす。														
実習は2期分けて行われる。														
●IPW実習① オリエンテーションⅠ (8月8日) オリエンテーションⅡ (8月25日) 実習期間 (8月29日~9月1日)														
●IPW実習② オリエンテーションⅠ (8月8日) オリエンテーションⅡ (9月29日) 実習期間 (10月4日~10月7日)														
学習のねらい														
本科目の目的は、利用者中心の統合されたケアを創造するために、専門職連携実践の方法を身につけることである。 また、次の4つの到達目標を学修を目指す。 ① 利用者・集団・地域の理解と課題解決の実践方法を身につける ② チームメンバーの専門性と多様性を相互理解する態度を身につける ③ チーム形成と協働の実践方法を身につける ④ 体験を振り返り、意味づけ、自分の課題を見出すためのリフレクションができる														
利用者にとっての意味ある支援は、それを創出する履修者のチーム形成と相互理解のプロセスによるところが大きい。最終日に行われる報告会での発表内容について「よくまとまり過ぎている」「表面的な報告内容だった」などの評価を受けることがあるが、この実習で学修してほしいのは、専門職連携実践の方法であることを心にとめて参加して頂きたい。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域		
									○					
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者			
1回	・「I事前学習シート1」(自己紹介、実習施設等に関する事前学習、IPW実習において自分はどうな貢献ができるか)を提出する。				【履修の手引きの参照】 事前学習(期間未定)				畔上、櫻井、宮部、黒田、千葉、滑川、井上、久保田、松尾、小泉、大岡、富田、久保田、秋山、井原		□			
2回	・「IPW実習事前学習シート」(決意表明、チームビルディングのための課題、他)の提出と説明をする。				【履修の手引きの参照】 オリエンテーションⅠ (IPW実習①及び②: 8/8) オリエンテーションⅡ (IPW実習①8/25、IPW実習②9/29)				畔上、櫻井、宮部、黒田、千葉、滑川、井上、久保田、松尾、小泉、大岡、富田、久保田、秋山、井原		□			

<p>3~6回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム形成のプロセスと相互理解からの学び」と「利用者・集団・地域の理解と課題解決の検討内容」を相互の関連性をもって説明できる。 ・チームメンバーや教員と適切にコミュニケーションする。 ・課題解決の方針についてディスカッション（発言、表現、傾聴、調整など）する。 ・報告会において、自身のチームの発表での役を果たし、他チームの発表への傾聴・質問、全体討論などに参加する。 ・チーム活動全体、自己の発言や行動をリフレクションする。 	<p>【履修の手引きの参照】</p> <p>実習期間：IPW実習①8/29~9/1、IPW実習②10/4~10/7 （日程と内容）</p> <p>1日目 ○事前学習の確認・共有 ○チームのルールを確認 ○行動計画を教員ファシリテータと共に検討（シート2） ○事例の検討 ○リフレクション</p> <p>2日目 ○行動計画の修正 ○各専門職からの情報等の検討 ○事例の検討 ○個人学習 ○ディスカッション ○リフレクション</p> <p>3日目 ○行動計画の修正 ○各専門職からの情報等の検討 ○事例の検討 ○個人学習 ○ディスカッション ○リフレクション</p> <p>4日目 ○報告内容のまとめと報告の準備・練習 ○報告会 ○リフレクション</p> <p>*ディスカッションやリフレクションは主としてZoomミーティング等を利用する。</p>	<p>畔上、櫻井、宮部、黒田、千葉、滑川、井上、久保田、松尾、小泉、大岡、富田、久保田、秋山、井原</p>	<p>□</p>
-------------	---	--	---	----------

授業計画に関する特記事項			
この実習には、他大学の学生も含めると約520名が参加を予定している。			
教科書			
特になし			
参考書、教材等			
（参考書）IPWを学ぶ－利用者中心の保健医療福祉連携－（中央法規）、IPW実習履修の手引き			
評価方法			
事前学習の実施及びオリエンテーションの参加度（20%） 実習施設での実習及び報告会（4日間）の参加度（40%） 提出物（IPW実習最終レポート、シート他）の内容（40%）			
授業外における学習方法			
WebClassのメール等でお知らせするので、「事前学習シート」「リフレクションシート」「IPW実習最終レポート」などの課題について、よく説明を聞いて取り組んで頂きたい。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
この科目は彩の国連携科目となっています。県立大学の5学科の学生混合チームを基本とするが、一部の学生チームに埼玉医科大学（医学科）、城西大学（薬学・薬科学・医療栄養学）、日本工業大学（工学部 生活環境デザイン学科）の学生が参加する。保健医療福祉科目（ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習、IPW論、IPW演習）や専門科目などの中で培ってきた各自の力を出し合い、互いに研鑽して学修しよう。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/03/22 09:58

印刷 閉じる

シラバス詳細

専門基盤科目		専門基盤科目							
授業科目名									
カリキュラム2019									
家庭支援論 Family Relations									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	200400601	後期	水曜1限						
2	200400602	後期	水曜2限						
ナンバリング									
看護 :B_NRS1010、理学療法 :B_PHT1020、作業療法 :B_OCT1000、福祉学 :B_SSW1080、子ども学 :B_SCS1010、健康行動 :B_BHS1010、 口腔保健 :B_OHS1050									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入				専攻	編入		専攻	
1		1○	1○			1○		1○	
2	1○	3○			1○	3○	1○		
履修における注意点・履修条件等									
科目責任者	林 恵津子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義	
科目担当者									
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
授業は全て遠隔にて行う。 「家族」について学ぶためには、自分の中で「あたりまえ」「常識」となっている「家族の見方」をまず疑ってみることが必要となる。自らの家族経験を対象化し、相対化するところから、家族関係論は始まる。講義では、私たちのなかにある「家族イメージ」が実は「近代特有」のものであること、家族の役割や機能、関係性が時代とともに大きく変化していることを学ぶ。そのうえで、現代の家族が直面する諸問題、その困難について、背景や要因を探っていくこととする。家族をエンパワーするために「家族関係」へどうアプローチするのか、さまざまな観点から検討していく。									
学習のねらい									
家族や家庭が多様化し、家族をとりまく問題も複雑さを増している現在、保健、医療、福祉、教育といった専門分野を目指す人々にとっては「家庭支援」「家族援助」は欠かせないものとなっている。専門職として家庭と家族を支えるために何が必要か、個々人が自分で考えることができるような力を養うことが目標となる。子ども虐待、DV、高齢者虐待など、具体的な問題については、それらに関する法律や実践的知識を身につけることも目標となる。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○		○	○						
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要		担当教員	講演者				
1	自らの家庭・家族経験を対象化し相対化する。	家庭・家族って何だろう		林	<input type="checkbox"/>				
2	発達基盤としての家庭・家族の役割を理解する。	生まれ・育つ場としての家庭・家族		林	<input type="checkbox"/>				
3	少年犯罪、不登校、いじめ、貧困など子どもが直面している問題について理解する。	子どもが直面している問題		林	<input type="checkbox"/>				
4	青年期の親子関係を踏まえ、社会的自立について理解する	青年期の自立と親子関係		林	<input type="checkbox"/>				
5	家族と社会の関係について考える(1)	「家庭・家族問題」の発生		林	<input type="checkbox"/>				
6	家族と社会の関係について考える(2)	家族の個人化、多様化		林	<input type="checkbox"/>				
7	育児ストレスについて考える(1)	母性神話と孤独な子育て		林	<input type="checkbox"/>				
8	育児ストレスについて考える(2)	子ども虐待、面前DV		林	<input type="checkbox"/>				
9	育児ストレスについて考える(2)	子どもの貧困		林	<input type="checkbox"/>				
10	「家族福祉」の視点を獲得する	少子高齢化時代の家族と育児・介護		林	<input type="checkbox"/>				
11	対等な関係性について理解を深める	夫婦の対等な関係性		林	<input type="checkbox"/>				
12	これからの家庭・家族関係を考える(1)	これからの新しいパートナー関係		林	<input type="checkbox"/>				
13	これからの家庭・家族関係を考える(2)	再婚とステップファミリー		林	<input type="checkbox"/>				
14	これからの家庭・家族関係を考える(3)	ケアと家族		林	<input type="checkbox"/>				

15	家庭や家族のつながりについて考える	家族のあり方の変化	林	<input type="checkbox"/>	
教科書					
「新しい家族関係学」長津美代子、小澤千穂子(建帛社)					
参考書、教材等					
評価方法					
各回の小レポートで評価する。					
授業外における学習方法					
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント					
「家庭」「家族」は身近なものとされるだけに、逆に「見えない」ことも多い。多様な家族のあり方、新しい家族への考え方に触れることで、視野を広げてほしい。					
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報					
回	講演者氏名	講演の概要	備考		
最終更新日：2022/02/04 10:59				印刷	閉じる

シラバス詳細

専門基盤科目		専門基盤科目							
授業科目名									
カリキュラム2019									
臨床心理学 Clinical Psychology									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	200400801	後期	木曜1限						
ナンバリング									
看護 :B_NRS1010、理学療法 :B_PHT1010、作業療法 :B_OCT1000、福祉学 :B_SSW1080、子ども学 :B_SCS1010、健康行動 :B_BHS1010、口腔保健 :B_OHS1050									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福祉	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1	○	◎	◎	○	◎	○		○	
履修における注意点・履修条件等									
担当教員：市村 彰英									
科目責任者	市村 彰英	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義				
科目担当者									
科目に関連する実務経験	○	科目責任者は本大学の教員に就任する前の20年間は家庭裁判所調査官をしてきた。公認心理師の国家資格と日本臨床心理士認定協会の臨床心理士の資格を有している。							
授業の概要									
臨床心理学 (clinical psychology) とは、何らかの心や行動の問題を持つ人々に対して、心理的な知識や技術を用いて援助する実践学であると同時に、その実践のための理論や技術について研究する学問である。授業では、人間心理の理解、理解のための方法、さらには援助方法について学ぶ。臨床心理学を支える基本的理論、発達理論、人格理論、心理査定、さまざまに専門分化した臨床心理学の各領域について触れる。									
学習のねらい									
心の課題を持つ利用者の支援を行うのは臨床心理士だけではなく、利用者に関わっているいろいろな専門家が協働していくことが大切であるということが理解できる。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○	○						
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	定義を明確にする。	1 オリエンテーション : 授業の進め方を説明する。	市村	□					
2～3	臨床心理学で扱う内容を把握する。	2 臨床心理学とは何か① : 心の悩みの多様性、心の葛藤について学ぶ。臨床心理学の範囲と関連領域を説明する。 3 臨床心理学とは何か② : コミュニティ援助、危機介入とコンサルテーション、IPW (インタープロフェッショナルワーク) についても考える。	市村	□					
4～5	発達に応じた支援の必要性を理解する。	4 臨床心理学のいろいろな概念① : 各発達段階における課題と問題について学ぶ。乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期に分けて考える。 5 臨床心理学のいろいろな概念② : フロイト、エリクソン、ピアジェのパーソナリティー理論についてその関連性を学ぶ。	市村	□					
6～8	精神障害全般を理解する。	6 心に現れる様々な症状① : DSM (精神障害の診断と統計のためのマニュアル) に基づいたいろいろな精神障害について学ぶ。統合失調症 (精神分裂病)、気分障害 7 心に現れる様々な症状② : 不安障害、身体表現性障害、摂食障害 (拒食症と過食症)、性同一性障害、PTSD (心的外傷後ストレス障害)。	市村	□					

		8心に現れる様々な症状③ : 人格障害, 解離性同一性障害 (多重人格), 自閉症, アスペルガー, 注意欠陥多動障害 (ADHD), 心身症など。		
9~12	心理療法を理解する。	9心の問題を解決する治療法① : 来談者中心療法 10心の問題を解決する治療法② : 精神分析療法 11心の問題を解決する治療法③ : 認知行動療法 12心の問題を解決する治療法④ : 交流分析, 家族療法, 自律訓練法など	市村	<input type="checkbox"/>
13~14	心理アセスメントの必要性を理解する。	13心の状態を診断するアセスメント (査定) ① : 心理面接によるアセスメントを学ぶ。心理テストによるアセスメントを学ぶ。質問紙法。 14心の状態を診断するアセスメント (査定) ② : 心理テストによるアセスメントを学ぶ。作業検査法, 投映法。	市村	<input type="checkbox"/>
15	資格について確認する。	15臨床心理学に関する資格と現場。全体の振り返りとまとめ : 臨床心理士の資格について学ぶ。いろいろな臨床心理 学的実践の現場について学ぶ。スーパービジョンの重要性を認識する。	市村	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
授業は原則対面で行いますが、オンライン授業 (zoom) で行う場合には、接続方法に関するURLなどは1週間前までに皆様にWebClasseでご連絡いたします。				
教科書				
教科書は用いない。 参考書: よくわかる臨床心理学 (ミネルヴァ書房) 下山晴彦編 教材はレジュメを配布する。				
参考書、教材等				
評価方法				
レポート50点, 授業への参加度50点。				
授業外における学習方法				
学ぶ項目に関する文献を研究するだけでなく、ニュースや新聞などにも目を向け、生きた臨床心理学を習得してください。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
人が人を理解する方法はいろいろあります。それはいろいろなすそ野から山に登っていくようなものかもしれません。ここではその基本になる理論や技法を学んでみましょう。そのうちに先ずは自分自身のことが理解できるようになるかもしれません。				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/03/22 16:58				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

専門基盤科目		専門基盤科目							
授業科目名									
カリキュラム2019									
老年医学 Geriatrics									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	200402601	後期	火曜3限						
ナンバリング									
理学療法 :B_PHT2020、作業療法 :B_OCT2000、福祉学 :B_SSW2080、健康行動 :B_BHS2000、口腔保健 :B_OHS2050									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1		2○	2○	2○	3○	2○		2○	
履修における注意点・履修条件等									
講義はZoomによるライブ配信（双方向性）である。すなわち講義中に教員から学生に対して質問したり、学生同士でのディスカッションの時間などがあるため、受講時は発言できる環境（マイクが使える環境）を整備すること。「見逃し配信」はないので注意。 出席登録は WebClass で行う。講義（Zoomミーティング）に参加しただけでは、出席扱いにならないので、注意すること。 またその際、基本的にはネットワーク接続不良等による出席登録変更などは、一切考慮しない（判定できないため）。									
科目責任者	滑川 道人			単位数・時間数	1 単位 15 時間		授業形態	講義	
科目担当者									
科目に関連する実務経験	○	24年間、自治医科大学および同附属病院にて内科医（内科専門医、脳神経内科専門医、脳卒中専門医）として、臨床、教育、研究に携わってきた。							
授業の概要									
「老年学 (Gerontology)」は、医学、心理学、経済学、社会学、社会福祉学などを広く包括する総合科学である。特にこの講座では「老年医学 (Geriatrics)」に焦点を当て、加齢・老化に伴う生理的変化、高齢者に多い疾患の概念、リハビリテーションと介護に関する問題を学ぶ。									
学習のねらい									
保健医療福祉学の学生に必要な老年医学についての基本的な知識を学ぶ。 人口の高齢化と医学・医療に関連する領域について学ぶ。 生理的な老化と高齢者に多い疾患について基礎的な医学知識の基本を学ぶ。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域		
○	○		○		○				
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者	
1	老年学の全体像を理解し、老年医学の立ち位置を説明できる。			老年医学総論 (1) : 老化、限界寿命、寿命の性差、健康寿命、長寿の要因など			滑川	□	
2	高齢者に特徴的なフレイル、廃用症候群、老年症候群などの特徴的な概念を理解し、高齢者総合機能評価について説明できる。			老年医学総論 (2) : 老年者の特徴や症候、寿命、加齢性変化の分子生物学			滑川	□	
3	サルコペニア、ロコモティブ症候群について説明できる。			老年医学各論 (1) : 運動器系 (筋・骨格器) の老化と疾患			滑川	□	
4	脳卒中や虚血性心疾患、慢性閉塞性肺疾患、誤嚥性肺炎などの発症機序、症候、診断、治療、臨床経過、予後について説明できる。			老年医学各論 (2) : 循環・呼吸器系の老化と疾患			滑川	□	
5	加齢にともなう腎不全、排尿障害、性機能障害について説明できる。			老年医学各論 (3) : 腎・泌尿・生殖系系の老化と疾患			滑川	□	
6	認知症、老年性精神病などの発症機序、症候、診断、治療、臨床経過、予後について説明できる。			老年医学各論 (4) : 精神機能の老化と疾患			滑川	□	
7	視力障害、聴覚障害、嗅覚障害、感覚障害、およびパーキンソン症候群をはじめとした神経変性疾患の発症機序、症候、診断、治療、臨床経過、予後について説明できる。			老年医学各論 (5) : 神経系・感覚器系の老化と疾患			滑川	□	
8	全体のまとめ			老年医学 : まとめ			滑川	□	
授業計画に関する特記事項									
講義予定に変更のある場合など、学生との連絡は、基本的にはすべてWebClass のメールを通じて行う。 講義は、Zoomを利用したオンライン講義（リアルタイム配信）である。オンデマンド配信はないので、注意すること。 講義資料は、あらかじめ WebClass にアップしておくので、講義前に目を通しておくと、当日の理解が深まる。									

教科書			
指定しない			
参考書、教材等			
『健康長寿診療ハンドブック-実地医科のための老年医学のエッセンス』日本老年医学会（編）（メジカルビュー社） 『老年医学系統講義テキスト』日本老年医学会（編）（西村書店） 『老年医学テキスト』日本老年医学会（編）（メジカルビュー社） 『新老年学（第3版）』大内尉義、秋山弘子（編）（東京大学出版会）			
評価方法			
毎回、講義の最後に10分間、WebClass で小テストを実施し、評価の基本とする。また講義での発言、質疑応答を含めた参加状況を重視する。			
授業外における学習方法			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
老年学の中でも特に医学分野に特化した内容の講義。内科学、脳神経内科学、リハビリテーション医学を含め幅広い知識が必要だが、内科学を勉強していない社会福祉子ども学科社会福祉学専攻の学生にも門戸を開く。その場合は、基礎的な内科学の知識をあらかじめ習得しておくこと。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日: 2022/02/21 10:27			
			印刷 閉じる

シラバス詳細

専門基盤科目		専門基盤科目										
授業科目名												
カリキュラム2019												
生理学特論 Advanced Physiology												
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限									
1	200400501	後期	水曜2限									
ナンバリング												
理学療法 :B_PHT1020、作業療法 :B_OCT1000												
配当年次 および 必須 (○)・選択 (○) の別												
No.	看護 編入	理学	作業		社福 専攻	編入	福子	行動 専攻	編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1		1○	1○									
履修における注意点・履修条件等												
必修科目であることを充分に自覚して対処すること。												
科目責任者	田中 健一	単位数・時間数	1 単位 30 時間	授業形態	演習							
科目担当者	池田正明											
科目に関連する実務経験												
授業の概要												
生理学で学んだ基礎知識を基に、理学療法・作業療法の基盤となる生理学として、神経系（感覚を含む）ならびに筋骨格系に特化して、より専門的な知識を理解し、修得することを目標とする。また、本講義では、臨床医学で学ぶ疾病・病態についても、病態生理学の立場から、神経系および筋骨格系の代表的な疾病について、併せて学ぶ予定である。												
学習のねらい												
生理学特論は、理学療法学科・作業療法学科の基礎医学分野の専門科目として、位置付けられており、今後学ぶ、理学療法・作業療法分野の専門科目を学ぶ上で基盤となる科目といえる。生理学総論よりは、扱う分野を限定することで、より専門的な知識を学ぶことになるが、細かい知識を覚えることが重要なのではなく、神経・感覚・筋骨格系ならびに人体丸ごとの機能について、基本的な事項を含めて、より確実に理解することが重要と考える。												
関連するディプロマポリシー												
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域								
○		○										
授業の到達目標及び授業概要												
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者								
1	神経の活動電位と情報伝達について学ぶ。	シナプスと神経情報伝達	田中	<input type="checkbox"/>								
2	自律神経の働きについて学ぶ。	自律神経による生体制御	田中	<input type="checkbox"/>								
3	神経による反射の制御機構について学ぶ。	反射の神経機構	田中	<input type="checkbox"/>								
4	運動における骨格筋の働きについて学ぶ。	運動における筋の働き	田中	<input type="checkbox"/>								
5	随意運動のメカニズムとその異常について学ぶ。	運動制御とその病態	田中	<input type="checkbox"/>								
6	体性感覚の異常について学ぶ。	体性感覚の正常と異常	田中	<input type="checkbox"/>								
7	前半のまとめを兼ねて、運動生理学等との関連性について理解する。	運動の統合生理	田中	<input type="checkbox"/>								
8	脳の特徴を学ぶ。	脳の構造と機能	田中	<input type="checkbox"/>								
9	学習記憶のメカニズムについて学ぶ。	神経可塑性と記憶	田中	<input type="checkbox"/>								
10	情動のメカニズムについて学ぶ。	情動の脳科学	田中	<input type="checkbox"/>								
11	感覚情報の脳における処理機構について学ぶ。	感覚情報の処理機構	田中	<input type="checkbox"/>								
12	意識とは何かを理解し、脳と心の関係を学ぶ。	社会脳－自己と他者	田中	<input type="checkbox"/>								
13	概日リズムについて学ぶ。	概日リズム	田中	<input checked="" type="checkbox"/>								
14	意思決定及び行動選択について学ぶ。	嗜好から依存・嗜癖へ	田中	<input type="checkbox"/>								
15	高次脳機能の病態について学ぶ。	高次脳機能と病態制御	田中	<input type="checkbox"/>								
授業計画に関する特記事項												
授業方式は対面授業を中心に一部遠隔を組み合わせたハイブリッド型で行う予定であるが、詳細は決定次第、WebClass等で連絡する。また、適宜、必要に応じて、「WebClassのメッセージ機能」を活用して情報発信するので、自ら、折に触れて、WebClassを確認すること。												
教科書												
教科書は特に設けず、授業ごとに、プリントを配布する予定。												

参考書、教材等			
参考書等は授業中に紹介する。			
評価方法			
定期試験の結果を中心に課題等の提出状況や受講態度などにより、総合的に評価する。			
授業外における学習方法			
授業プリント並びにノート等を参考に自分なりに授業内容を理解し、他人に説明できるようにする。 特にプリントで示した図表について、簡潔な文章で表現できるようにしておくことが望ましい。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
基礎生理学である1年前期の生理学の履修が前提のため、生理学特論の予習として、理解が不十分な点については、生理学の復習をすることを強く望む。 また、1年後期の授業科目であり、かつ、理学療法学科・作業療法学科の専門必修科目であるため、履修者には、真摯な授業態度と積極的な勉学への取り組みを強く希望する。なお、授業ならびに生理学の勉強方法など、向学心に富む質問はどんなに稚拙な質問でも大歓迎である。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
13	池田 正明	概日リズムのメカニズムと睡眠について特別講義を行う。	演者の都合により日程が前後する場合があります。
最終更新日: 2022/02/25 17:26			
			印刷 閉じる

シラバス詳細

専門基盤科目		専門基盤科目						
授業科目名								
カリキュラム2019								
内科学臨床講義 Lectures on Clinical Medicine								
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限					
1	200401601	後期	火曜3限					
ナンバリング								
理学療法 :B_PHT2020、作業療法 :B_OCT2000								
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別								
No.	看護 編入	理学 作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1		2○ 2○						
履修における注意点・履修条件等								
内科学の知識が必須なため、「内科学（系統講義）」を履修した者のみが受講できる。 内科学系統講義で学んだ基礎知識をもとに、症例を呈示する。その症例について多方面から検討する。								
科目責任者	滑川 道人	単位数・時間数	1単位 15時間	授業形態	講義			
科目担当者	滑川道人							
科目に関連する実務経験	○	24年間、自治医科大学および同附属病院にて内科医（内科専門医、脳神経内科専門医、脳卒中専門医）として、臨床、教育、研究に携わってきた。						
授業の概要								
内科学（系統講義）で学んだ基礎知識をもとに、呈示された症例を多方面から検討する。								
学習のねらい								
呈示された症例をもとに、必要な診察法、検査、診断、治療法、予後（臨床経過）を学ぶ。								
関連するディプロマポリシー								
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域				
○	○	○	○					
授業の到達目標及び授業概要								
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者				
1	内科学を俯瞰する	イントロダクション	滑川	<input type="checkbox"/>				
2	老化、加齢性変化について理解する	ふらつき、転倒	滑川	<input type="checkbox"/>				
3	生活習慣病について理解する	突然の胸痛	滑川	<input type="checkbox"/>				
4	悪性腫瘍について理解する	体重減少、下血	滑川	<input type="checkbox"/>				
5	感染症について理解する	呼吸苦	滑川	<input type="checkbox"/>				
6	脳卒中について理解する	突然の片麻痺	滑川	<input type="checkbox"/>				
7	神経変性疾患について理解する	物忘れ	滑川	<input type="checkbox"/>				
8	臨床内科学を俯瞰する	まとめ	滑川	<input type="checkbox"/>				
授業計画に関する特記事項								
各講義では、症例を呈示する。その症例について検討しつつ、基礎的知識を応用する能力を身につける。 講義はZoomを利用したオンライン講義（ライブ配信）である。オンデマンド配信は予定していない。 出席登録は WebClass で行う。講義（Zoomミーティング）に参加しただけでは、出席扱いにならないので、注意すること。 またその際、基本的にはネットワーク接続不良等による出席登録変更などは、一切考慮しない（判定できないため）。								
教科書								
指定しない。								
参考書、教材等								
『病気がみえる シリーズ』（Medic Media社）分野ごとにわかれており、全13冊（1冊：3000～5000円）。図表が多く、カラフルで見やすい。特に理学・作業の学生は、Vol. 1（循環器）とVol. 3（脳・神経）は購入を勧める。ただ参考書はどれも人により、合う、合わないがあるので、一度みてから購入を決意した方がよい。図書館、および保健センターには全巻取り揃えている。								
評価方法								
各回の終了時に10分程度の小テストを WebClass で実施し、これを評価の基本とする。また講義における質疑応答、グループ討論などの参加状況を重視する。								
授業外における学習方法								
内科学の基礎知識が不可欠なので、復習しておくこと。								

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

前期の内科学系統講義では、オンデマンド配信のみだったため、後期はZoomを利用し、リアルタイム配信する。
講義の「見逃し配信（録画のオンデマンド配信）」はないので、注意すること。
実臨床に即した実践的な講義を実施する。
内容は、理学・作業の両学科を特に意識し、内科の中でも循環器と呼吸器、そして脳神経内科領域に焦点を絞っている。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日: 2022/02/21 10:28

印刷

閉じる

シラバス詳細

看護学専門科目		看護学専門科目								
授業科目名										
カリキュラム2019										
成人看護学 I (総論) Adult Nursing I										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	211001101	後期	木曜4限							
ナンバリング										
B_NRS1210										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福 専攻	福子 編入	行動 専攻	編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
	編入									
1	1◎	3○								
履修における注意点・履修条件等										
成人看護学実習 I・II・III履修の先修条件科目である。										
科目責任者	鈴木 玲子			単位数・時間数	1 単位 15 時間		授業形態	講義		
科目担当者	渋谷えり子									
科目に関連する実務経験	○ 看護師経験を生かし、成人期の対象者の特徴、成人者への看護の役割、成人保健の動向について講義を行う。									
授業の概要										
成人看護の対象を理解するとともに、成人看護学を構成する主要な概念や理論について学習する。 成人期にある対象の成長・発達ならびに生活、健康の特徴、成人保健の動向と対策、生活習慣と健康破たんとの関連、健康の維持・増進、疾病予防など、健康レベルに応じた看護援助の基本を学ぶ。さらに、成人期にある対象の看護に必要な理論や概念モデルについても学習する。										
学習のねらい										
ライフサイクルにおける成人期にある人を身体的、精神的、社会的側面から総合的に捉え、あらゆる健康レベルにある成人者とその家族の看護上のニーズ、対象の特性に応じた看護の必要性を理解するための知識と看護実践に役立つ諸理論を習得する。										
関連するディプロマポリシー										
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域						
				○						
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要				担当教員	講演者			
1	成人期にある人の心身の変化および発達課題の特徴を理解する。	・成人期の心身の特徴（成長から老化） ・成人各期の発達課題（青年期/壮年期/向老期）				鈴木	<input type="checkbox"/>			
2	成人各期にある人の身体的・精神的・社会的特徴、生活の特徴を説明できる。	・成人各期の保健上の課題 ・健康障害と生活習慣の関係 ・成人保健問題の動向と関連要因①				鈴木	<input type="checkbox"/>			
3	成人期に関する保健・医療・福祉の動向を説明できる。	・成人保健問題の動向と関連要因② ・ヘルスプロモーション（健康21）				鈴木	<input type="checkbox"/>			
4	急性期にある人の健康レベルからみた健康障害の特徴を説明できる。	・健康レベルが心身にもたらす影響 ・健康レベルが家族機能への影響 ・対象理解に活用できる理論 （危機理論 ストレス・コーピング理論）				鈴木	<input type="checkbox"/>			
5	回復期・リハビリテーション期にある人の健康レベルからみた健康障害の特徴を説明できる。	・健康レベルが心身にもたらす影響 ・対象理解に活用できる理論（セルフケア論） ・家族機能への影響				渋谷	<input type="checkbox"/>			
6	成人者への看護介入に有効な理論やモデルの概要が説明できる。	・成人学習理論 ・エンパワメント ・コンプライアンスとアドヒアランス ・自己効力感				渋谷	<input type="checkbox"/>			
7	慢性期および終末期にある人の健康レベルからみた健康障害の特徴を説明できる	・健康レベルが心身にもたらす影響 ・対象理解に活用できる理論（病気の不確かさ・喪失）				鈴木	<input type="checkbox"/>			
8	まとめ	CBTによる試験				鈴木	<input type="checkbox"/>			
授業計画に関する特記事項										
「アクティブ・ラーニング」を取り入れ、学生と教員が双方向でやり取りする授業展開を考えています。予習課題を事前に学習していただく予定です。										
教科書										

成人看護学概論 林・鈴木他（南江堂）			
参考書、教材等			
人口動態統計/国民生活基礎調査/厚生労働白書/国勢調査など、厚生労働省HPから得られる最新情報			
評価方法			
各授業後の確認テスト（35%） C B Tによるテスト（65%）			
授業外における学習方法			
厚生労働省の取り組む健康事業のニュースに目を向けてください。 事前学習(予習)と事後学習(復習)は必須となります。計画的な学習を心がけてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
成人期の成長と発達、健康と病、生活の調整について理解するとともに、受講生自身も自己の健康増進に関心を持ちながら学んでください。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日: 2022/02/25 16:10			
			印刷 閉じる

シラバス詳細

看護学専門科目		看護学専門科目	
授業科目名			
カリキュラム2019			
母性看護学Ⅰ（総論） Maternal Nursing & Women's Health I			
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限
1	211002401	後期	木曜4限
ナンバリング			
B_NRS1210			
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別			
No.	看護	理学	作業
	編入		
1	1◎ 3○		
履修における注意点・履修条件等			
科目責任者	鈴木 幸子	単位数・時間数	1単位 15時間
科目担当者	兼宗美幸、齋藤恵子		
科目に関連する実務経験	○	助産師として病院や海外での臨床経験のある教員が、その経験を活かして女性のライフステージ各期の健康問題、母性看護学の役割について講義を行う。	
授業の概要			
母性看護学の概念と母性看護学を学ぶ上で必要となる倫理について学ぶ。また、母性看護の対象を取り巻く社会、保健制度およびその変遷についても学ぶ。ライフステージ各期における性と生殖に関する健康課題、ジェンダーと関連する健康課題について理解し、思春期から更年期、周産期にある個人、家族、集団のそれぞれに対する看護を学ぶ。学籍番号の奇数/偶数により教室での対面授業と遠隔授業を交互に受けられるようにする。			
学習のねらい			
人間の生涯を通じたリプロダクティブヘルス/ライツについてわが国だけでなく世界の状況も含めて理解すること、およびライフステージごとの性と生殖に関わる健康についてからだところ、生活、社会の側面から統合的に理解していく。またそのライフステージごとに必要な看護の特徴について看護の専門性として学ぶ。			
関連するディプロマポリシー			
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合
○			○
授業の到達目標及び授業概要			
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員
1	母性・父性・親性について理解する。	母性・父性・親性について学び、それらを育む看護の特徴について理解する。(奇数：対面)	鈴木
2	リプロダクティブヘルス/ライツについて知り、日本の母子保健の現状から課題を考えることができる。	リプロダクティブヘルス/ライツとは何か、世界と、わが国のリプロダクティブヘルス/ライツの状況、わが国の母子保健の発展について学ぶ(偶数：対面)	鈴木
3	ライフステージごとの性と生殖にかかわる健康課題と看護の特徴を理解できる。	周産期の家族の生活や文化から健康との関連や看護について学ぶ(奇数：対面)	齋藤
4	ライフステージごとの性と生殖にかかわる健康課題と看護の特徴を理解できる。	思春期の性と生殖に関わる健康と看護について学ぶ(偶数：対面)	鈴木
5	ライフステージごとの性と生殖にかかわる健康課題と看護の特徴を理解できる。	成熟期の性と生殖に関わる健康と看護について学ぶ(奇数：対面)	鈴木
6	ライフステージごとの性と生殖にかかわる健康課題と看護の特徴を理解できる。	更年期・老年期の性と生殖に関わる健康と看護について学ぶ(偶数：対面)	鈴木
7	女性の健康と社会のありかたについて理解できる。	女性の健康とDV被害、被害者支援について学ぶ(奇数：対面)	兼宗
8	まとめ	学習内容の総括、知識の確認	鈴木
授業計画に関する特記事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・「母性」という科目名ではあるが、広く人間の性と生殖、そのケアについて学習する。 ・身近な女性へのインタビューをもとにしたレポートを課す。 			
教科書			
「看護学テキストNICE 母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル(第2版)」大平光子編著(南江堂)			
「看護学テキストNICE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル(第2版)」大平光子編著(南江堂)			
参考書、教材等			

評価方法			
Webclassによる小テスト（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%） 筆記試験を受けるためには2/3以上の出席が必要となる。 再試験は1回に限り実施することがある。			
授業外における学習方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布資料をwebclassで掲示するので見ておくこと。 ・復習として各回の終了後にWEBによる小テストを実施する。 			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の健康を主に扱うが、男性の学生にも当事者意識を持ってもらえるよう配慮する。 ・学生が授業に関する感想、意見、質問などを発表する機会を設ける。質問の回答はWebclass等で行う。私語や飲食は適宜注意する。 			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日: 2021/12/27 14:38			印刷 閉じる

シラバス詳細

看護学専門科目		看護学専門科目												
授業科目名														
カリキュラム2019														
グローバルヘルスと看護 Global Health & Nursing														
No.	時間割番号		開講時期						曜日・時限					
1	211003201		後期						月曜3限~4限					
ナンバリング														
B_NRS4210														
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別														
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職	
	編入					専攻	編入		専攻	編入				専攻
1	4◎	4◎												
履修における注意点・履修条件等														
対面授業を原則としますが、オンライン授業（zoom）で行うこともあります。 授業資料はweb classに掲載します。														
科目責任者		齋藤 恵子			単位数・時間数			2単位 30時間		授業形態		演習		
科目担当者		山口乃生子、千葉真希子、四ノ宮美保、河村ひろ、齋藤恵子、仲佐保、大角晃弘、名西恵子												
科目に関連する実務経験		○ 国内外での国際保健・看護活動の実践経験を持つ教員が、その経験を活かして講義を行う。												
授業の概要														
保健医療福祉の問題は国境を越えて広がり、当事国のみでは解決し難い問題が増えている。看護職においてもグローバルな視点で物事を考え、実践する能力が求められている。この講義では、世界の現状を認識し、他国との相互関係や協力を考えながら、国や地域における健康格差や医療福祉サービスの不平等の実態・背景・解決策を明らかにし、看護職者としての役割や機能を理解することを目的とする。また、国際協力の現場経験が豊富な、地域保健、災害援助、母子保健などの専門家を講師として招聘し、国際協力の実体験を基にした講義を行い、看護専門職者としての国際的視野を広げるのみならず、保健医療福祉分野の幅広い領域で国際的活動に寄与しうる人材を育成する。														
学習のねらい														
グローバルヘルスの現状と課題、多文化共生社会における看護の看護役割と国際活動の実践について理解できる。また、国際支援の必要な幅広い領域の専門家と支援対象者の「連携と協働」を学ぶ。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域		
○						○			○			○		
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者			
1	グローバルヘルス・看護の共通基盤となる理念・基本的な考え方、対象となる人や集団・社会の特性、連携・協働による実践方法を理解する。				"・科目オリエンテーション 1.国際看護の概念と対象 2.世界の健康課題を理解する上での基本概念 1) 健康の定義と測定 2) 世界の健康格差、健康課題 3) 世界の健康改善への取り組み (PHC、リプロダクティブヘルス/ライツ、MGDs、SDGs、UHC)				齋藤		□			
2	国際社会における開発の重要性と健康課題について、総合的かつ多角的視点から理解できる。				世界の健康課題に関連する国際機関、国際協力機関 開発と健康および人間開発				山口		□			
3	地球規模で検討すべき水と衛生に関する問題と、持続可能な取り組みについて理解できる。				水と衛生に関する問題				四ノ宮		□			
4	HIV/AIDS、ハンセン病など、病気によって付与されやすいスティグマへの看護実践、エンドオブライフケアにおける海外の状況などを通して、対象者や家族への人権擁護と尊厳あるケアについて理解できる。				健康と人権、病気とスティグマ、エンドオブライフケア				山口		□			
5	国際協力における母子保健活動実際に活動を理解できる。				国際協力としての看護実践（母子保健活動、5S）				千葉		□			
6	低・中所得国における子どもの健康問題に対する取り組みと今後の課題を理解できる。				子どもの健康				名西		□			
7	HIV/AIDSと結核の予防・診断・治療・対策についての基本的事項が理解できる。				感染症対策（HIV/AIDS・結核）				大角		□			

8	多様な文化・社会・言語背景をもつ在留外国人・訪日外国人。海外に渡航する日本人の健康課題の健康課題と看護の役割を理解できる。	文化の多様性と看護	齋藤	<input type="checkbox"/>
9	世界規模の健康課題である災害、感染症のマネジメントを通して国際緊急援助について理解する。	災害マネジメント・国際緊急援助	仲佐	<input type="checkbox"/>
10	開発途上国における保健システムを理解できる。	地域保健システムの構築	仲佐	<input type="checkbox"/>
11	国連障害者権利条約の趣旨および国内法への影響を理解できる。	障害施策分野における進展	河村	<input type="checkbox"/>
12	「やさしい日本語」が必要な背景を理解し、「やさしい日本語」の基礎を理解できる。 模擬患者とのロールプレイを通して「やさしい日本語」を体験し、伝えるための工夫と共に「相手に合わせる」ことの意味と大切さについて理解できる。	「やさしい日本語」でコミュニケーション	齋藤、山口	<input checked="" type="checkbox"/>
13	オーストラリアで看護師として働く卒業生の講義を通して、海外における看護活動の実際について理解できる。	オーストラリアの看護活動の実際	齋藤、山口	<input checked="" type="checkbox"/>
14	JICA埼玉デスクと共催でボランティアセミナーの開催と卒業生の体験報告を聴き、国際協力活動の実践が理解できる。	JICAボランティアセミナー	齋藤、山口、千葉	<input checked="" type="checkbox"/>
15	大学院進学や就職を通して国際協力を仕事する魅力を感じることができる。開発途上国の非感染性疾患の現状と対策についても理解できる。	国際協力を仕事にする	齋藤、山口	<input checked="" type="checkbox"/>
16	架空事例を用いて異なる文化・宗教に配慮した看護のためのアセスメントを理解できる。	事例検討・発表	齋藤、山口	<input type="checkbox"/>

授業計画に関する特記事項

第12回「やさしい日本語」でコミュニケーション：11月14日(月)4時限→10月25日(火)へ変更になります。

教科書

教科書：看護学テキストNICE「国際看護」編集：森淑江/山田智恵里/正木治恵（南江堂）

参考書、教材等

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3]（医学書院）
国際機関のホームページの情報を適宜活用

評価方法

小テスト（30%）、演習を基礎としたレポート（70%）にて評価

授業外における学習方法

事前学習として、テキストの該当範囲を熟読して授業に臨んでください。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考
10	上田菜々子	海外（豪州）での看護活動、看護実践	本学卒業生による講演
12	未定	模擬患者（2名）	
14	矢田部建佑 茂佐知子	JICA埼玉デスク担当者および青年海外協力隊経験者の活動	本学卒業生による講演
15	青木浩司	開発コンサルタントとしての国際的な活動	本学卒業生による講演

最終更新日：2022/06/14 16:57

印刷 閉じる

シラバス詳細

理学療法学専門科目		地域理学療法学科目									
授業科目名											
カリキュラム2019											
生活環境学 Human Environment											
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限								
1	213003001	前期	金曜3限								
ナンバリング											
B_PHT2410											
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別											
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻	編入	福子	行動 専攻	編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1		2◎									
履修における注意点・履修条件等											
他の理学療法専門科目に準じる											
科目責任者	田口 孝行		単位数・時間数	1単位 15時間		授業形態	講義				
科目担当者											
科目に関連する実務経験											
授業の概要											
<p>リハビリテーションは人間の生活を対象とする分野である。人間の生活は、その人を取り巻くさまざまな環境との関係で成り立っている。したがって、生活環境といった場合、物理的な環境のみならず、人的環境や社会的環境などが絡み合って併存している。</p> <p>本講義では、障がい者を有する者が自立して生活しようとするとき、それを取り巻く生活環境（主に物理的環境）がどのようなバリアとして現れてくるかについて理解し、その改善方法（特にリハビリテーション領域）の基礎を学ぶ。また、生活環境に関する社会的制度や施策の現状を理解するための基礎を学ぶ。</p>											
学習のねらい											
<ol style="list-style-type: none"> 生活環境整備を必要とする障がい者の身体的特徴を説明できる。 居住環境整備のポイントについて説明できる。 福祉用具の使用目的・選択方法について説明できる。 生活環境整備に関する法制度等について説明できる。 											
関連するディプロマポリシー											
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域							
○											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標	授業概要				担当教員	講演者				
1回	(6/17:Ⅲ) 障がい者の物理的環境下における行動特性を説明できる。	1. 生活環境の概念 1) 生活環境の定義 2) 障がい者の行動特性				田口	<input type="checkbox"/>				
2回	(6/24:Ⅲ) 身体機能特性とバリアフリーデザインについて説明できる	2. 車椅子使用者と杖歩行者の住宅環境 1) 車椅子・杖に関する基本 2) 生活環境整備を必要とする人々の障がいの特徴 3. 身体機能とバリアフリーデザイン 1) 座位保持・バランス能力と住宅環境 2) プッシュアップによる移動能力と住宅環境 3) トランスファー（移乗）能力と住宅環境				田口	<input type="checkbox"/>				
3回	(7/1:Ⅲ) 家屋調査のポイントについて説明できる	4. 居住環境の整備(1) (家屋調査のポイント) 1) 家屋調査のポイント 2) 住宅改造に関わる職種 3) 身体能力評価(基本評価) 4) 家屋評価項目(最低限) 5) 家屋評価の具体的方法 ※自宅の図面作成(宿題)				田口	<input type="checkbox"/>				
4回	(7/8:Ⅲ) 家屋改造のポイントについて説明できる	5. 居住環境の整備(2) (家屋改造のポイント) 1) 改造案の作成のポイント 2) 家屋改造の具体例 3) 近隣の生活環境調査				田口	<input type="checkbox"/>				
5回	(7/15:Ⅲ) 福祉用具に関する選択・指導のポイン	6. 福祉・リハビリテーション関連機器				田口	<input type="checkbox"/>				

	トについて説明できる	1) 福祉用具の目的 2) 福祉用具使用・家屋改造における指導の選択肢 3) 日常生活活動と福祉用具 4) 福祉用具使用決定に必要な情報のポイント		<input type="checkbox"/>
6回	(7/22:Ⅲ) 住環境整備に関する法的制度について説明できる	7. 法的・制度的環境 1) 介護保険サービスの概要 2) 「住宅改修・福祉用具購入・レンタル」 3) 住宅改修の工事金額の目安	田口	<input type="checkbox"/>
7回	(7/29:Ⅲ) 在宅リハビリテーションにおける家屋改造のポイントについて説明できる	8. 在宅リハビリテーションにおける家屋改造の実践 ゲスト講師: 菊地裕美 (介護老人保健施設一心館)	田口	<input checked="" type="checkbox"/>
8回	(8/5:Ⅴ) 生活環境について説明できる	まとめ、試験	田口	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
第8回目 (7/30) の時間がそれまでとは異なることに注意！Ⅴ限です。				
教科書				
標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版 (医学書院)				
参考書、教材等				
バリアフリーの生活環境論第3版 (医歯薬出版)				
評価方法				
出欠・宿題・試験による総合評価				
授業外における学習方法				
「授業外の予習」教科書を読んで授業に臨んでもらえれば、さらに理解が深まると思います。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
各自の家屋について注視して見てください。また、車いす生活となった場合、自宅のバリアーはどのような所で、どのようなバリアーとなりそうかを考えてみてください。 スライドを使用した授業が多いと思います。				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
7回	菊地裕美	在宅リハビリテーションにおける家屋改造の実践	介護老人保健施設 一心館・係長	
最終更新日: 2022/03/10 07:40				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

理学療法学専門科目		応用地域理学療法技術学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
理学療法応用技術学C (生活環境支援) Applied Physical Therapy Techniques (Assisted Living Environments)									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	213003501	後期	木曜2限						
ナンバリング									
B_PHT3530									
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1		3○							
履修における注意点・履修条件等									
科目責任者 田口 孝行 単位数・時間数 1単位 15時間 授業形態 講義									
科目担当者									
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
理学療法では、身体的機能改善のための技術のみならず、後遺症が残存した場合は、代償機能の獲得や生活環境整備も合わせて行い、生活機能の改善につなげる技術が必要である。本科目では、生活環境支援の考え方の基本を学び、各種疾患に対する生活環境支援と適応についての具体的実践例も提示する。									
学習のねらい									
これまでに学んできた各種障害と理学療法技術(生活環境に関連する知識・技術)とを結びつける。生活環境と身体機能との関係には密接な関係があることを学ぶ。代償的アプローチ、環境改善アプローチを中心に学ぶ。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○		○							
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
第1回	理学療法における生活環境支援の基本的な考え方を理解する	11月10日(木)Ⅱ 1. オリエンテーション 2. 理学療法における環境の考え方 1) 高齢者が抱える生活上のリスク 2) 環境設定における検討着目点	田口	<input type="checkbox"/>					
第2回	身体障害と環境が結びついてADLが成立することを理解する	11月17日(木)Ⅱ 3. ADLと環境 1) ADL評価の基本 2) ADLとIADL 3) ADL評価の際の着目点 4) 基本的ADLの評価のポイント	田口	<input type="checkbox"/>					
第3回	脳血管疾患の障害像について説明できる	11月24日(木)Ⅱ 4. 脳血管疾患の理学療法 1) 疾患概要 2) リハの流れ 3) 急性期リハ 4) 回復期リハ 5) 生活期リハ 6) 装具	田口	<input type="checkbox"/>					
第4回	家屋改造の実践例から改造イメージをつける	12月1日(木)Ⅱ 5. 家屋改造の実践例(1) 1) 玄関・アプローチ 2) 居室・寝室・廊下 3) トイレ	田口	<input type="checkbox"/>					
第5回	家屋改造の実践例から改造イメージをつける	12月8日(木)Ⅱ 6. 家屋改造の実践例(2) 4) 風呂場 5) 自助具等	田口	<input type="checkbox"/>					
第6回	パーキンソン病患者と関節リウマチ者等の環境調整について説明できる	12月15日(木)Ⅱ 7. 疾患別環境整備のポイント	田口						

		1) パーキンソン病 2) 関節リウマチ 等		<input type="checkbox"/>
第7回	家屋調査のポイントを説明できる	12月22日(木) II 8. ホームエバリュエーション 1) 住まいのチェック項目 2) 環境評価	田口	<input type="checkbox"/>
第8回	理学療法領域における生活環境支援について説明できる	1月5日(木) I まとめ ※国際福祉機器展(オンライン)の見学で代替する可能性	田口	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
国際福祉機器展がこの時期に行われます。これがオンライン開催であれば、この見学を授業時間に組み込んで代替します。				
教科書				
指定しない。				
参考書、教材等				
『環境と理学療法』内山靖(編), 医歯薬出版, 2004(6,600円)				
評価方法				
出席、レポート課題によって総合評価します。				
授業外における学習方法				
福祉機器に関するパンフレットやホームページを見ておくと、環境整備のイメージがつきやすいと思います。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
本科目は、「応用」理学療法技術の科目です。2年次の生活環境学を発展させ、生活環境支援(家屋改造)について、より具体的なイメージを持ってもらいます。				
授業における講演者(ゲストスピーカー)の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/03/11 17:36				<input type="button" value="印刷"/> <input type="button" value="閉じる"/>

シラバス詳細

理学療法学専門科目		応用治療理学療法技術学											
授業科目名													
カリキュラム2019													
理学療法応用技術学 E (スポーツ) Applied Physical Therapy Techniques (Sports)													
No.	時間割番号	開講時期						曜日・時限					
1	213003701	後期						火曜1限~2限					
ナンバリング													
B_PHT3530													
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別													
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職				
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻					
1		3○											
履修における注意点・履修条件等													
本講義の履修条件は特になし。自己学習を忘れないください。													
科目責任者	国分 貴徳	単位数・時間数			1 単位 15 時間		授業形態	講義					
科目担当者													
科目に関連する実務経験													
授業の概要													
理学療法分野の中でも特にスポーツに関わる内容について、全般的な考え方について概説を行い、またその部位別特性について講義と実技を行う。													
学習のねらい													
スポーツ領域における理学療法士の職責とその考え方について理解に理解する。 アスリートに対する理学療法について、科学的視点から施行することができるようになる。													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合		国際的・地域			
		○			○								
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員		講演者			
1, 2	スポーツ領域における理学療法について、その役割と考え方を理解する。			オリエンテーション スポーツ領域における理学療法の考え方について、具体例を示しながら概説する。 特に、理学療法士としてスポーツリハ・アスレティックリハビリテーションに関わることの意義とその在り方についてディスカッションと考察を行う。 (理学療法学科実習室)				国分		□			
3, 4	上肢におけるスポーツ障害について、その傷害あるいは障害の発生メカニズムに対する考察と、それらを踏まえた理学療法介入の在り方について理解する。			・肩関節から手部で発生するスポーツ傷害・障害を網羅的に概説するとともに、それらが発生するメカニズムについて、ディスカッションを行う。また、それらを踏まえた上で、傷害・障害特性に合わせた理学療法介入の具体的方略についても考察する。 ・上肢のスポーツ障害に対する、Self Ex.の実際について、実技を行う。 (理学療法学科実習室)				国分		☑			
5, 6	体幹におけるスポーツ障害について、その傷害あるいは障害の発生メカニズムに対する考察と、それらを踏まえた理学療法介入の在り方について理解する。			・頸部から腰部で発生するスポーツ傷害・障害を網羅的に概説するとともに、それらが発生するメカニズムについて、ディスカッションを行う。また、それらを踏まえた上で、傷害・障害特性に合わせた理学療法介入の具体的方略についても考察する。 ・体幹のスポーツ障害に対する、Self Ex.の実際について、実技を行う。 (理学療法学科実習室)				国分		☑			
7, 8	下肢におけるスポーツ障害について、その傷害あるいは障害の発生メカニズムに対する考察と、それらを踏まえた理学療法介入の在り方について理解する。			・股関節から足部で発生するスポーツ傷害・障害を網羅的に概説するとともに、それらが発生するメカニズムについて、ディスカッションを行う。また、それらを踏まえた上で、傷害・障害特性に合わせた理学療法介入の具体的方略についても考察する。				国分		☑			

		・下肢のスポーツ障害に対する、Self Ex.の実際について、実技を行う（一部、テーピング等を含む）。 (理学療法学科実習室)	
教科書			
必要に応じて配布資料を準備する。			
参考書、教材等			
適宜支持する			
評価方法			
授業への出席、ディスカッションへの参加や実技での姿勢、講義中の発言等を踏まえ、総合的に判断し判定する。 ※履修人数に応じて、適宜レポートを追加する場合がある。			
授業外における学習方法			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
スポーツ領域における理学療法の役割と職責について、スポーツドクターやスポーツトレーナーとの違いが明確に述べられるようになることを期待する。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
3-4	宇佐美 優奈 (TA)	上肢スポーツ障害に対する理学療法の実際	
5-6	船越 逸生 (TA)	体幹スポーツ障害に対する理学療法の実際	
7-8	米野 萌恵 (TA)	歌詞スポーツ障害に対する理学療法の実際	
最終更新日: 2022/02/24 18:05			
			印刷 閉じる

シラバス詳細

理学療法学専門科目		応用治療理学療法技術学											
授業科目名													
カリキュラム2019													
理学療法応用技術学G (神経筋特殊疾患) Applied Physical Therapy Techniques (Neurological Diseases)													
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限					
1	213003901			後期				木曜3限					
ナンバリング													
B_PHT3530													
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別													
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職				
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻					
1		3○											
履修における注意点・履修条件等													
<p>ここで取り上げる症例は脳血管障害などと比べて症状を感覚的には理解しにくい反面、これまで生理学で学習してきた神経筋の役割を理解すると病態が納得できる部分が多い。そのためにも、学んできた生理学のうちに疾患に関連する神経、筋、免疫システムなどの復習による具体的な理解と授業前には夫々の該当する疾患の予習が必要である。</p>													
科目責任者	西原 賢			単位数・時間数	1 単位 15 時間		授業形態	講義					
科目担当者													
科目に関連する実務経験													
授業の概要													
<p>本講義では神経系疾患のうち、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー、多発性硬化症、ギランバレー症候群、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経や筋そのものによる疾患を取り上げ、病態のメカニズム、症状の特徴、医学的治療法、理学療法評価・治療・リスクなどについて臨床的側面を取り入れて進めて行く。病態の理解のために動画や画像を活用し、関連の理学療法国家試験の解説も行う。理論だけでなく、症例に対しての理学療法の実技を可能な範囲で実施する。</p> <p>授業の実施形態：遠隔・対面授業の併用</p>													
学習のねらい													
<p>神経障害領域の病態について理解し、関連の症例に対して理学療法が実施でき、本人や家族に症状の維持改善のためのアドバイスができるようになる。関連の国家試験が解けるようになる。</p>													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域					
○		○		○		○							
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員	講演者				
1	神経筋疾患の概要 オリエンテーション、神経筋疾患の概要について理解できる。授業全体の進行及び内容について理解できる。			1.オリエンテーション 神経筋疾患の概要について説明する。				西原	□				
2・3	筋萎縮性側索硬化症について 筋萎縮性側索硬化症の病態や必要な治療について理解できて、理学療法ができる。			筋萎縮性側索硬化症の病態のメカニズム、症状の特徴、医学的治療法、理学療法評価・治療・リスクなどについて動画や画像を見て、理学療法的治療を実施する。				西原	□				
4・5	多発性硬化症・ギランバレー症候群について 多発性硬化症・ギランバレー症候群の病態や必要な治療について理解できて、理学療法ができる。			多発性硬化症・ギランバレー症候群のメカニズム、症状の特徴、医学的治療法、理学療法評価・治療・リスクなどについて動画や画像を見て、理学療法的治療を実施する。				西原	□				
6	パーキンソン病について パーキンソン病の病態や必要な治療について理解できて、理学療法ができる。			パーキンソン病のメカニズム、症状の特徴、医学的治療法、理学療法評価・治療・リスクなどについて動画や画像を見て、理学療法的治療を実施する。				西原	□				
7・8	脊髄小脳変性症について 脊髄小脳変性症の病態や必要な治療について理解できて、理学療法ができる。 神経筋疾患について全体的な理解ができる。			筋萎縮性側索硬化症・多系統萎縮症の病態のメカニズム、症状の特徴、医学的治療法、理学療法評価・治療・リスクなどについて動画や画像を見て、理学療法的治療を実施する。 神経筋疾患の全体のまとめをする。				西原	□				
教科書													
「指定しない。」													

参考書、教材等			
シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 南江堂			
評価方法			
課題レポート、小試験、授業態度などで総合的に評価する。 授業中に科目担当教員の許可なく授業と無関係の行為があったことが認められた場合は減点とする。			
授業外における学習方法			
これまでの教科書や参考書をもとに予習を行い、授業前には取り上げる疾患について予習しておくこと。実技では動きやすい服装で臨むこと。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
疑問を感じたときには遠慮なく質問してください。各疾患による生理学的な変化を想像すると実際の症状が納得できる場合が多いかと思ひます。ここで取り上げる症例は卒後の職場によってはほとんど会えないかも知れませんが（これらの症例が多く集まる職場もちろんありますが）、新鮮な感じ で授業に参加頂ければと思ひます。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日: 2021/12/27 14:38			印刷 閉じる

シラバス詳細

理学療法学専門科目		地域理学療法学科目											
授業科目名													
カリキュラム2019													
地域理学療法学実習 Community Based Physical Therapy: Laboratory													
No.	時間割番号	開講時期						曜日・時限					
1	213003201	後期						金曜3限～5限					
ナンバリング													
B_PHT3420													
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別													
No.	看護	編入	理学	作業		社福	編入	福子	行動	編入	検査	口腔	教職
1			3◎										
履修における注意点・履修条件等													
科目責任者 田口 孝行 単位数・時間数 1単位 45時間 授業形態 実習													
科目担当者 大場良子、久保田章仁、川越雅弘													
科目に関連する実務経験													
授業の概要													
<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションに欠かせない基礎知識としての介護保険制度および障害者総合支援制度とそのサービス内容、対象者が陥り易い疾患等について理解する。 ・介護予防・フレイル予防・健康寿命の延伸を目指す一般高齢者を対象とした地域支援事業の実施方法について理解する。 ・多職種連携チームの模擬体験によって、地域におけるチーム医療・チームケアにおける多職種連携を体験的に学ぶ。 ・実践現場の理学療法士から実践現場における理学療法士および他職種の具体的な役割について学ぶ。 													
学習のねらい													
現実の事例や諸状況などに対して建設的な意見が言え、他職種との連携やサービスを念頭において理学療法士としての知識や技術を活かした支援方法が提案できることを目標とする。													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域					
○				○		○							
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員	講演者				
1-2	地域包括ケアシステム・介護保険制度・地域支援事業について説明できる			11月11日(金)Ⅲ・Ⅳ 1) オリエンテーション 2) 地域包括ケアシステム・地域支援事業 3) 介護保険制度				田口	<input checked="" type="checkbox"/>				
3	現在の高齢社会の現状、および求められるリハ職の役割について説明できる			11月18日(金)Ⅲ 4) 超高齢社会におけるリハ職の役割と課題 ゲスト講師 川越雅弘 先生(埼玉県立大学大学院研究科) ※レポート課題①(提出〆切: 11/25 授業前までにWebClassへ)				田口、川越	<input type="checkbox"/>				
4	緩和ケアの基本を説明できる			11月18日(金)Ⅲ 5) 緩和ケアとリハビリテーション ゲスト講師 大場良子 先生(看護学科) ※レポート課題③(提出〆切: 11/25 授業前までにWebClassへ)				田口、大場	<input type="checkbox"/>				
5	地域リハビリテーションにおける生活環境整備について説明できる			11月18日(金)Ⅴ 6) 生活環境整備				田口	<input type="checkbox"/>				
6-8	多職種混合チームによるケアプラン作成を目標とした進め方を体験できる			※6～8回については、Aグループ、Bグループに分かれて、下記の要領で学外演習を実施する。				田口	<input type="checkbox"/>				
6-8	緩和ケアに特化した多職種混合チームによるケアプラン作成を目標とした進め方を体験できる			12月2日(金)13:00～17:00 7) 城西大学での他大学合同演習(約30名) ・会場: 城西大学またはZoomによる遠隔 ・緩和医療(ケア)をテーマとした生活支援チーム活動(IPW演習) ・参加者: 城西大学(薬学科、医療栄養学科、薬科)				田口	<input checked="" type="checkbox"/>				

		学科)、埼玉医科大学(医学科) ・演習前にWeb class上での交流勉強あり ※レポート課題② (提出〆切:12/9授業前までにWebClassへ)		
6-8	環境整備に特化した多職種混合チームによるケアプラン作成を目標とした進め方を体験できる	11月19日(土)12:30~17:00 7) 日本工業大学での他大学合同演習(約10名) ・会場:日本工業大学5号館2階203 ・居住者の環境整備を主とした生活支援チーム活動(IPW演習) ・参加者:日本工業大学 建築学科 生活環境デザインコース ※看護学科、社会福祉子ども学科の数人 ・環境改善、生活設計の提案(地域とつながる終の住まい) ※レポート課題② (提出〆切:12/9授業前までにWebClassへ)	田口	<input type="checkbox"/>
9	ケアマネジメントの基本を説明できる	12月9日(金)IV 8) ケアマネジメント ※理学療法の実践演習(ROMex、筋トレ等:ホームエクササイズ)	田口	<input type="checkbox"/>
10	ケアプラン作成のための基本を事例検討を通して理解できる	12月9日(金)V 9) 事例検討(ケアマネジメント)(1) ゲスト講師:佐々木和人先生 (ヒューマンリハビリセンター 本部執行役員)	田口	<input checked="" type="checkbox"/>
11	在宅医療におけるリスク管理について理解できる	12月16日(金)IV 10) 在宅医療とリスク管理 ※理学療法の実践演習(基本動作練習、歩行練習等)	田口	<input type="checkbox"/>
12	ケアマネジメントの基本を説明できる ケアプラン作成のための基本を事例検討を通して理解できる	12月16日(金)V 11) 事例検討(ケアマネジメント)(2) ゲスト講師:佐々木和人先生 (ヒューマンリハビリセンター 本部執行役員) ※レポート課題④(6・7回をまとめて) (提出〆切:12/23授業前までにWebClassへ)	田口	<input checked="" type="checkbox"/>
13	障害者総合支援制度について説明できる	12月23日(金)III 12) 障害者総合支援法	久保田	<input type="checkbox"/>
14-15	・フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニアについて説明できる ・体力測定を実施する意味、測定結果の意味について説明できる。	12月23日(金)IV・V 13) フレイル・ロコモ・サルコペニア 14) 体力測定の理論	田口	<input type="checkbox"/>
16	一般高齢者の健康教室の事例について説明できる	1月6日(金)III 15)一般高齢者の健康教室の実践	久保田	<input type="checkbox"/>
17-18	体力測定が実施できる。	1月6日(金)IV・V 16) 体力測定演習 (握力・CS-30・SS5・体前屈・片足立位・5m歩行・TUG・体組成等)	田口、久保田	<input type="checkbox"/>
19	地域リハビリテーションにおける理学療法の実践について理解できる	1月13日(金)III 17) 地域リハビリテーションにおける理学療法の実践 ゲスト講師:堀切康平先生 (越谷リハビリケアセンター 施設長) ※レポート課題⑤ (提出〆切:1/20授業前までにWebClassへ)	田口	<input checked="" type="checkbox"/>
20-21	安全・安楽および自立を目指した介助方法を理解でき、指導できる	1月13日(金)IV・V 18) 介助方法の指導・技術移転に関する演習・実習	田口、久保田	<input type="checkbox"/>
22	介護老人保健施設(訪問)における理学療法士の役割を理解できる	1月20日(金)IV 19)介護老人保健施設における理学療法の実践 ゲスト講師:中野佳子先生 (介護老人保健施設 ハーティーハイム) ※レポート課題⑥ (提出〆切:1/27授業前までにWebClassへ)	田口	<input checked="" type="checkbox"/>
23	まとめ	1月27日(金)III 試験(範囲:第1・2・4・9・11・13~18・20・21回の田口・久保田の授業内容)	田口	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				

詳細な日程については、第1回目の授業で日程表を配布。

事前に配布されている時間割表とは授業日程が若干異なることに注意。(1月13日、20日、27日にも授業がある)

ゲストスピーカーおよび他学科講師の都合により、日程の変更もありうる。11月11日には、正確な日程が確定します。

教科書			
地域リハビリテーションテキスト 第3版 (南江堂)			
参考書、教材等			
ビジュアルレクチャー地域理学療法学 第3版 (医歯薬出版)			
評価方法			
(1)授業へ3分の2以上の出席、(2)他大学との合同授業への出席、(3)レポートの提出がすべて満たされた者を評価対象とする。 レポート(4割)、試験(6割)、欠席(減点)から総合的に判定する。			
授業外における学習方法			
癌リハ、生活環境学など、これまで他の科目で行った授業内容に目を通しておいください。また、当然のことながら、地域で行うPTとは言っても、神経・運動器・内部等の障害に対する理学療法は、それぞれの授業内で行っているPTを行うのが基本です。したがって、それらの授業内容を復習して、それぞれの疾患に対する理学療法を確実にして、理学療法の専門性を明確にできるようにしておいてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
基本的に皆さんが主体的に調べて学ぶ実習授業です。地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割をよりリアルにイメージできるようにしましょう。			
授業における講演者(ゲストスピーカー)の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
3回	川越雅弘	超高齢社会におけるリハ職の役割・課題	埼玉県立大学大学院 研究科 教授
4回	大場良子	緩和ケアとリハビリテーション	埼玉県立大学 看護学科 准教授
10回	佐々木和人	ケアマネジメントの基本	ビッグスマイリーリハビリセンター 本部執行役員
12回	佐々木和人	ケアプラン作成と事例検討	ビッグスマイリーリハビリセンター 本部執行役員
19回	堀切康平	地域リハビリテーションにおける理学療法の実際	越谷リハビリケアセンター 施設長
22回	中野佳子	介護老人保健施設(通所・入所)における理学療法士の実際	介護老人保健施設 ハーティーンハイム

最終更新日: 2022/03/11 14:56

印刷 閉じる

シラバス詳細

作業療法学専門科目		作業療法学専門科目							
授業科目名									
カリキュラム2019									
作業療法マネジメント論 Occupational Therapy Management									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	215000301	後期	火曜4限						
ナンバリング									
B_OCT2600									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1			1◎						
履修における注意点・履修条件等									
作業療法士として、必要な知識や技術について教授するので、積極的に取り組むこと。新型コロナの影響により、遠隔で演習を実施する。									
科目責任者	久保田 富夫		単位数・時間数	1 単位 15 時間		授業形態	演習		
科目担当者	松尾彰久								
科目に関連する実務経験	○	教員が作業療法士・介護支援専門員研修で得た知識・経験を基本にして教授する。							
授業の概要									
作業療法士としておこなう、業務内容の理解。医療保険や介護保険などの関連する法律。感染予防の知識と技術について学ぶ。実際に実習することで、患者・自分の感染管理技術を習得する。医療事故の予防と対処方法について学ぶ。作業療法士として必要なプログラミングの技術超入門を習得する。対面・遠隔授業の併用									
学習のねらい									
作業療法士として活動するために必要な知識と技術を1年で習得させ、さらに自分で考えて創意工夫するよう促す。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
	○	○							
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標		授業概要			担当教員	講演者		
1	作業療法における全体の流れを理解する		依頼から退院までの流れを学ぶ			久保田	<input type="checkbox"/>		
2	関連法規について理解する I		医療保険、介護保険などについて学ぶ			久保田	<input type="checkbox"/>		
3	関連法規について理解する II		作業療法士に関する法律を学ぶ			久保田	<input type="checkbox"/>		
4	感染予防について理解する		感染予防・医療事故の予防について学ぶ			久保田	<input type="checkbox"/>		
5	作業療法士について必要なプログラミング技術について理解する		プログラミングの必要性について学ぶ			久保田	<input type="checkbox"/>		
6	プログラミングを学ぶ I		プログラミング教育の基礎について学ぶ			久保田、松尾	<input type="checkbox"/>		
7	プログラミングを学ぶ II		プログラミング教育の基礎について学ぶ			久保田、松尾	<input type="checkbox"/>		
8	まとめ		全体のまとめ			久保田	<input type="checkbox"/>		
教科書									
指定しない。オリジナルテキストを用意する。									
参考書、教材等									
授業の中で紹介する									
評価方法									
授業・発表への積極性・参加態度などで総合的に評価する									
授業外における学習方法									
各自でプログラミングの自学自習をおこなう									
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント									
作業療法士として必要な知識・技術について教授するので、積極的に取り組むこと									
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報									
回	講演者氏名	講演の概要				備考			
最終更新日：2022/02/24 08:25									
								印刷	開じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹									
福祉子ども学専門科目		社会福祉									
授業科目名											
カリキュラム2019											
社会福祉の原理と政策 I Principles and Policies of Social Welfare I											
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限								
1	217400101	後期	火曜5限								
2	217407501	後期	火曜5限								
ナンバリング											
福祉学 :B_SSW1100、子ども学 :B_SCS1710											
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻	編入	福祉	行動 専攻	編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1					3○	1○	3○				
2					1◎	1◎					
履修における注意点・履修条件等											
教科書および参考書をもとにして作成したレジュメに基づいて講義を行います。 なお、レジュメの一部は穴埋めになっており、その箇所を中心に解説する予定です。 毎回リフレクションペーパーの提出を求めます。											
科目責任者	相良 翔		単位数・時間数	2 単位 30 時間		授業形態	講義				
科目担当者											
科目に関連する実務経験	○	更生保護施設における補導員としての勤務経験									
授業の概要											
現代社会ではさまざまな社会変動が起き、それに連動して生活問題や福祉ニーズも多様化・複雑化・複層化が進んでいます。そのなかで、本講義では社会福祉の理念、歴史、制度、対人援助などに関する基礎的な学習を通じて、現代社会における福祉的課題に向き合うための基礎を築くことを目標とします。											
学習のねらい											
<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の基本的な制度・概念・理論や社会福祉の全体像を理解する。 私たちの身近な問題として、社会福祉の問題や課題を理解できるようになる。 											
関連するディプロマポリシー											
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域				
	○		○								
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者			
1	社会福祉の原理と政策について学ぶ必要性について、確認する。			「社会福祉の原理と政策 I」において学ぶこと			相良	<input type="checkbox"/>			
2	近代化と福祉の関係について、市場経済の登場を鍵にして、理解する。			近代化と福祉の関係：欧米の社会福祉の歴史的展開①			相良	<input type="checkbox"/>			
3	福祉国家の設立背景およびその内容について、理解する。			福祉国家の設立：欧米の社会福祉の歴史的展開②			相良	<input type="checkbox"/>			
4	後期近代と福祉の関係について、新自由主義を鍵にして、理解する。			後期近代と福祉の関係：欧米の社会福祉の歴史的展開③			相良	<input type="checkbox"/>			
5	社会福祉基礎構造改革以前の日本の社会福祉の展開について、措置概念を鍵にして、理解する。			福祉と措置：日本の社会福祉の歴史的展開①			相良	<input type="checkbox"/>			
6	近年の日本の社会福祉の展開（子育て支援・障害施策・在宅福祉・地域福祉など）について、契約概念を鍵にして、理解する。			福祉と契約：日本の社会福祉の歴史的展開②			相良	<input type="checkbox"/>			
7	社会福祉をめぐる思想と哲学について、自由・正義・フェミニズムを焦点にして、理解する。			社会福祉をめぐる思想と哲学：自由・正義・フェミニズム			相良	<input type="checkbox"/>			
8	必要と需要の関係について、社会福祉の対象を念頭におきつつ、理解する。			必要（ニーズ）と需要：社会福祉の論点①			相良	<input type="checkbox"/>			
9	自己決定とパターナリズムとの関係について、社会福祉専門職や相談援助関係を念頭におきつつ、理解する。			自己決定とパターナリズム：社会福祉の論点②			相良	<input type="checkbox"/>			

10	普遍主義と選別主義の関係について、社会福祉専門職や相談援助関係を念頭におきつつ、理解する	普遍主義と選別主義：社会福祉の論点③	相良	<input type="checkbox"/>
11	社会福祉をめぐる理論について、政策論と技術論の対立を焦点にして、理解する。	社会福祉をめぐる理論：政策論と技術論の対立の先	相良	<input type="checkbox"/>
12	福祉サービスの供給および利用過程について、ステイグマや権利擁護を焦点にして、理解する。	福祉サービスの供給および利用過程	相良	<input type="checkbox"/>
13	社会問題と社会構造について、格差社会を焦点にして、理解する。	福祉格差社会政策の視点	相良	<input type="checkbox"/>
14	社会問題と社会構造について、社会的排除および社会的包摂を焦点にして、理解する。	社会的排除と社会的包摂	相良	<input type="checkbox"/>
15	本講義のまとめを行う。	本講義のまとめ	相良	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
授業の進度・学生の理解度等により各回の内容や順序が変更になる場合もあります。				
教科書				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集，2021，『最新・社会福祉士養成講座／精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策』中央法規。				
参考書、教材等				
坪 洋一・金子 充・室田 信一，2016，『問いからはじめる社会福祉学』有斐閣。 岩田正美・上野谷加代子・藤村正行，2013，『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門』有斐閣。 社会福祉士養成講座編集委員会編集，2014『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉〔第4版〕』中央法規。 武川省吾，2012，『福祉社会学の想像力』弘文堂。				
評価方法				
出席を前提としたリアクションペーパー（30%） 期末テスト（70%）				
授業外における学習方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関するTV番組、ドキュメンタリー、映画、動画を見ることが望ましい。 ・社会福祉関連の新聞記事、新書、論文、書籍を読むことが望ましい。 				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で紹介された概念や理論については自分なりに整理して理解することをお勧めします。 ・他の社会福祉に関する科目との関連について意識することをお勧めします。 ・「どうしてそのような福祉問題が起きたのか」、「その福祉政策が福祉問題を解決するに至って、どのような結果をもたらすのか」などの「想像力」をもって授業に臨むことをお勧めします。 				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/03/09 14:43				<input type="button" value="印刷"/> <input type="button" value="閉じる"/>

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹												
授業科目名														
カリキュラム2019														
ソーシャルワーク概論Ⅱ Introduction to Social Work II														
No.	時間割番号	開講時期						曜日・時限						
1	217407801	後期						金曜1限						
ナンバリング														
B_SSW1120														
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別														
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職	
	編入					専攻	編入		専攻	編入				
1						1◎								
履修における注意・履修条件等														
社会福祉士必修														
科目責任者		河村 ちひろ			単位数・時間数			2単位 30時間			授業形態		講義	
科目担当者														
科目に関連する実務経験		○ 障害者団体等でソーシャルワーク業務経験のある教員が、その経験を活かしてソーシャルワークの基盤と専門職としての基礎について講義する。												
授業の概要														
前期の「ソーシャルワーク概論Ⅰ」に続き、ソーシャルワーク実践の歴史や考え方を学び、社会の様々な場面で活躍するソーシャルワーカーの仕事を知ることによってその本質について考察する。 授業は状況を見て学内対面授業(同時Zoomオンラインを伴うハイフレックス型授業)を行うが、履修生全員を対象にした遠隔授業(オンラインまたはオンデマンド)を行う場合もある。予定は開講初日までにWebClassに掲示する。														
学習のねらい														
ソーシャルワークの概念・対象およびソーシャルワーカー、特に社会福祉士が活躍する職域や役割について理解する。 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。														
関連するディプロマポリシー														
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域		
○			○											
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標					授業概要					担当教員		講演者	
01	ソーシャルワークの対象としてのLifeについて理解する。					講義ガイダンス。 Life(生命・生活・人生・いのち)について考える					河村		□	
02	欧米におけるソーシャルワークの歴史の背景を理解する。					欧米におけるソーシャルワークの歴史					河村		□	
03	日本における歴史とその背景を理解する。					日本における社会福祉実践およびソーシャルワークの歴史					河村		□	
04	ソーシャルワークの定義を理解する。					国際ソーシャルワーカー協会によるソーシャルワークの定義					河村		□	
05	ソーシャルワークにおけるマイクロ・メソ・マクロという概念を理解する。					マイクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク					河村		□	
06	社会資源について理解する。					フォーマルおよびインフォーマルな社会資源					河村		□	
07	行政の仕組みにおけるソーシャルワーク機能について理解する。					職域1 社会福祉行政とソーシャルワーク					河村		□	
08	社会福祉施設を中心としたソーシャルワーク機能について理解する。					職域2 社会福祉施設とソーシャルワーク					河村		□	
09	病院など医療機関におけるソーシャルワーク機能について理解する。					職域3 医療機関とソーシャルワーク					河村		□	
10	学校や教育委員会におけるソーシャルワーク機能について理解する。					職域4 教育機関とソーシャルワーク					河村		□	
11	司法分野におけるソーシャルワーク機能について理解する。					職域5 司法機関とソーシャルワーク					河村		□	
12	ソーシャルアクションとしてのソーシャルワークについて理解する。					職域6 ソーシャルアクションとソーシャルワーク					河村		□	
13	ゲストスピーカーの実践について理解する。					身近な地域でソーシャルワーク実践を行っているゲ					河村		☑	

		ストの仕事およびその背景について。		
14	ジェネラリストの視点について理解する。	ジェネラリストの視点に基づく包括的支援と他職種連携	河村	<input type="checkbox"/>
15	多分野にわたるソーシャルワーク実践のエッセンスを理解する。	まとめと振り返り。	河村	<input type="checkbox"/>
教科書				
『新・社会福祉士養成課程対応 ソーシャルワーカー教育シリーズ①新版ソーシャルワークの基盤と専門職[基礎編・専門編]』相澤譲治（監）植戸貴子（編）（株式会社みらい）				
参考書、教材等				
授業中に紹介する				
評価方法				
期末テスト60%、平常点（課題提出など）40%				
授業外における学習方法				
授業中に課される課題に取り組む他、ソーシャルワークに関する今日の話題に関するニュースなどに関心を持ち、その背景理解に努めましょう。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
ソーシャルワークという実践が対象とする領域は多岐にわたります。様々な領域を知り、理解を深めましょう。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
13	氏名未定	ソーシャルワーカーとして働いている方による講演		
最終更新日: 2021/12/27 14:38				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹							
福祉子ども学専門科目		社会福祉							
授業科目名									
カリキュラム2019									
ソーシャルワークの理論と方法 I Professional Basis of Social Work Practice I									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217400401	後期	金曜4限						
2	217407901	後期	金曜4限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW2120、子ども学 :B_SCS2710									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				2◎ 3○	2○				
2				2◎	2○				
履修における注意点・履修条件等									
講義時に毎回Web-classを使用します。受講、出席確認、講義中の課題への解答、資料閲覧に必要ですのでタブレットやノートパソコンなどWeb-classにアクセスできるものをご用意ください。									
科目責任者	保科 寧子		単位数・時間数	2 単位 30 時間		授業形態	講義		
科目担当者	髙末憲子								
科目に関連する実務経験	○	地域包括支援センターなどでの対人援助業務、相談援助業務経験のある教員がその経験を活かし、相談援助職に必要な社会福祉援助技術（面談の手順、介入、記録作成等）を事例を通じて考える機会とする。							
授業の概要									
個別援助（ケースワーク）を中心としたソーシャルワークのプロセスや手法・技法について学び、さまざまな福祉問題にソーシャルワーカーが関連職種とともに対応する具体例を理解します。									
学習のねらい									
ソーシャルワークの理念・価値・倫理を念頭に置き、連携やチームアプローチを意識したソーシャルワーク実践の方法論について基礎的な知識を身につけます。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○		○	○	○					
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要		担当教員	講演者				
1	人と環境の相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークを理解する。	ソーシャルワークにおける人と環境の相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークについて具体例を通じて理解する。		保科	□				
2	ケースワーク（個別援助）における面接技術を理解する。	個別援助における面接技術を事例から学習する。バリエーションの7原則を具体的に理解する。		保科	□				
3	相談援助のための記録の意義と技術（ジェノグラム・エコマップ）を理解し、活用できる。	相談援助における記録の種類と作成の意義を知り、記録を作成するツールとしてのジェノグラム・エコマップの書き方を学び、事例から作成する。		保科	□				
4	相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、アフターケア）を理解する。	相談援助の展開過程（インテーク、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、アフターケア）を学び、演習を通じて体験的に理解する。		保科	□				
5	社会福祉の支援現場におけるアセスメントの手法を学ぶ。	事例を用いてアセスメントを行い体験的に学習する。相談援助における記録の事例から適切な記録のあり方をグループで検討する。		保科	□				
6	グループ討議を通じてアセスメントの質を高める方法を知る。	グループディスカッションによるアセスメントの検討を行い、アセスメントの質を高める方法を体験する。		保科	□				
7	社会福祉の支援現場におけるプランニング（援助計画）の概要を知る。	プランニングの理論を学び、事例学習を通じてプランニングの実際を知る。		保科	☑				
8	グループ討議を通じてプランニングの質を高める方法を知る。	グループディスカッションによるケアプランの検討を行い、プランの質を高める方法を体験する。		保科	□				

9	ソーシャルワークにおける介入の定義と実際を理解する。	介入の定義を学び、その実際を事例から学習する。	保科	<input type="checkbox"/>
10	ソーシャルワークを支えるスーパービジョンの手法と実際を知る。	相談援助におけるスーパービジョンの定義・機能と実際を学び、事例学習から体験的に理解を深める。	保科	<input type="checkbox"/>
11	ソーシャルワークにおけるコンサルテーションの手法や多職種連携の実際を知る。	相談援助におけるコンサルテーションや多職種連携の手法を知り、事例を通じて実際の活用方法を知る。	保科	<input type="checkbox"/>
12	ゲストスピーカーの話から相談援助の実際を知り、ソーシャルワークへの理解を深める。	福祉事務所のソーシャルワーカーから相談援助の具体的な業務や支援事例を学ぶ。	保科	<input checked="" type="checkbox"/>
13	事例検討を通じソーシャルワークでの支援方法をより実践的に理解する。 講義まとめ小テストにより必要な知識の確認を行う。	教員の提示した事例について、講義の内容を参考にグループで適切な支援方法を検討する。また11回までの内容に関する小テストを通じて今までの学習内容の理解度を確認する。	保科	<input type="checkbox"/>
14	事例検討を通じソーシャルワークでの支援方法をより実践的に理解する。	前回に引き続きグループで事例検討を行い、発表資料を作成する。	保科	<input type="checkbox"/>
15	事例検討結果の報告会を通じてより良い支援のあり方を考える。	事例への支援方法をグループごとに発表し、他のグループの発表から多面的なアセスメントや支援方法を考える。	保科	<input type="checkbox"/>

授業計画に関する特記事項

この科目はソーシャルワーク実習指導Ⅰ・ソーシャルワーク実習Ⅰ・ソーシャルワーク実習Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅲの履修に先立ち単位習得の必要な科目です。

教科書

指定はありません。

参考書、教材等

新版 ソーシャルワークの理論と方法II【専門編】（ソーシャルワーカー教育シリーズ） ISBN-13 : 978-4860155537
その他、講義時に適宜紹介します。

評価方法

期末レポート（60%）
小テスト、講義感想（振り返り）、講義中に実施する課題（40%）

授業外における学習方法

講義を通じて提示された課題に取り組み、講義時および担当教員の指定する時間に提出し、講義を通じて提示する課題への解法を確認して知識と技術を学んでください。

またWebclassに提示した資料を利用して講義の復習や予習を行ってください。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

ソーシャルワークの基礎的手法を理解するとともに、なぜそのような支援が必要なのかということ、社会の価値観や社会制度の在り方までを視野に入れて考えてみてください。するとソーシャルワークは自分を含めた全ての人のためのものであることが感じられると思います。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考
12	榎府憲太	福祉事務所におけるソーシャルワークの実際	ふじみ野市福祉事務所

最終更新日：2022/03/07 14:38

印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目					社会福祉基幹					
授業科目名										
カリキュラム2019										
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ Professional Basis of Social Work Practice II										
No.	時間割番号				開講時期			曜日・時限		
1	217400501				後期			金曜5限		
2	217408001				後期			金曜5限		
ナンバリング										
B_SSW2120										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業		社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入				専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					2○	3○				
2					2○					
履修における注意点・履修条件等										
この科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目である「ソーシャルワークの理論と方法」（共通科目）に該当する科目であり、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」（社会福祉学専攻は必修）と並行して履修することが望ましい。この科目は、福祉子ども学専攻の学生は他専攻履修の手続きの必要な科目であるため、4月のガイダンスの指示に従い手続きを行うこと。2021年度から開始した社会福祉士・精神保健福祉士の「新カリキュラム」に基づく科目である。2020年度以前の入学生でこの科目を履修する場合や履修に悩んでいる場合は、科目責任者宛にメールで連絡をすること。										
科目責任者	大岡 華子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義		
科目担当者										
科目に関連する実務経験	○	生活困窮者支援（NPO）や障害者施設での現場経験の話を講義の中で話す予定である。								
授業の概要										
この科目は社会福祉士・精神保健福祉士に共通するソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーク理論、ソーシャルワークを具体的に展開するために不可欠な実践モデルとアプローチ、実践を豊かに展開する為の、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて講義をする。この科目の内容を知識として定着させるとともに演習科目や実習指導、ソーシャルワーク実習を通じ、技術として身につけていく必要がある。										
※対面で実施予定だが、新型コロナウイルスの状況により授業の実施方法を変更する場合があるので、メール等必ず確認すること。										
学習のねらい										
①グループを活用した支援を理解し、実践できるようになる ②コミュニティワークを理解し、実践できるようになる。 ③ソーシャルアドミニストレーション・ソーシャルアクションを理解し、実践できるようになる。 ④ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解し、実践できるようになる。										
関連するディプロマポリシー										
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考			多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域		
○				○				○		
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標				授業概要			担当教員	講演者	
1	この科目の概要やソーシャルワークの役割等を理解する				オリエンテーション			大岡	<input type="checkbox"/>	
2	グループワークを理解する				グループワークの歴史、意義と目的			大岡	<input type="checkbox"/>	
3	グループワークの展開を理解する				グループワークの展開過程			大岡	<input type="checkbox"/>	
4	グループワークを通じた支援を理解する				グループワークの実践とセルフヘルプグループ			大岡	<input type="checkbox"/>	
5	実践例を通して、ソーシャルワークを理解する①				生活困窮者支援や障害者支援等の実践例から学ぶ			大岡	<input type="checkbox"/>	
6	コミュニティワークを理解する				コミュニティワークの歴史、意義と目的			大岡	<input type="checkbox"/>	
7	現代におけるコミュニティワークを理解する				現代の地域社会・福祉課題とコミュニティワーク			大岡	<input type="checkbox"/>	
8	コミュニティワークの実践について考える				コミュニティワークの展開過程と実践例			大岡	<input type="checkbox"/>	
9	ソーシャルアドミニストレーションを理解する				ソーシャルアドミニストレーションの定義や実践			大岡	<input type="checkbox"/>	
10	ソーシャルアクションを理解する				ソーシャルアクションの定義や実践			大岡	<input type="checkbox"/>	
11	実践例を通して、ソーシャルワークを理解する②				生活困窮者支援や障害者支援等の実践例から学ぶ			大岡	<input type="checkbox"/>	
12	ソーシャルワークのアプローチを理解する				ソーシャルワークの歴史とアプローチ①医学モデル・生活モデル・心理社会的アプローチ・機能主義			大岡		

		的アプローチ		<input type="checkbox"/>
13	ソーシャルワークのアプローチを理解する	ソーシャルワークの歴史とアプローチ②問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチ	大岡	<input type="checkbox"/>
14	ソーシャルワークのアプローチを理解する	ソーシャルワークの歴史とアプローチ③エンパワーメントアプローチやそのほかアプローチ	大岡	<input type="checkbox"/>
15	ソーシャルワークの今後について考える	ソーシャルワークの課題や役割について振り返る	大岡	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
※上記スケジュールは、授業の進捗等により計画を変更する場合もある。				
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
適宜授業で紹介する。				
評価方法				
レポート70% 授業時のリアクションペーパー（30%）により評価				
授業外における学習方法				
毎日、虐待、貧困・生活困窮、障害者の生活課題、高齢者の生活課題、居場所、年金制度の課題など、福祉に関連するニュースがTVや新聞やインターネット等で報道されている。授業以外でも、福祉に関する図書を読んだり、インターネット等で映画・ドラマを見たり、いろいろな地域の取り組みを見学したり、ボランティアとして参加するなど、福祉に関する関心を持ってほしい。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
11回	卒業生（予定）	地域におけるソーシャルワークや生活課題について		
最終更新日：2022/02/15 14:05				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目				社会福祉基幹					
授業科目名									
カリキュラム2019									
福祉サービスの組織と経営 Administration of Social Welfare Institution									
No.	時間割番号	開講時期		曜日・時限					
1	217400701	後期		水曜5限					
2	217408501	後期		水曜5限					
ナンバリング									
B_SSW2120									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○				
2				2○					
履修における注意点・履修条件等									
この科目は、社会福祉士養成課程における必修科目であり、社会福祉士国家試験を受験する者は必ず履修しなければならない。									
科目責任者	伊藤 善典		単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義		
科目担当者									
科目に関連する実務経験	○	国家公務員及び地方公務員として社会福祉行政と組織運営に携わった教員がその経験を活かして講義を行う。							
授業の概要									
<p>現在、介護や保育などの社会福祉サービスは、社会福祉法人、NPO法人等の非営利組織、株式会社などの営利組織、ボランティアなどのインフォーマルな組織によって提供されている。これらの組織は、国や自治体が定めた法令や人材・財源の制約の下、利用者の視点に立って、そのニーズを的確に把握しながら、効率的・効果的かつ安定的にサービスを提供していくことが求められる。この講義では、社会福祉サービスを提供する組織のバリエーションを踏まえ、サービスを提供する組織と経営の理論、管理運営の方法（人事・労務管理、財務・会計）など、福祉サービスの提供に携わる者が知っておくべき基本的な知識を説明する。</p> <p>なお、この授業は、原則として対面で行うが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、リアルタイムのオンライン（Zoom）で行うことがありうる。</p>									
学習のねらい									
<p>この講義は、一般のサービスとは異なる社会福祉サービスの特徴を踏まえ、その適切な運営管理の必要性を理解するとともに、社会福祉、労働、会計などの制度や組織・経営などに関し、福祉サービスの提供に携わる者が知っておくべき基本的な知識を身に付け、今後、実習や就職で出会うであろう組織を批判的かつ科学的にとらえる力を養うことを目的とする。</p> <p>この科目は、社会福祉サービスの提供主体の組織と経営に関する理論や制度について、分野横断的に学ぶものであるが、個々の分野の知識が必要となることもありうる。それらに関する科目をまだ履修していない場合には、時間の許す限り、補足的に説明を加えながら進めていく。</p> <p>なお、この科目では主として民間法人の組織と経営に関することを学ぶ。行政機関の組織運営に関することは、公共経営論又は福祉社会特講Ⅱ（行政学）や社会福祉行政財論で学ぶことになる。</p>									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
	○	○							
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要		担当教員	講演者				
1	福祉サービスの組織と経営（社会福祉運営管理）を学ぶ意味を理解する。	○オリエンテーション ・社会福祉運営管理の意味 ・福祉サービス提供主体の多元化 ・社会福祉基礎構造改革		伊藤	□				
2	「法人」の概念・意義・目的、様々な法人の種類と特徴について理解する。	○サービス提供組織（1） ・法人格、法人の種類 ・営利と非営利、公益性		伊藤	□				
3	社会福祉法人の組織・運営について理解する、	○サービス提供組織（2） ・社会福祉法人の事業・組織・運営		伊藤	□				
4	公益法人、NPO法人など、様々な非営利法人の組織・運営について理解する。	○サービス提供組織（3） ・公益法人、NPO法人、医療法人、生協、農協等の設立方法、組織・運営の仕組み、行政の指導監督		伊藤	□				
5	営利組織である株式会社の組織・運営について理解する。また、社会的企業概念を理解する。	○サービス提供組織（4） ・株式会社の組織・運営 ・社会的企業		伊藤	□				
6	組織や手段とは何か、どのように機能しているのか	○組織・経営（1）		伊藤	□				

	についての様々な考え方を理解する。	・組織・集団の力学に関する基礎理論		
7	組織におけるリーダーシップと意思決定のあり方を理解する。	○組織・経営（2） ・リーダーシップに関する基礎理論 ・経営戦略	伊藤	<input type="checkbox"/>
8	労働者の動機付け、組織の適切な経営の確保、組織間連携のあり方を理解する。	○組織・経営（3） ・動機付けに関する基礎理論 ・ガバナンス、内部統制、コンプライアンス ・組織間連携	伊藤	<input type="checkbox"/>
9	福祉サービスの特徴を踏まえ、良質なサービスを安定的に供給するための仕組みや事業運営のあり方を理解する。	○組織・経営（4） ・サービスの質の管理（第三者評価、P D C Aサイクル等） ・リスクマネジメント ・情報の管理と活用	伊藤	<input type="checkbox"/>
10	日本的雇用システムにおける採用から退職までの人材マネジメントの仕組みを理解する。	○人材マネジメント（1） ・人材マネジメント、採用から退職まで	伊藤	<input type="checkbox"/>
11	労働者が安心して安全に働くことができるようにするための様々な法制度を理解する。	○人材マネジメント（2） ・労働に関する法令・ルール（労働契約、非正規雇用、労働時間規制、労働安全衛生）	伊藤	<input type="checkbox"/>
12	多様な労働者がその能力を十分発揮することができるようにするための様々な法制度等を理解する。	○人材マネジメント（3） ・男女雇用機会均等、ハラスメント防止、育児・介護休業、福利厚生、労使関係管理	伊藤	<input type="checkbox"/>
13	様々な法人の資金調達手段とそれによって得られた財源の特徴を学ぶ。	○財務・会計管理（1） ・福祉サービス事業者の財源、非営利法人の資金調達 手段、社会福祉充実財産	伊藤	<input type="checkbox"/>
14	社会福祉法人の財務・会計の仕組みを学び、イメージを掴む。	○財務・会計管理（2） ・社会福祉法人の財務管理・会計制度 ・貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書	伊藤	<input type="checkbox"/>
15	授業のまとめ	・授業の理解度の確認	伊藤	<input type="checkbox"/>

授業計画に関する特記事項

評価を受けるためには10回以上の出席が求められるが、出席の取り方については別途指示する。

教科書

指定しない。

参考書、教材等

授業ではパワーポイントの資料を見ながら説明していく。資料は事前にWebclassで資料を配信する。また、授業中に社会福祉法人の財務諸表などをWebsiteで閲覧することがある。

評価方法

期末テスト（100%）。ただし、授業の参加度を勘案する。

授業外における学習方法

組織、経営、人事や財務に関する内容については、組織で働いた経験がない受講生にとっては実感が持てず、理解しにくと思われるので、Webclassで配信する資料に事前に目を通しておくこと。また、授業で学んだ知識を実習などにおいて思い起こし、具体例に当てはめて考えてみる。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

この科目については、社会福祉士国家試験科目だから勉強するというにとどまらず、卒業後の進路（就職先）を適切に選択するとともに、将来、様々な組織で経営者やリーダーとして活躍するために必要な知識を学ぶという意識をもって積極的に取り組んでいただきたい。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/02/15 13:32

印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹									
授業科目名											
カリキュラム2019											
司法福祉 Law and Forensic Social Services											
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限				
1	217402101	後期					水曜4限				
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職		
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻			
1				3○	3○						
履修における注意点・履修条件等											
科目責任者 市村 彰英 単位数・時間数 2単位 30時間 授業形態 講義											
科目担当者											
科目に関連する実務経験 ○ 科目責任者は大学教員就任までの20年間は家庭裁判所調査官をしてきた。公認心理師の国家資格と日本臨床心理士認定協会の臨床心理士の資格を有している。											
授業の概要											
司法機関（主に家庭裁判所）が、少年非行や夫婦、親子、親族間の家庭の問題などに、どのように関わり、その手当（非行臨床や家族臨床）を行っているか、という現状について具体的に講義する。そのための人間関係諸科学の基礎知識、カウンセリングやソーシャルワークなどの方法やアプローチを学ぶ。											
学習のねらい											
司法福祉という言葉の意味を理解し、関係機関に携わる専門職間の連携について学ぶ。											
関連するディプロマポリシー											
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域			
○						○					
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標	授業概要				担当教員	講演者				
1	司法福祉の定義を明確にする。	1 司法福祉の基礎概念と現状①司法福祉の特質、司法福祉の歴史と現状 司法福祉を担う諸機関との協働				市村	<input type="checkbox"/>				
2	現状を知る。	2 司法福祉の基礎概念と現状②家庭裁判所の役割と機能、家庭裁判所調査官				市村	<input type="checkbox"/>				
3-8	関係機関を具体的に学ぶ。	3 司法福祉の機関と資源①児童相談所 4 司法福祉の機関と資源②警察 5 司法福祉の機関と資源③少年鑑別所 6 司法福祉の機関と資源④保護観察所 7 司法福祉の機関と資源⑤少年院と少年刑務所 8 司法福祉の機関と資源⑥児童自立支援施設				市村	<input type="checkbox"/>				
9-10	非行臨床について学ぶ。	9 少年事件（非行臨床）①少年非行とは、少年法改正 10 少年事件（非行臨床）②少年事件の時代的推移				市村	<input type="checkbox"/>				
11~14	家族臨床について学ぶ。	11 家事事件（家族臨床）①家事事件の種類と処理プロセス、家事調停と家事審判、保全処分 12 家事事件（家族臨床）②子どもの事件（児童虐待、子の奪い合い）、夫婦の事件（離婚、夫婦カウンセリング） 13 家事事件（家族臨床）③親子関係の事件（親子関係の確定、養子縁組、親権者変更、面会交流） 14 家事事件（家族臨床）④親族関係の事件（遺産分割）、高齢者の事件（成年後見）				市村	<input type="checkbox"/>				
15	課題と展望を認識する。	15 司法福祉の課題と展望：裁判員制度、修復的司法				市村	<input type="checkbox"/>				
授業計画に関する特記事項											
授業は原則対面で行いますが、オンライン授業（zoom）で行う場合には、接続方法に関するURLなどは1週間前までにWebClassで皆様にご連絡いたします。											

教科書			
教科書は用いない。 参考書：よくわかる司法福祉（ミネルヴァ書房）村尾泰弘他編 教材はレジュメを配布する。			
参考書、教材等			
評価方法			
レポート50点，授業への参加度50点。			
授業外における学習方法			
文献研究だけでなく，ニュースや新聞紙面にも着目し，生きた司法福祉の知識を習得してください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
私は，教員になる前の20年間，家庭裁判所調査官として仕事をしてまいりました。その間，多くの少年，家族，夫婦などに関わり，貴重な経験をさせていただきました。それらの具体的な体験を振り返りながら，学生の皆さんと一緒に司法福祉について考える時間にしていきたいと考えております。学生の皆さんと一緒に具体的なディスカッションができるような雰囲気作りができるよう心がけたいと思います。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日：2022/03/22 16:52			
			印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹							
福祉子ども学専門科目		社会福祉							
授業科目名									
カリキュラム2019									
子ども家庭福祉論 Welfare for Family with Child									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217400801	後期	水曜1限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW1130、子ども学 :B_SCS1710									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				1◎ 3○	1◎				
履修における注意点・履修条件等									
※この科目のシラバスは後期開始までに作成します。(以下全ての項目同様) 社会福祉子ども学科必修(社会福祉士必修・保育士必修)									
科目責任者	岡 桃子		単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義		
科目担当者	-								
科目に関連する実務経験	○	子ども家庭支援センターにおいて、社会福祉士として相談業務・児童虐待通告対応に従事した教員が、その経験を活かして子ども家庭福祉における講義を行う。							
授業の概要									
子育て支援のニーズが多様化している現代社会において、子どもに関わる福祉専門職は子どもへの直接的な支援とともに、子どもが育つ家庭へのサポートも担うことが求められている。本授業では子ども家庭福祉の基本理念をはじめとし、行政の仕組みや実施機関、地域社会でのサービスや職種など、子ども家庭福祉についての基本的な理解を深めることを目標とする。授業の実施形態は遠隔授業となる。									
学習のねらい									
子どもや家庭が置かれている環境を知るとともに、子ども家庭福祉の基本的な枠組みへの理解を深め、福祉施策や活動の実態と課題を知る。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○		○	○						
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要				担当教員	講演者		
1	子ども家庭福祉の状況と基本的考え方	少子社会など、子ども家庭を取り巻く状況について理解する。				-	□		
2	子どもの権利と子ども観	子どもの権利保障の歴史や権利条約の特徴を理解する。				-	□		
3	子ども家庭福祉の展開	諸外国や日本の児童福祉の歴史について理解する。				-	□		
4	子ども家庭福祉の展開	諸外国や日本の児童福祉の歴史について理解する。				-	□		
5	子ども家庭福祉の制度	子ども家庭福祉を支える法律・行政システムについて理解する。				-	□		
6	子ども家庭福祉の実施機関	子ども家庭福祉の実施機関について学ぶ。				-	□		
7	子ども家庭福祉の実施機関	子ども家庭福祉の実施機関について学ぶ。				-	□		
8	子ども家庭福祉の施設及び里親制度	子ども家庭福祉の施設及び里親制度について理解する。				-	□		
9	子ども家庭福祉の援助	子ども家庭福祉にかかわる専門職について理解する。				-	□		
10	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際について理解する。				-	□		
11	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際について理解する。				-	□		
12	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際について理解する。				-	□		
13	さまざまな状況にある子どもを支える子ども家庭福祉の実際	貧困、障害、虐待などの状況を理解し、子ども家庭福祉の実際について学ぶ。				-	□		
14	さまざまな状況にある子どもを支える子ども家庭福祉	貧困、障害、虐待などの状況を理解し、子ども家庭				-	□		

15	社の実際 まとめ	福祉の実際について学ぶ。 まとめ	—	<input type="checkbox"/>	
教科書					
指定しない					
参考書、教材等					
授業にて適宜指示します。					
評価方法					
振り返りシート・授業参加度60%、期末レポート40%					
授業外における学習方法					
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント					
子ども家庭福祉をめぐる状況は大きく変わりつつあります。新聞や関連雑誌などにも目を通しておくことをお勧めします。					
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報					
回	講演者氏名	講演の概要	備考		
最終更新日：2021/12/27 14:38				印刷	閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		共生社会									
授業科目名											
カリキュラム2019											
福祉社会特講Ⅲ Special Topic on Welfare Society III											
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限				
1	217402501	後期					火曜4限				
2	217409001	後期					火曜4限				
ナンバリング											
B_SSW2200											
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福 専攻	福子	行動 専攻	検査 専攻	口腔 専攻	教職		
	編入				編入		編入				
1				2○	3○	3○					
2				2○							
履修における注意点・履修条件等											
教科書および参考書をもとにして作成したレジュメに基づいて講義を行います。 なお、レジュメの一部は穴埋めになっており、その箇所を中心に解説する予定です。 毎回リフレクションペーパーの提出を求めます。											
科目責任者	相良 翔			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義			
科目担当者											
科目に関連する実務経験											
授業の概要											
社会学とは「調査とデータをふまえて社会の現実を理論的に理解しながら説明しようとする科学」と定義されています。医療や福祉という社会的な場のリアリティについて、社会的な理論や概念を通じて、理解していくことがこの科目の内容です。また、医療や福祉について批判的な思考をもって理解することも目標となります。											
学習のねらい											
<ul style="list-style-type: none"> 「医療」について社会的な観点からの考察を深め、多角的に思考できるようになる。 「医療」に関する社会的な考察を通じて、人間の関係性や社会のあり方に関する理解をより深める。 											
関連するディプロマポリシー											
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域							
	○	○									
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者							
1	社会的な視座について解説し、医療と福祉を社会的に捉えることについて理解する。	医療と福祉の社会学の射程	相良	<input type="checkbox"/>							
2	医療施設について確認し、その入院生活について、社会的に理解する。(第1章)	医療施設と入院生活	相良	<input type="checkbox"/>							
3	家庭が医療の場になった背景を確認し、家庭での医療の展開について社会的に理解する。(第1章)	医療の場としての家庭	相良	<input type="checkbox"/>							
4	医療多元主義と健康の自己管理が求められることの影響について社会的に理解する。(第1章および第19章)	医療多元主義と健康化社会	相良	<input type="checkbox"/>							
5	医師と患者の関係性について、社会的に理解する。(第3章)	医師と患者	相良	<input type="checkbox"/>							
6	医療化およびそれが社会にもたらす影響について、理解する。(第3章)	医療化とその影響	相良	<input type="checkbox"/>							
7	「病気」になることの主観的な経験について、社会的に理解する。(第3章)	「病気」を経験する	相良	<input type="checkbox"/>							
8	現代社会における出産のあり方について、社会的に理解する。(第2章)	現代社会と出産	相良	<input type="checkbox"/>							
9	先端医療について社会的に捉え、「脳死」問題などにおける生命倫理について理解する。(第4章)	先端医療と生命倫理	相良	<input type="checkbox"/>							
10	看護職と専門職論について、社会的に理解する。(第7章)	看護職と専門職論	相良	<input type="checkbox"/>							
11	ライフコースについて、社会的に理解する。(第8	ライフコースの社会学	相良								

	章)			<input type="checkbox"/>
12	メンタルヘルスクエアの関心の高まりについて理解する。(第9章)	社会現象としてのメンタルヘルスクエア	相良	<input type="checkbox"/>
13	当事者の語りをつうじて、認知症者としての経験を理解する。(第16章)	認知症を経験する	相良	<input type="checkbox"/>
14	当事者の語りをつうじて、ハンセン病者としての経験を理解する。(第17章)	ハンセン病者の半生	相良	<input type="checkbox"/>
15	本講義のまとめを行う。	本講義のまとめ	相良	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
「社会学」を受講していると本講義の理解がより進むと思われます。 シラバスの通りですが、比較的多くの学習ならびに準備時間が必要になる講義となります。				
教科書				
藤村正之編著, 2011, 『いのちとライフコースの社会学』 弘文堂。				
参考書、教材等				
新藤雄三・黒田浩一郎編著, 1999, 『医療社会学を学ぶ人のために』 世界思想社。 中川輝彦・黒田浩一郎編著, 2010, 『よくわかる医療社会学』 ミネルヴァ書房。				
評価方法				
出席を前提とするリフレクションペーパー (30%) 期末レポート (70%)				
授業外における学習方法				
・教科書の予習箇所に関しては、予めお伝えします。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
毎回配布予定のリフレクションペーパーに対する応答は適宜行います。				
【アンケートから】 授業評価アンケートや受講者から直接口頭などから概ね興味深い講義だったという評価をいただきました。 ただし、内容がやや難解だったという声もありましたので、できるかぎり丁寧に時間をかけて解説を心がけたいと思っています。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/02/25 14:49				<input type="button" value="印刷"/> <input type="button" value="閉じる"/>

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		共生社会										
授業科目名												
カリキュラム2019												
高齢者保健福祉論 Social Work With Older Adults in Health Care Practice												
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限					
1	217402701	後期					金曜5限					
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別												
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職			
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻				
1				3○	3○							
履修における注意点・履修条件等												
平成24年度以降の入学生対象。《本授業は、対面授業を基本とするが、ゲストスピーカの回は遠隔を用いる。》												
科目責任者	梅崎 薫			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義				
科目担当者												
科目に関連する実務経験	○ 大病院にて医療ソーシャルワーカーとして勤務。主に、リハビリテーション、精神科ソーシャルワーク、透析ソーシャルワーク、ターミナルケアに従事。その後、精神科クリニック、地域リハビリテーション活動に従事。特別養護老人ホーム設立準備、高等学校福祉科設立。障害当事者の自立生活センターにおけるピアカウンセリング養成事業の協力。現在は、独立型社会福祉士事務所（NPO法人）にて成年後見、虐待対応にも関与。											
授業の概要												
高齢者とその家族を取り巻く社会環境は急速に変化している。高齢社会の問題は介護問題にとどまらず、高齢者と同居する成人の子の生活困窮問題も含む。本授業では国内外の既存統計や報告書、実践されている援助方法やマニュアルなどを通して高齢者とその家族がおかれている状況を理解し、援助者に必要な専門的知識や技術・視点について、受講者とともに考える。また虐待対応として有効と考えられている方法や予防的介入についても学ぶ。《本授業は、すべて双方向性遠隔授業とする》												
学習のねらい												
高齢者虐待を未然に防ぐ地域づくり、予防的介入方法に関して理解できる												
関連するディプロマポリシー												
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域				
		○			○			○				
授業の到達目標及び授業概要												
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者				
1	オリエンテーション			学習の到達目標、授業の進め方を案内する			梅崎	□				
2	わが国の高齢者人口の変遷			既存統計から わが国の高齢者人口の変遷を知る			梅崎	□				
3	わが国の高齢者と家族の変化			わが国における高齢者と家族の変化を知る			梅崎	□				
4	高齢者虐待とは			高齢者への虐待防止法の理解 実態			梅崎	□				
5	高齢者虐待に関する海外の状況			欧米における実態報告書等から学ぶ			梅崎	□				
6	わが国における高齢者虐待への対応			高齢者虐待対応マニュアルにみる対応方法			梅崎	□				
7	日本社会福祉士会による対応マニュアル			緊急性の判断・アセスメント、方針決定と対応			梅崎	□				
8	権利擁護とアドボカシー、成年後見制度			越谷市における権利擁護事業、成年後見・市民後見活動			梅崎	☑				
9	成年後見とソーシャルワーク			成年後見制度の活用、社会福祉士が後見する意義			梅崎	□				
10	虐待対応で有効と考えられている介入方法			解決志向アプローチによる家族支援			梅崎	□				
11	虐待対応で有効と考えられている介入方法			リフレクティング・プロセス			梅崎	□				
12	虐待対応で有効と考えられている介入方法			修復的正義アプローチ、修復的対話			梅崎	☑				
13	福祉における予防的実践と地域づくり			地域における新しい家族支援 修復的対話サークル			梅崎	□				
14	地域における予防的実践と地域づくり-専門職と住民ボランティアとの連携-			地域におけるRJ対話の会 新たなボランティア活動の担い手との連携			梅崎	□				
15	総括			これからの地域福祉活動			梅崎	□				
教科書												
特に指定しない												
参考書、教材等												
配布資料を用いて授業する。参考図書は授業中に紹介する。												
評価方法												

受講時の参加態度、授業中に課す小レポートなどを評価対象とする。グループ討議への参画および受講態度（50%） レポート（50%）

授業外における学習方法

各回に、次回までの事前学習を指示するので、準備して臨んでほしい。配布した資料は毎回持参すること。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

受け身的に学ぶのではなく主体的に考え、積極的に授業に参加してください。批判的・分析的に考える力を養いましょう。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考
8	成年後見センター長	越谷市における日常生活自立支援事業、成年後見・市民後見人の活動を紹介	越谷市社会福祉協議会
12	片野 淳彦	修復的対話の実践家	ゲストは遠方のため、遠隔授業となる

最終更新日: 2022/04/11 12:32

印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		精神保健福祉									
授業科目名											
カリキュラム2019											
精神科ソーシャルワーク論Ⅲ Psychiatric Social Work III											
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限				
1	217404001	後期					金曜1限				
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職		
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻			
1				3○	3○						
履修における注意点・履修条件等											
精神保健福祉士必修科目。											
科目責任者	高島 恭子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義			
科目担当者	高島恭子										
科目に関連する実務経験											
授業の概要											
医療職等、他職種とともに地域の様々な資源を活用しながら機能する精神科ソーシャルワークという営みについて理解を深めるために、多様な現場や様々な疾患や障害に関する事例をもちい、学生が自ら考える力をつけていくことを目指す授業とする。 授業は原則として対面授業とするが、コロナウィルスの感染拡大等の状況によっては遠隔授業（オンライン又はオンデマンド）を行う場合もある。											
学習のねらい											
精神科ソーシャルワーク論ⅠとⅡを基盤として、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークに関するさらに具体的な知識を獲得する。以下を学習のねらいとする。 ① 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 ② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。 ③ 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する。 ④ 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。 ⑤ 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実践について理解する。 ⑥ 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。 ⑦ 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実践について理解する。 ⑧ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。											
関連するディプロマポリシー											
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的			連携・統合			国際的・地域			
		○			○						
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標	授業概要				担当教員	講演者				
1	精神保健医療福祉の歴史と動向を理解する	・オリエンテーション ・精神保健医療福祉の歴史と動向、精神科病院の特性について理解する				高島	<input type="checkbox"/>				
2	精神障害者に対する支援の基本的考え方と必要な知識を理解する	・精神障害者に対する支援の基本的な考え方（ノーマライゼーション、ストレングス、リハビリ、レジリエンス等）と必要な知識を学ぶ ・精神障害者の人権について考える				高島	<input type="checkbox"/>				
3	精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する	・精神科リハビリテーションの概念と理念、基本原則、構成と展開、プロセスについて学ぶ				高島	<input type="checkbox"/>				
4	精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する（1）	・精神科リハビリテーションとしての作業療法について学び、チーム医療における精神保健福祉士の役割を考える				高島	<input type="checkbox"/>				
5	精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する（2）	・精神科リハビリテーションとしての集団精神療法、グループワークについて学び、チーム医療における精神保健福祉士の役割を考える				高島	<input type="checkbox"/>				

6	精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用する方法について理解する（3）	・精神科リハビリテーションとしての行動療法、認知行動療法、SSTについて学び、チーム医療における精神保健福祉士の役割を考える	高島	<input type="checkbox"/>
7	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する（1）	・精神保健福祉分野における障害者家族の課題、家族理解の変遷、家族心理教育について学ぶ	高島	<input type="checkbox"/>
8	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する（2）	・精神障害に関連したケアラーのニーズ、ケアラー・ヤングケアラー支援、家族のリカバリーについて考える	高島	<input type="checkbox"/>
9	精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する（1）	・精神障害者の支援モデル、相談援助の過程及び対象者との援助関係、相談援助活動のための面接技術、相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む。）を学ぶ ・精神科デイケアを学ぶ	高島	<input type="checkbox"/>
10	精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する（2）	・地域移行の対象及び支援体制、地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む。）、精神障害者のケアマネジメントを学ぶ ・アウトリーチ、訪問看護、ACTについて学ぶ	高島	<input type="checkbox"/>
11	精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する	・地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方、地域を基盤にした支援とネットワーキングを学ぶ ・多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）とチームビルディングを学ぶ	高島	<input type="checkbox"/>
12	地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する	・地域アセスメント、地域における精神保健福祉に関する普及啓発活動について考える ・スーパービジョンとコンサルテーションを学ぶ	高島	<input type="checkbox"/>
13	地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する（1）	・地域の協議会、福祉計画について学び、その活用を考える ・地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について学ぶ	高島	<input type="checkbox"/>
14	地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する（2）	・地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について学ぶ（ゲストスピーチ）	高島	<input checked="" type="checkbox"/>
15	まとめ	授業科目全体を振り返り、精神障害者の人権とソーシャルワークについて考える	高島	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
ゲストスピーカーによる講義 1回。 状況が可能であれば、学外授業（見学）を1回予定している。				
教科書				
指定しない。				
参考書、教材等				
「最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法〔精神専門〕」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規） 「新 精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（第2版）」日本精神保健福祉士養成校協会編（中央法規）				
評価方法				
リフレクションシート（59%）、期末レポート（41%）により評価する。				
授業外における学習方法				
授業内容を復習し、キーワードを確認する。それらを通して感じたこと、考えたことをリフレクションとして毎回提出する。 授業中に課される課題に取り組むほか、精神保健福祉領域における今日的な課題についての情報収集に努める。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
12-15	内海 美咲 様	自治体の機関で精神保健福祉士として地域で活躍するソーシャルワーカーの実務に関する講義を受ける。		
最終更新日：2022/02/25 11:33				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		精神保健福祉											
授業科目名													
カリキュラム2019													
精神保健福祉の原理 II Philosophy of Social Work in Mental Health and Disabilities II													
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限					
1	217410101			後期				水曜2限					
ナンバリング													
B_SSW2320													
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別													
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職				
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻					
1				2○									
履修における注意点・履修条件等													
精神保健福祉士資格取得希望者は必修													
科目責任者	河村 ちひろ			単位数・時間数	2 単位 30 時間		授業形態	講義					
科目担当者													
科目に関連する実務経験													
授業の概要													
学習のねらい													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域					
○				○		○							
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員		講演者			
授業計画に関する特記事項													
ゲストスピーカーによる講義を1回予定している。													
教科書													
教科書：指定しない													
参考書、教材等													
参考書：適宜、テーマに応じた参考書籍・文献等を紹介する。 教材：適宜、資料を配布する。													
評価方法													
(1)リフレクションシート (60%) (2)課題レポート(40%)													
授業外における学習方法													
授業内容を復習し、それぞれの回で取り上げられたメンタルヘルスに関わる課題と支援を確認する。それらを通して感じたこと、考えたことをリフレクションとして毎回提出する。													
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント													
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報													
回	講演者氏名			講演の概要				備考					
最終更新日：2022/04/04 11:48													
												印刷	閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目						実習・演習					
授業科目名											
カリキュラム2019											
ソーシャルワーク演習 I Social Work Practice I											
No.	時間割番号					開講時期			曜日・時限		
1	217405501					後期			木曜4限		
ナンバリング											
B_SSW1620											
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別											
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職		
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻			
1				1◎	3○						
履修における注意点・履修条件等											
<p>本科目は、ソーシャルワーク演習Ⅱ～Ⅳの基盤を各自が培えるよう多様な学習方法を取り入れているため、主体的参加を期待する。また、ソーシャルワーク実習Ⅰの先修条件となっているため、留意されたい。</p> <p>※福祉子ども学専攻の学生は他学科等科目履修申請書の提出が必要な科目である。※社会福祉士受験資格取得のための指定科目である</p>											
科目責任者	大岡 華子			単位数・時間数	1 単位 30 時間		授業形態	演習			
科目担当者	髙末憲子、木下聖、大岡華子、富田文子										
科目に関連する実務経験	○	生活困窮者支援 (NPO) や障害者施設での現場経験の話を講義の中で話す予定である。									
授業の概要											
※対面で実施予定だが、新型コロナウイルスの状況により授業の実施方法を変更する場合があるので、メール等必ず確認すること。											
<p>ヒューマンケア体験実習をふまえソーシャルワーク概論等での学習を中心に、ソーシャルワーク演習Ⅱ～Ⅳの基盤となる対人援助やコミュニケーション、ソーシャルワークの基本となるテーマについて、ソーシャルワーカーとしての資質や姿勢を涵養し、技術の習得を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が各演習に主体的に取り組み、テーマの意義や理解を深め発展させることのできるような考え方や姿勢など基本的能力を培う。 ・他の学生や各グループの担当教員との相互作用を実感しながら、毎回のテーマを自分自身の問題としてとらえて内在化を図り、自己理解と自己覚知を深める。 ・自ら表現し他者に伝えること、他者の意見を受け入れる、話を促すなどの基本的コミュニケーション技術について体得する。 ・自己評価や他者評価をもとに、自らの変化と成長について振り返り、今後の目標と課題を見出す。 											
学習のねらい											
本科目の内容は、福祉専門職としての価値観や知識・技術の基盤となっている。すなわち、保健医療福祉の専門職チームと連携・協働を図るための基本的なコミュニケーション技術や自己覚知への理解に必須である。											
関連するディプロマポリシー											
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域							
○		○	○								
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者	
1	・目標や方法、プログラムや留意点などを理解する。 ・グループ間の関係づくりを行う				オリエンテーション ・オリエンテーションと自己紹介 ※Web Class 活用				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	
2	・実習体験を共有化し、本科目を理解する				ヒューマンケア体験実習の振り返り ・実習体験の共有化と演習目標の確認				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	
3	・人間の多様な感情や行動を理解する ・人間の多様な感情や行動を理解する				対人援助の基礎 ・人間理解				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	
4	・自己の性格特性や感情反応等を理解する				対人援助の基礎 ・自己理解と自己覚知※Web Class 活用				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	
5	・他者の感情や思考の多面的な理解を学ぶ				対人援助の基礎 ・他者理解				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	
6	・利用者と対等な関係である事、強さを見出し尊重する考え方を理解する				ソーシャルワークの価値 ・対等な関係性 ※Web Class 活用				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	
7	・価値の多義的意味や個性性への理解を深め、尊重する姿勢を培う				ソーシャルワークの価値 ・普遍的価値 ※Web Class 活用				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	
8	・コミュニケーションの基本と特性を理解し、自己覚知を深める				コミュニケーションの基礎 ・双方向のコミュニケーション ・言語表現と非言語表現 ・質問				大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>	

9	・質問、基本的関わり技法（促しや傾聴）を体得する	コミュニケーションの基礎 ・基本的関わり技法	大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>
10	・自己表現と共感的理解の意義や相互関係について理解する	コミュニケーションの基礎 ・自己表現と共感的理解 ・インタビュー ※Web Class 活用	大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>
11	・観察と記録〜ピアレビューによる自己学習〜	コミュニケーションの基礎 ・記録体験と他者の記録レビュー ※Web Class 活用	大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>
12	・グループワークを通じて、コミュニケーション・記録、アセスメントの関係性について理解する	コミュニケーションの基礎 ・記録法 ※Web Class 活用	大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>
13	・ライフストーリーの課題をもとに、コミュニケーション・生活課題についての学びを深める。	ソーシャルワークの基礎 ・意図的なコミュニケーションを活用したインタビュー ・演習課題（ライフストーリー）から学ぶ	大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>
14	・キャリアの課題をもとに、ソーシャルワーカーのアイデンティティとキャリアや自己教育力を理解する。	社会福祉援助の専門職として ・アイデンティティとキャリア発達まとめ	大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>
15	・自己評価と他者評価を素材に振り返りを行い、今後の課題を考察する	・自己評価と他者評価 ※Web Class 活用	大岡、髙末、木下、富田	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない 適宜、プリントを配付する。				
参考書、教材等				
保正友子・鈴木真理子他（2006）『キャリアを紡ぐソーシャルワーカー20代・30代の生活史と職業像』筒井書房 鈴木真理子（2010）『ソーシャルワーカーという生き方 15人のキャリアとライフストーリー』中央法規 『福祉のお仕事アクセスガイド』社会福祉法人 全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター				
評価方法				
授業への参加態度、レポート、振り返りシート、Webclassへの提出物などを総合的に評価する。なお、欠席は、成績評価に厳しく適用される。				
授業外における学習方法				
Web Classによる事前・事後学習、授業中の課題提出、レポート提出などがあるため、オリエンテーションおよび、その後の連絡に留意すること。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
ソーシャルワーカーとしての実践力を高めていくには、学生自身が講義と実習、演習を連続した学びとして積み上げていく必要がある。その過程において価値観を具現化するための知識・技術を自己のものとして統合化することが求められる。また、グループ担当教員の専門分野の違いや各学生の状況により、学習方法やそのプロセスは異なってくる場合もあることに留意されたい。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/02/15 14:05				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目				社会福祉研究					
授業科目名									
カリキュラム2019									
社会福祉専門演習 II Specialized Social Work Seminar II									
No.	時間割番号	開講時期		曜日・時限					
1	217407101	後期		集中					
2	217407102	後期		集中					
3	217407103	後期		集中					
4	217407104	後期		集中					
5	217407105	後期		集中					
6	217407106	後期		集中					
7	217407107	後期		集中					
8	217407108	後期		集中					
9	217407109	後期		集中					
10	217407110	後期		集中					
11	217407111	後期		集中					
12	217407112	後期		集中					
13	217407113	後期		集中					
14	217407114	後期		集中					
15	217407116	後期		集中					
16	217407117	後期		集中					
17	217407118	後期		集中					
ナンバリング									
B_SSW3740									
配当年次 および 必須 (●)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				3●	3○				
2				3●	3○				
3				3●	3○				
4				3●	3○				
5				3●	3○				
6				3●	3○				
7									
8				3●	3○				
9				3●	3○				
10				3●	3○				
11				3●	3○				
12				3●	3○				
13				3●	3○				
14				3●	3○				
15				3●	3○				
16				3●	3○				
17				3●	3○				
履修における注意点・履修条件等									
科目責任者	朝日 雅也		単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習		
科目担当者	朝日雅也、寫末憲子、小川孔美、梅崎薫、福田素生、河村ちひろ、木下聖、保科寧子、大岡華子、相良翔、伊藤善典、大島千帆、佃志津子、富田文子、高島恭子								
科目に関連する実務経験	<input type="radio"/>	担当教員は様々な福祉関連領域での実践を踏まえた上で、研究、教育、社会貢献を遂行している。							
授業の概要									

演習を担当する教員毎に、そこに参加する学生の関心や問題意識に応じて、多様な演習形式（関連テーマについてのディスカッション、文献の輪読、調査、グループ活動、見学、政策提言等…）による学習を行う。先に開講された社会福祉専門演習Ⅰでの学習と併せて、4年次の社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳまたは精神保健福祉ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ、さらには卒業研究に向けての学習課題を明らかにする

学習のねらい

少人数の学生による演習の実施により、社会福祉における様々な対象や課題について、支援方法、歴史的な変遷、基礎となる価値観、社会的背景等の切り口から探究する力を修得する。社会福祉の分野における専門演習ではあるが、対象とする生活課題については、保健医療分野や他の関連分野との連携を通じた、支援対象者における統合された福祉サービスや支援を検討することが多いといえる。

関連するディプロマポリシー

対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域
	○	○		

授業の到達目標及び授業概要

回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者
1-15	社会福祉における様々な対象や課題について、支援方法、歴史的な変遷、基礎となる価値観、社会的背景等の切り口から探究する姿勢を身につける。	演習を担当する教員毎に、そこに参加する学生の関心や問題意識に応じて、多様な演習形式（関連テーマについてのディスカッション、文献の輪読、調査、グループ活動、見学、政策提言等…）による学習を行うので、上記の目標を達成することを共通にしながら、それぞれの指導教員の指示により進行される。なお、教員毎の演習の進め方、素材の選択方法、テーマの設定あり方については、別途、社会福祉専門演習の履修ガイドを参照されたい。	朝日、髙末、市村、小川、梅崎、福田、河村、木下、保科、大岡、相良、伊藤、大島、佃、富田、高島	<input type="checkbox"/>

授業計画に関する特記事項

授業は原則としてオンライン授業（zoom）で行います。接続方法に関するURLなどは授業開始1週間前に皆様にご連絡いたします。

教科書

教科書や参考書は、担当する教員から必要に応じて指示します。

参考書、教材等

評価方法

演習を担当する教員により多少異なりますが、演習への取り組み等により総合的に評価します。

授業外における学習方法

グループで有意義な演習を行うためには、各メンバーが毎回しっかりと文献研究や情報整理のための時間を取って、臨んでいただくことが大切です。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

学生の個別の関心に基づいて展開する本演習は「ゼミ」と称され、大学における主体的な学習の「大変さ」と「楽しさ」を実感する機会といえます。幅広い視野と旺盛な探究心と問題意識、積極的な議論への参加、そして仲間との協力が「ゼミ」を豊かなものにするでしょう。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2021/12/27 14:38

印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉研究							
授業科目名									
カリキュラム2012									
社会福祉専門演習Ⅳ Specialized Social Work Seminar Ⅳ									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217407301	後期	集中						
2	217407302	後期	集中						
3	217407303	後期	集中						
4	217407304	後期	集中						
5	217407305	後期	集中						
6	217407306	後期	集中						
7	217407307	後期	集中						
8	217407308	後期	集中						
9	217407309	後期	集中						
10	217407310	後期	集中						
11	217407311	後期	集中						
12	217407312	後期	集中						
13	217407313	後期	集中						
14	217407314	後期	集中						
15	217407315	後期	集中						
16	217407316	後期	集中						
17	217407317	後期	集中						
ナンバリング									
B_SSW4750									
配当年次 および 必須 (○)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入								
1				4○	4○				
2				4○	4○				
3				4○	4○				
4				4○	4○				
5				4○	4○				
6				4○	4○				
7									
8				4○	4○				
9				4○	4○				
10				4○	4○				
11				4○	4○				
12				4○	4○				
13				4○	4○				
14				4○	4○				
15				4○	4○				
16				4○	4○				
17				4○	4○				
履修における注意点・履修条件等									
特になし									
科目責任者	市村 彰英		単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習		
科目担当者	朝日雅也、寫末憲子、小川孔美、梅崎薫、福田素生、河村ちひろ、木下聖、保科寧子、大岡華子、相良翔、伊藤善典、大島千帆、佃志津子、富田文子、高島恭子								
科目に関連する実務経験	<input type="radio"/>	担当教員は様々な福祉関連領域での実践を踏まえた上で、研究、教育、社会貢献を遂行している。							
授業の概要									

社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで培った学生の関心や問題意識に基づき、社会福祉の各領域・分野における理論や実践についての学習成果を踏まえ、より高度で複雑な課題についてゼミ方式で探究していく。社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと同様に、社会福祉における対象や援助の方法、それを支えるシステムや歴史的な変遷、基盤となる価値観等について様々な素材を用いて、多様な切り口や手法で学習を進めていく。

学習のねらい

多様な主体的学習を通じ、知識と技術の統合化を進めるとともに、4年間にわたる社会福祉の学びの統合化を図ることを目標とする。連携と統合の視点については、対象とするテーマや素材によっても異なるが、多様な生活課題を対象にするうえで、保健医療の分野はもとより、様々な領域や専門分野との連携を図りつつ、支援対象者等における統合的なサービスや支援の提供は欠かせないものであり、その重要性を認識することになる。

関連するディプロマポリシー

対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域
	○	○		

授業の到達目標及び授業概要

回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者

授業計画に関する特記事項

授業は原則対面で行いますが、オンライン授業（zoom）で行う場合には、接続方法に関するURLなどは1週間前にWebClassで皆様にご連絡いたします。

教科書

各指導教員の指示により、指定・紹介します。

参考書、教材等

評価方法

演習への取組状況等を踏まえて、総合的に評価します。

授業外における学習方法

グループで有意義な演習を行うためには、各メンバーが毎回しっかりと文献研究や情報整理のための時間を取って、臨んでいただくことが大切です。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

4年次の後半の科目のため、卒業研究や国家試験対策との両立に苦労することがあるかもしれませんが、むしろ、それらとの積極的な関連付けを図りながら、集大成の演習として積極的に授業参加することを期待します。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/03/22 16:56

印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		社会福祉							
授業科目名									
カリキュラム2019 子ども家庭支援の心理学 Psychology of Supporting Family with Child									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217404601	後期	水曜5限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW3400、子ども学 :B_SCS3710									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				3○ 3○	3○				
履修における注意点・履修条件等									
保育士必修									
科目責任者	森 正樹			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義	
科目担当者									
科目に関連する実務経験	○	本科目の担当者は、障害のある子ども達の療育施設、保健センター、教育センター等で相談業務に従事してきました。また、現在も、保育所や小中学校への巡回相談で保育者や教師を対象に、子どもや家族の支援に関するコンサルテーションを行っています。こうした実践経験を活かし、理論を具体的に解説するとともに、実践的授業内容を提供します。							
授業の概要									
【1】授業の形態 原則、対面授業とする。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、遠隔オンライン授業への変更もあり。※ 最新情報を確認すること									
【2】授業の進め方 ①発達支援と家族支援の各種研究や実践の成果、文献や映像資料、当事者の手記等、様々な教材をもとに学習を進めます。 ②授業では、グループワークを多く行います。「発展問題」に基づくディスカッションや、架空事例を用いた「事例検討」を行います。 ③発達心理学の知識、カウンセリングの基礎的技法、実習やボランティア活動など、学生の既存の知識や経験を総合的に活用する課題を出題します。									
学習のねらい									
保育や教育、あらゆる対人援助の領域において、人間理解の発達の視点が必要とされます。同時に、家族の機能とそのニーズを理解する観点も欠くことができません。そこで本科目では、生涯発達に関する心理学の基礎的理解、及び親子関係や家族関係についての発達の観点での理解に基づき、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健の諸課題、そして支援の諸課題と方法を学んでいきます。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○	○	○					
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要			担当教員	講演者			
1-2	家族と家庭を多角的に理解する。	①家族・家庭の意義と機能 ②親子関係・家族関係の理解 ③子育ての経験を通じた親の育ち			森	□			
3-4	家庭と子育てに関する現状と課題を理解する。	☆現代社会と家族 ①少子高齢化と核家族化、地域社会と家族 ②ライフコースと子仕事・育て ③家族の多様な姿とその理解 ④特別な配慮を要する家庭 ☆家族をめぐる諸課題－理解と支援－ ①育児不安を抱える親とその家族 ③虐待の問題を抱える家族 ④非行の問題を抱える家族 ⑤障害のある子どもを養育する家族等 (各種の資料の読み取り課題等を予定)			森	□			
5-8	生涯発達のプロセスを理解する。	①発達のプロセス(幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期)の各段階の発達課題の理解 ②運動・認知・言語・社会性など各領域の発達の理解			森	□			
9-10	子どもの精神保健とその課題	①子どもの生活・生育環境と発達への影響 ②子どもの心の健康と支援の諸課題			森	□			
11-15	上記の学習を踏まえ、家庭支援の観点や具体的方法	①育児不安を抱える家庭の理解と支援			森				

を学ぶ	②障害のある子どもと家庭の支援 (幼児期～学齢期) ③対人援助の基本的な心構えと技法 ※仮想事例をもとにしたグループワーク		<input type="checkbox"/>
教科書			
【教科書】『子ども家庭支援の心理学』（編著）本郷一夫・神谷哲司 建帛社			
参考書、教材等			
評価方法			
授業への参加度と意欲等の平常点（50%）、レポート課題結果等（50%）により、総合的に評価を行なう。			
授業外における学習方法			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
教員からひとこと この授業を通じて、皆さん自身がこれまで「支えられて」育ち、今も「支えられている」ことに気づくでしょう。これからは、各々の道で、皆さんが「支える人」へと成長してくれることを願います。学生の皆さんには、積極的な発言と参加を期待します。 (※) 上記の学習計画は、受講者の学習の進捗、理解度、学習上のニーズにより変更や修正が生じる場合があります。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日: 2022/02/25 17:52			印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
教育原理 (幼) Principles of Education(Kindergarten)									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217600201	後期	木曜3限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW1400、子ども学 :B_SCS1310									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				1○ 3○	1◎				
履修における注意点・履修条件等									
幼稚園教諭一種免許状・保育士資格必修									
科目責任者	田口 賢太郎	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義				
科目担当者									
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
<p>教育の目的と本質、行政・制度、内容と方法、具体的な実践とその評価等、教育に関する各種トピックについて、特に幼児教育・保育について重点的に取り上げ、歴史的に学ぶ。また、これらの理解にあたっては、日本および西洋の思想家の思想についても触れる。生涯にわたる人格形成の基礎を培う教育について自ら考察するための基礎的な事項を学ぶ。</p> <p>なお、本授業は、基本的には対面授業を主として遠隔授業を併用して行う。対面・遠隔にかかわらず、webclassを通じて授業関連資料を提供し、課題等を課す。</p>									
学習のねらい									
<p>(1) 教育の目的と本質、行政・制度、内容と方法、具体的な実践とその評価等を歴史的な視点から理解する。</p> <p>(2) 現代の教育が抱える問題等について自身の考えをまとめ、表現することができる。</p> <p>(3) 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の歴史的変遷と内容、主要な教育法規について理解する。</p>									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○							
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	教育に興味をもち、本授業の意義とねらいを理解する	第1回：オリエンテーション、「教育」のイメージ	田口	□					
2～8	教育の目的と本質、行政・制度、内容と方法、具体的な実践とその評価について理解する。	第2回：教育の原理、教育を支えるもの 第3回：教育と法・制度 第4回：教育内容 第5回：教育の方法論 第6回：カリキュラムと指導計画 第7回：教育の可能性と不可能性 第8回：教育と学校	田口	□					
9～10	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容、主要な教育法規について理解する。	第9回：教育の評価 第10回：教師と保育者	田口	□					
11～15	現代の教育が抱える問題等について自身の考えをまとめ、表現することができる。代表的な教育家の思想を理解する	第11回：子ども像の変化 第12回：家族と子ども 第13回：教育の政治性 第14回：世界の教育 第15回：いま、現代の教育課題	田口	□					
教科書									
指定しないが、授業前後に適宜資料を配布する。									
参考書、教材等									
<p>「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」厚生労働省（フレーベル館）</p>									

授業中に適宜資料を配付する。

評価方法

毎授業において課す小ワーク（60%）、課題レポート（40%）

授業外における学習方法

予習では、教科書や配付資料に目を通し、復習では、授業内容を確認すると共に、疑問に思ったこと、興味をもったことについて自分なりに探究し、わかったことを次の授業で発表してください。
また、書籍、新聞、映画、テレビ、インターネット等で多く教育に関する情報に触れる機会をもち、常に自分の頭で考え、分析し、考察するよう心がけてください。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

自分の目指す理想の教育について考えるにあたって様々な視点を確保できるよう、普段から、授業において学んだことをほかの関連する授業等に結びつけて具体的に考えるようにしてください。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/02/24 11:49

印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
保育の心理学Ⅱ Psychology of Child Care and Education II									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217600501	後期	水曜4限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW1400、子ども学 :B_SCS1320									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				1○	3○	1◎			
履修における注意点・履修条件等									
保育士必修									
科目責任者	越智 幸一			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習	
科目担当者	—								
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
この授業では、まず子どもの発達を理解することの意義を学ぶ。次に学習における様々な理論的背景についても理解を深める。そして子どもたちが様々な集団や生活、遊びを通じてどのように学んでいくのかという学習の過程を理解していく。また、学習の過程において、子どもたちの主体性を尊重しながら、どのように学習活動を支援していくべきかという点を学んでいく									
学習のねらい									
幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 (1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 (2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 (3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達について、その具体的な内容を理解している。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○	○						
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	子どもの発達を理解することの意義および子ども理解の方法について理解できる	子どもの発達を理解することの意義 - 発達理解の方法	越智	□					
2	学習の形態や学習過程に関する諸理論について理解できる	学習の形態や学習過程に関する諸理論 - 個人差、発達の最近接領域について -	越智	□					
3	環境との相互作用について理解できる	環境との相互作用について	越智	□					
4	人的環境としての保育者の役割について理解できる	人的環境としての保育者の役割	越智	□					
5	子ども相互の関わり、集団づくりについて理解できる	子ども相互の関わり、集団づくりについて	越智	□					
6	子ども集団の発達について理解できる	子ども集団の発達	越智	□					
7	生活のなかでの子どもの学びについて理解できる	生活のなかでの子どもの学び - 具体的な学習の過程 (レスポンド条件づけ、オペラント条件づけ、モデリング) -	越智	□					
8	遊びを通じた学びについて理解できる	遊びを通じた学びとは	越智	□					
9	基本的な生活習慣の獲得について理解できる	基本的な生活習慣の獲得 - 応用行動分析の考え方 -	越智	□					
10	自己主張と自己抑制について理解できる	自己主張と自己抑制	越智	□					
11	子どもの主体性と動機づけについて理解できる	子どもの主体性と動機づけ - 外発的動機づけ、内発的動機づけ -	越智	□					
12	生涯にわたる生きる力の基礎について理解できる	生涯にわたる生きる力の基礎を培うために	越智	□					
13	学びの連続性と就学支援について理解できる	学びの連続性と就学支援 - 幼小連携について -	越智	□					
14	発達援助における協働について理解できる	発達援助における協働とは	越智	□					

15	現代社会における子どもの発達と保育の課題について理解できる	現代社会における子どもの発達と保育の課題	越智	<input type="checkbox"/>
				<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
授業は基本的に対面で実施します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては授業形態が変更になる可能性もあります。その際は連絡します。				
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府 文部科学省 厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省）				
評価方法				
定期試験（55%）、各回の小課題（45%）				
授業外における学習方法				
各回の授業後には、授業内容をまとめておくこと。各回で関心を持ったテーマを自分でインターネットや情報センターで調べてみることに。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/03/28 16:47				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
特別な教育・保育ニーズの理解とその支援 Understanding and Support for Young Child with Special Needs									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217600601	後期	火曜1限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW3420、子ども学 :B_SCS3320									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				3○	3○	3◎			
履修における注意点・履修条件等									
保育士必修・教職（幼稚園教諭）必修									
科目責任者	林 恵津子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習	
科目担当者	森正樹、林恵津子								
科目に関連する実務経験	○	担当教員は、専門療育施設・相談機関、保育所や幼稚園及び小中高等学校において、発達障害のある子ども達への支援、保護者への相談業務に従事してきた。また、保育者や教員を対象とする巡回相談も担当し、コンサルテーション業務を担ってきた。こうした実践経験を踏まえ、障害のある子ども達や人々の困難と支援について、学生がより具体的にイメージしやすい授業を提供する。							
授業の概要									
第1回目、2回目、7回目、14回目、15回目は対面での授業を行う。 本講義は、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達の理解、支援の方法を理解について取り扱う。加えて、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、具体的には、貧困や被虐待児、外国籍の子どもたちにおける学習上又は生活上の課題や困難とその対応を取り扱う。									
学習のねらい									
本講義では、幼稚園や保育所にも在籍している特別の支援を必要とする幼児を理解し、適切な教育的支援ができるような基礎的知識の習得を目標とする。そのために、幼児の生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応できるように必要な知識を身に付けるとともに支援方法を理解する。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○	○	○					
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	「障害」の概念や特別支援教育・障害児保育にかかる法制度について理解し、現状と課題を整理する。	障害の概念と特別支援教育・障害児保育の歴史の変遷	林、森	□					
2	地域社会への参加・包含の意義を理解し、合理的配慮について検討する。	地域社会への参加・包含および合理的配慮の理解	林、森	□					
3	肢体不自由の定義、起因疾患、心理特性、教育・保育におけるねらいを理解し、援助方法を考える。	肢体不自由児の理解と援助	林、森	□					
4	知的定義、起因疾患、心理特性、教育・保育におけるねらいを理解し、援助方法を考える。	知的障害児の理解と援助	林、森	□					
5	視覚・聴覚・言語障害の定義、起因疾患、心理特性、教育・保育におけるねらいを理解し、援助方法を考える。	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助	林、森	□					
6	発達障害児(ADHD、LD、ASD)の定義、心理特性、教育・保育におけるねらいを理解し、援助方法を考える。	発達障害児の理解と援助(ADHD、LD、ASD)	林、森	□					
7	重症心身障害児の定義、起因疾患、心理特性、教育・保育におけるねらいを理解し、援助方法を考える。医療的ケア児、その他特別な配慮を必要とする子どもの教育・保育における課題を理解する。	重症心身障害児、医療的ケア児、その他特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助	林、森	□					
8	個別の支援計画や指導計画の目的と内容、および計画策定における課題を理解する。	指導計画および個別の支援計画の作成	林、森	□					
9	障害のある子どもにとっても環境適応をふまえ、人	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のか	林、森						

	的環境としての保育者の役割を理解する。	かわり・育ち合い		<input type="checkbox"/>
10	障害児の健康上・安全上の問題を踏まえ、必要な配慮を考える。	障害児保育における子どもの健康と安全	林、森	<input type="checkbox"/>
11	職員間、保護者、関係機関、地域との連携・協働の意義と課題を理解する。	職員間の連携・協働	林、森	<input type="checkbox"/>
12	障害のある子どもの保護者や家庭に対する支援の必要性を踏まえ、支援の姿勢や具体的方法を考える。	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援	林、森	<input type="checkbox"/>
13	地域の専門機関との連携の必要性を踏まえ、連携の現状と課題を理解する。	地域の専門機関との連携	林、森	<input type="checkbox"/>
14	就学支援の実際を知り、幼稚園・保育所から小学校に就学するにあたっての支援の現状と課題を理解する。	小学校等との連携	林、森	<input type="checkbox"/>
15	障害児を取り巻く制度の変化を踏まえ、地域ネットワークの構築について考える。	福祉・教育における現状と課題	林、森	<input type="checkbox"/>
教科書				
新基本保育シリーズ17 障害児保育 児童育成協会(監修) 西村重稀、水田敏郎(編集) 中央法規				
参考書、教材等				
評価方法				
グループワーク後の課題レポート30%、定期試験70% 学習意欲や参加姿勢を考慮し総合的に評価				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
①コミュニケーション能力は専門性の基盤です。そこで、本講義では講師と学生間の“Interactive”な授業展開を目指します。学生諸君の、自発的な質問や発言、話題提供を大歓迎します。②講師は、障害児保育巡回相談や特別支援教育巡回相談等を通じて、障害のある子や家族への支援を行なっています。こうした実践を踏まえ、学生諸君の学びを深める内容を提供します。③希望する学生には、障害児保育を進める保育所、各種の研修・講演会、現職者との交流の機会を紹介します。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/02/04 11:00				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
教育行政（幼） Educational Administration (Kindergarten)									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217600701	後期	木曜2限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW2410、子ども学 :B_SCS2310									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				2○ 3○	2◎				
履修における注意点・履修条件等									
幼稚園教諭一種免許状・保育士資格必修									
科目責任者	田口 賢太郎	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義				
科目担当者									
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
<p>国や地方公共団体の行政機関が、教育政策を実現するため、各種教育法規を基礎に教育制度を運営し、どのように教育の整備と支援を行っているか、とりわけ就学前教育段階を中心として学ぶ。また、これとかがわって教育への社会的な関心や、教育の制度、経営的事項、学校・幼児教育施設と地域との連携、学校・幼児教育施設の安全管理について理解し、今後の課題についてそれぞれ考える。</p> <p>なお、本授業は、基本的には対面授業を主として遠隔授業を併用して行う。対面・遠隔にかかわらず、webclassを通じて授業関連資料を提供し、課題等を課す。</p>									
学習のねらい									
<p>国や地方公共団体の行政機関が教育政策を実現するため、各種教育法規を基礎に教育制度を運営し、どのように教育の整備と支援を行っているか、現代の学校・幼児教育施設について教育行政という視点からその仕組みを理解する。また、学校・幼児教育施設と地域との連携の具体的な取り組みについて理解し、幼児教育制度をめぐる諸課題について説明することができる。</p>									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	教育行政に興味をもち、本授業の意義とねらいを理解する。	第1回：オリエンテーション（授業の進め方等）について、現代の教育上の課題と行政	田口	<input type="checkbox"/>					
2～14	国や地方公共団体の行政機関が教育政策を実現するため、各種教育法規を基礎に教育制度を運営し、教育の整備と支援、安全管理を行っている仕組みを理解する。	第2回：公教育制度と理念 第3回：学校教育制度と関連法規 第4回：学校体系と各種の規定 第5回：就学前教育の制度と保幼小連携 第6回：学校の安全管理と初等教育制度 第7回：学校間の連携と前期中等教育制度 第8回：後期中等教育制度 第9回：高等教育制度 第10回：生涯教育と教育財政 第11回：教育行政の原理と実際 第12回：中央教育行政、文部科学省等の役割 第13回：地方教育行政、教育委員会等の役割 第14回：外国の教育行政	田口	<input type="checkbox"/>					
15	幼児教育制度をめぐる諸課題について説明することができる	第15回：現代における教育行政施策と学校・幼児教育施設経営の課題	田口	<input type="checkbox"/>					
教科書									
指定しないが、授業中に適宜資料を配付する。									
参考書、教材等									
「最新保育資料集2020」大豆生田啓友他編（ミネルヴァ書房） このほか、授業中に適宜資料を配付する。									

評価方法			
毎授業において課す小ワーク（60%）、課題レポート（40%）			
授業外における学習方法			
行政や法律等の言葉は聞き慣れないものや直観的に理解が難しいものやしばしばあるので、わからない用語等については調べるようにし、また、普段から授業において学んだことをほかの関連する授業等に結びつけて具体的に考えるようにしてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
自身の居住地の教育・保育行政について積極的に調べ、本授業で学習した内容の具体的な理解に努めてください。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日: 2022/02/24 11:49

[印刷](#) [閉じる](#)

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
保育・教育課程論 Curriculum Design in Early Childhood Care and Education									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217600801	後期	水曜2限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW2400、子ども学 :B_SCS2310									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				2○ 3○	2◎				
履修における注意点・履修条件等									
幼稚園教諭一種免許状・保育士資格必修									
科目責任者	田口 賢太郎	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義				
科目担当者									
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
<p>(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基準として各園において編成される教育・保育課程について、その意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を学ぶ。</p> <p>(2) 幼児の発達過程に応じた保育の指導計画を作成し、計画、実践、省察・評価、改善という一連のプロセスを通して保育の質を点検・評価する方法を学ぶ。</p> <p>なお、本授業は、基本的には対面授業を主として遠隔授業を併用して行う。対面・遠隔にかかわらず、webclassを通じて授業関連資料を提供し、課題等を課す。</p>									
学習のねらい									
<p>(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の性格及び位置付け、そして、改訂（改定）の変遷及び主な改訂（改定）内容並びにその社会的背景を理解し、教育・保育課程編成の目的、社会において果たしている役割や機能について説明することができる。</p> <p>(2) 教育・保育課程編成の基本的原理を理解し、幼稚園等の教育・保育実践に即した教育・保育課程編成およびその改善について自分の意見を表現することができる。</p> <p>(3) 横断領域的に各発達段階にわたってカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義や重要性、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。</p>									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
		○	○						
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	保育課程・教育課程に興味をもち、本授業の意義とねらいを理解する	第1回：オリエンテーション、保育の計画について	田口	<input type="checkbox"/>					
2	保育・教育課程編成の基本的原理を理解する	第2回：保育におけるカリキュラムの意義と役割	田口	<input type="checkbox"/>					
3～6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の性格及び位置付け、そして、改訂（改定）の変遷及び主な改訂（改定）内容並びにその社会的背景を理解し、教育・保育課程編成の目的、社会において果たしている役割や機能を理解する。	第3回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の性格及び位置付けとカリキュラム編成 第4回：ナショナルカリキュラムと幼稚園教育要領・保育所保育指針 第5回：幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂（改定）の変遷及び改訂（改定）内容 第6回：保育における領域の捉え方と幼保連携型認定こども園における計画等	田口	<input type="checkbox"/>					
7～8	幼稚園等の教育・保育実践に即した教育・保育課程編成の方法を理解する	第7回：教育内容とカリキュラムの編成 第8回：カリキュラムの立案の基礎、カリキュラムの生成原理と保育の質の向上	田口	<input type="checkbox"/>					
9～11	様々な「保育課程」「教育課程」（カリキュラム）を知り、教育・保育課程編成について自らの意見をまとめることができる	第9回：カリキュラム類型と幼保小接続 第10回：カリキュラムの開発アプローチ、カリキュラム編成の実際	田口	<input type="checkbox"/>					

		第11回：カリキュラムの編成要件、手順と年齢に応じた指導計画の作成		
12~14	横断領域的に、また各発達段階にわたってカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義や重要性、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する	第12回：カリキュラム・マネジメントの意義 第13回：長期的な視野から捉える教育課程・指導計画 第14回：保育ニーズの多様化について	田口	<input type="checkbox"/>
15	教育課程・保育課程の現状と課題について	第15回：教育課程・保育課程の今日的課題	田口	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しないが、授業前後に適宜資料を配付する。				
参考書、教材等				
「保育カリキュラム総論」師岡章（同文書院） 「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」厚生労働省（フレーベル館） 「指導計画の作成と保育の展開（平成25年7月改訂）」文部科学省、（フレーベル館） 「指導と評価に生かす記録」文部科学省、（フレーベル館）				
評価方法				
毎授業にて課す小ワークの取り組み（50%）、課題（指導計画等）の作成（20%）、レポート（30%）で総合的に評価する。				
授業外における学習方法				
事前学習および課題については、「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」をよく読み、具体的な保育の事象と突き合わせて理解することを心がけてください。また、事後学習については、授業内で紹介のあった図書等にあたり、自ら学修を深めるようにしてください。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
本授業の理解の基礎となる子どもの発達や「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」の理解が必要になります。事前に復習してください。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/02/24 11:49				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
社会的養護内容 Social Protective Care Services for Child									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217601301	後期	水曜3限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW3420、子ども学 :B_SCS3720									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				3○ 3○	3○				
履修における注意点・履修条件等									
※このシラバスは後期開始までに作成します。(以下全ての項目同様) 保育士必修									
科目責任者	岡 桃子	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習				
科目担当者	—								
科目に関連する実務経験	○	子ども家庭支援センターにおいて、社会福祉士として相談業務・児童虐待通告対応に従事した教員が、その経験を活かして子どもの権利および社会的養護内容について講義を行う。							
授業の概要									
子どもの権利に重点をおいた社会的養護内容について、具体的な事例などを通して学ぶ。授業の実施形態は遠隔授業となる。									
学習のねらい									
「子どもの最善の利益」を追求するための社会的養護を具体的にどのように行うかについて、各施設での事例を取り上げながら理解する。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○		○	○						
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	子どもの権利擁護	子どもの最善の利益や権利を守る仕組みについて学ぶ。	—	□					
2	社会的養護における子どもの理解	社会的養護におかれる子どもについて理解する。	—	□					
3	社会的養護の内容	社会的養護の内容について学ぶ。	—	□					
4	施設養護の生活特性および実際	施設での具体的な援助について学ぶ。	—	□					
5	施設養護の生活特性および実際	施設での具体的な援助について学ぶ。	—	□					
6	家庭養護の生活特性および実際	里親制度の実際について学ぶ。	—	□					
7	アセスメントと個別支援	アセスメントと個別支援について学ぶ。	—	□					
8	計画の作成	子どもの支援計画の立て方を学ぶ。	—	□					
9	自立支援の実際	自立支援を理解する。	—	□					
10	記録および自己評価	記録および自己評価について学ぶ。	—	□					
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践	社会的養護における保育士の専門性を理解する。	—	□					
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践について理解する。	—	□					
13	社会的養護におけるソーシャルワーク	ソーシャルワークの技術を活用した支援について学ぶ。	—	□					
14	社会的養護における家庭支援	社会的養護における家庭支援について理解する。	—	□					
15	まとめ	まとめ	—	□					
授業計画に関する特記事項									
社会的養護の体系と児童養護施設の概要について理解し、施設や家庭での具体的な援助について学ぶ。									
教科書									
指定しない									

参考書、教材等			
授業にて適宜指示します。			
評価方法			
振り返りシート・授業参加度60%、レポート40%			
授業外における学習方法			
日頃より子どもや家庭を取り巻く出来事やニュースに関心を持ち、自分なりの考えや意見を持つようになしてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日: 2021/12/27 14:38			印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
保育内容「人間関係」の指導法									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217601801	後期	水曜4限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW2420、子ども学 :B_SCS2220									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○	2◎			
履修における注意点・履修条件等									
幼稚園教諭一種必修、保育士必修									
科目責任者	森田 満理子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習	
科目担当者									
科目に関連する実務経験	○	幼稚園にて保育に当たった経験から、理論を実践に引き付けて授業を行います。							
授業の概要									
社会の中で主体として生きていくうえで基本となる、自立、人とかかわる意欲と人間関係を調整する力、集団生活をすすめる力等を育む保育について、事例考察・指導計画と実践を通して学ぶ。									
学習のねらい									
(1) 領域「人間関係」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。 (2) 主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、乳幼児理解に基づいて保育を構想する方法を身につける。 (3) 幼児の発達の特徴を踏まえた教材や環境構成の重要性を理解し、指導案を作成し、模擬保育やその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○								
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要				担当教員	講演者		
1	幼児教育の課題と領域「人間関係」について説明できる。	現代の乳幼児を取り巻く人間関係と私たちにとっての人間関係、多様な子どもの人間関係を支える				森田	□		
2	領域「人間関係」における重点について、概要をつかみ、説明できる。	幼稚園教育の基本と領域「人間関係」のねらいおよび内容				森田	□		
3	好きな人との信頼関係を基盤に育つ乳幼児の姿、保育者の関わりについて説明できる。	0歳児の姿と必要とされる保育				森田	□		
4	自我の芽生えと保育者の役割について説明できる。	1歳児の姿と必要とされる保育				森田	□		
5	自我の芽生えと保育者の役割について説明できる。	2歳児の姿と必要とされる保育				森田	□		
6	自己発揮し安定して生活するための保育について説明できる。	3歳児の姿と必要とされる保育				森田	□		
7	集団生活の中での葛藤体験と保育者に求められる援助について説明できる。	4歳児の姿と必要とされる保育				森田	□		
8	ふれあい、関わりを促す環境としての遊びを理解する。	子ども同士をつなぐ環境としての遊び（イメージを共有する遊び）				森田	□		
9	ふれあい、関わりを促す環境としての遊びの特性を理解する。指導の実際を体験し、保育の評価と指導実践の循環の必要性を理解する。	子ども同士をつなぐ環境としての遊び（ルールのある遊び） ・教材研究・立案をもとにした模擬実践を通して、教材研究・立案・評価について学ぶ。				森田	□		
10	協同的な活動における体験・学びの芽生えについて、自分なりの考えをもつ。	子ども同士をつなぐ環境としての協同的な活動 ・生活発表会の事例から学ぶ。				森田	□		
11	協同的な活動における体験・学びの芽生えについて、自分なりの考えをもつ。	総合的な指導・学びの視点から見た協同的な活動 ・新人保育者と子どもの挑戦、ベテラン保育者と子どもの挑戦の2事例から学ぶ				森田	□		

12	幼児とともに協同的な活動を創造・展開する保育者の役割について説明できる。 多様な指導にあり方による、多様な学び方と学びの保障について説明できる。	協同的な活動を支える多様な指導法 ・ ICTの活用・地域の人々との連携	森田	<input type="checkbox"/>
13	集団生活や遊びをみんなと進める中で、集団生活に必要なきまりやそれを守ろうとする力をどのようにつけていくかを説明できる。	主体として集団生活をすすめる ・ 当番活動の事例から	森田	<input type="checkbox"/>
14	道徳性・規範意識の芽生えを育む保育のあり方について説明できる。	道徳性の芽生え・規範意識の芽生え	森田	<input type="checkbox"/>
15	5歳児の保育に必要とされるものについて説明できる。	5歳児の姿と必要とされる保育 まとめ	森田	<input type="checkbox"/>
教科書				
年齢別 保育研究 5歳児の協同的学びと対話的保育 加藤繁美編著 ひとなる書房, 2005 (福祉子ども学専攻の学生は1年次に購入しているので購入の必要はなし)				
参考書、教材等				
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (2017幼稚園教育要領 (平成29年3月告示、文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省) 保育所保育指針 (平成29年3月告示、厚生労働省) 共感一育ち合う保育のなかで― (佐伯胖編著、ミネルヴァ書房) 2007年 3年間の保育記録③ (5歳児編) (文部科学省特別選定DVD、岩波映像株式会社) 2004年				
評価方法				
授業中の取り組みと授業後のリフレクション (40%)、指導案の作成と模擬保育 (30%)、最終レポート (30%)				
授業外における学習方法				
教科書はよく読みこんでおくこと 配布資料・参考書についても積極的に学習に活用すること				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
事前に読むよう指示したテキストや配布資料については、必ずよく読んでください。				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/02/25 22:00				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
保育内容「言葉」の指導法									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217602001	後期	火曜3限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW2420、子ども学 :B_SCS2220									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○	2◎			
履修における注意点・履修条件等									
幼稚園教諭一種・保育士必修									
科目責任者	森田 満理子	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習				
科目担当者									
科目に関連する実務経験	○	幼稚園にて保育に当たった経験から、理論を実践に引き付けて授業を行います。							
授業の概要									
乳幼児の言葉の発達を踏まえ、幼児期の言葉を豊かに育む保育のあり方について、学童期との連続性を踏まえつつ学ぶ。保育の構想のための教材理解や保育実践事例考察、模擬保育等の実践を通して学ぶ。									
学習のねらい									
幼児の言葉の発達に係る現状や課題を捉え、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。									
(1) 領域「言葉」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。									
(2) 主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、幼児理解に基づいて保育を構想する方法を身に付ける。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○							
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	保育内容「言葉」とは何かについて説明できる。	幼児教育の基本と保育内容「言葉」	森田	<input type="checkbox"/>					
2	乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割について説明できる。	乳幼児期の言葉の発達と保育0歳児	森田	<input type="checkbox"/>					
3	乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割について説明できる。	乳幼児期の言葉の発達と保育1・2歳児	森田	<input type="checkbox"/>					
4	乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割について説明できる。	乳幼児期の言葉の発達と保育3歳児	森田	<input type="checkbox"/>					
5	乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割について説明できる。	乳幼児期の言葉の発達と保育4・5歳児	森田	<input type="checkbox"/>					
6	話す・聞く・伝え合うとはどういうことか、またその指導について説明できる。	話す意欲・聞く意欲・伝え合う意欲を育てる	森田	<input type="checkbox"/>					
7	言葉の美しさ・面白さへの気づき、文字への関心の視点から保育者の役割を説明できる。	言葉を遊ぶ楽しさ・文字などで伝える楽しさ	森田	<input type="checkbox"/>					
8	言葉を育む視点で情報機器の活用を説明できる。	言葉の発達に関わる情報機器の活用	森田	<input type="checkbox"/>					
9	言葉をめぐる現代的な課題、ダイバーシティ・インクルージョン社会と保育について説明できる。	言葉をめぐる現代的な課題、ダイバーシティ・インクルージョン社会における子供の発達と言葉	森田	<input type="checkbox"/>					
10	言葉を育む視点で児童文化財を活用について説明できる。	言葉を育む児童文化財	森田	<input type="checkbox"/>					
11	物語にふれる意義、素話の意義について説明できる。	物語を聞く・物語から創造する・物語を創る・素話の教材研究	森田	<input type="checkbox"/>					
12	言葉を育む視点で、対話的な保育展開の保育活動を立案できる。	模擬保育(素話)を想定した指導案の作成	森田	<input type="checkbox"/>					

13	保育活動の評価について説明できる。	模擬保育（素話・言葉遊び）の保育討議を通しての評価	森田	<input type="checkbox"/>
14	保育活動の活動の評価と改善について行うことができる。	模擬保育（素話・言葉遊び）と保育討議を通しての評価と改善	森田	<input type="checkbox"/>
15	立案、評価、改善について説明することができる。	模擬保育（素話・言葉遊び）と保育討議を通しての評価、模擬保育の総括	森田	<input type="checkbox"/>
教科書				
『保育内容「言葉」改訂新版 言葉とふれあい、言葉で育つ』大越和孝、安見克夫、高梨珪子、野上秀子、齋藤二三子（東洋館出版） 2018				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省） 今井和子 表現する楽しさを育てる 保育実践・言葉と文字の教育 小学館、2000年 ほんとうの知的教育① 幼児の「ことば」の力を育てる 平山許江著 世界文化社、2015年 DVD ことばを育てる語りかけ育児 中川信子監修・指導、株式会社アローウィン制作・著作、2011年				
評価方法				
授業中の取り組みと授業後のリフレクション（40%）、指導案の作成と模擬保育・発表（40%）、最終レポート（20%）				
授業外における学習方法				
教科書、参考書を積極的に活用してください。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/03/09 14:43				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
保育内容「音楽表現」の指導法 I									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217602301	後期	木曜2限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW1420、子ども学 :B_SCS1220									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				1○	3○	1◎			
履修における注意点・履修条件等									
幼稚園教諭一種選択必修：教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）－ 保育内容の指導法									
科目責任者	伊藤 知子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習	
科目担当者									
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
領域「表現」を理解し、特に保育における「音楽」のあり方を考えながら、保育者が子どもたちとともに音と出会い、遊ぶことを念頭にさまざまな素材を使いながら演習形式で学ぶ。指導計画の作成や模擬保育を取り入れながら実践的に指導法を学ぶ。									
学習のねらい									
子どもの発達と遊びの関係をおさえ、領域「表現」を理解する。領域「表現」のねらい、内容、留意点、指導上の評価の考え方を理解している。子ども自らが音楽と親しむ経験への援助や環境を構成する力を身につける。音楽表現の特性および幼児の体験との関連を考慮した教材（情報機器を含む）の活用法を理解し、指導案の構造を理解し、指導案を作成することができる。また、模擬保育とその振り返りを通して、他者の意見を取り入れながら、自ら改善する視点を身に付ける。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○							
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要			担当教員	講演者			
1	領域「表現」を理解する	子どもと音楽の出会いについて			伊藤	<input type="checkbox"/>			
2	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	身近なものを使った音楽表現～新聞紙を使った音楽表現～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
3	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	身近なものを使った音楽表現～植物を使った音楽表現～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
4	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	身近なものを使った音楽表現～ストーリーを使った音楽表現～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
5	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	身近なものを使った音楽表現～身体を使った音楽表現～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
6	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	声を使った音楽表現～いろんな声と出会う、手遊び、歌遊び～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
7	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	声を使った音楽表現～一人で歌うとみんなで歌う～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
8	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	声を使った音楽表現～教材研究・指導案の作成～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
9	学生の発表に耳を傾け、互いに評価し合い、より良い保育内容を考える。	声を使った音楽表現～教材研究発表（模擬保育）～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
10	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	楽器を使った音楽表現～吹く楽器、触る楽器、たたく楽器…～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
11	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	楽器を使った音楽表現～一人の演奏とみんなの演奏～			伊藤	<input type="checkbox"/>			
12	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	楽器を使った音楽表現～教材研究・指導案の作成～			伊藤	<input type="checkbox"/>			

13	学生の発表に耳を傾け、互いに評価し合い、より良い保育内容を考える。	楽器を使った音楽表現～教材研究発表（模擬保育）～	伊藤	<input type="checkbox"/>
14	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	他の領域と音楽表現～他の領域と音楽表現に関する教材研究・指導案の作成～	伊藤	<input type="checkbox"/>
15	学生の発表に耳を傾け、互いに評価し合い、より良い保育内容を考える。	他の領域と音楽表現～教材研究発表（模擬保育）とまとめ～	伊藤	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
<p>本授業は声を出して歌ったり、身近なものを使って楽器を作成しそれを演奏したりします。</p> <p>2020年度は新型コロナウイルス予防のため、オンライン（zoom）授業としました。2021年度は状況に応じてオンライン（zoom）、対面授業を行いました。</p> <p>2022年度は基本対面授業で進めていきます。状況に応じて授業形態を変更せざるを得なくなるかもしれません。</p> <p>本授業の対面時は特に「歌う時の感染予防」の観点から「不織布マスク」の着用を義務付けます。布やウレタンマスクを使用したい時も、必ず、不織布マスクも着用してください。</p> <p>本授業は、オンライン授業時も声を出して歌ったり、身近なものを使って楽器を作成しそれを演奏したりします。</p> <p>遠隔授業となる場合は各自、PC、タブレット、スマートフォンなどを準備し、授業時は発言をしたり、歌ったり、できる環境を整えておいてください。授業やウェブクラスの掲示で案内いたしますのでそれに従ってください。</p>				
教科書				
「子どものうた200」「続・子どものうた200」チャイルド本社、随時紹介・配布				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
評価方法				
授業参加度30% 提出物20% 課題への取り組み20% 発表の成果30%				
授業外における学習方法				
各自、授業での発表等に向けて課題に取り組んでいただきます 文房具など自宅が必要とするものが出てくる可能性があります。極力負担の少ない方法を検討しますが、場合によってご準備いただくこともあります。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に臨むこと。 子どもの目線に立ち、そこから子どもの成長に寄り添える保育者、教育者には何が必要か考えていきましょう。 				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/03/11 15:46				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学							
福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2019									
乳児保育Ⅱ Infant Care and Education II									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217602801	後期	木曜1限						
ナンバリング									
福祉学 :B_SSW3420、子ども学 :B_SCS3720									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				3○	3○	3○			
履修における注意点・履修条件等									
科目責任者	越智 幸一			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習	
科目担当者	—								
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
乳児保育Ⅰで学んだ知識や技能をベースとしながら、さらに応用的な知識や技能を身につけていきます。まず、認定こども園や乳児院など、各施設における乳児保育の特徴について学びます。さらに乳児保育における指導計画の作成方法を身につけます。その後、実践的な乳児保育の方法として、乳児の発達を促す遊び、職員間の連携、保護者支援の方法などについても学んでいきます。最後にこれまでの学修を振り返りながら、子どもの最善の利益を尊重するために必要なかわりについて考察を深めます。									
学習のねらい									
(1) 認定こども園、乳児院等、各施設における乳児保育の現状を理解できる (2) 乳児保育における指導計画を立案できる (3) 職員同士、栄養士、保護者等、乳児保育における連携方法について理解できる (3) 子どもの最善の利益を尊重する乳児保育について理解できる									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○	○						
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	保育所、認定こども園における生活について理解できる	保育所、認定こども園での生活とは	越智	<input type="checkbox"/>					
2	乳児院の現状について理解できる	乳児院とは	越智	<input type="checkbox"/>					
3	家庭的保育事業について理解できる	家庭的保育事業とは	越智	<input type="checkbox"/>					
4	小規模保育事業・居宅訪問型保育事業について理解できる	小規模保育事業とは・居宅訪問型保育事業とは	越智	<input type="checkbox"/>					
5	子育て支援における乳児保育について理解できる	子育て支援と乳児保育	越智	<input type="checkbox"/>					
6	保護者のおかれている現状を理解できる	保護者のおかれている現状とは	越智	<input type="checkbox"/>					
7	保護者と具体的に連携ができるようになる	保護者との連携方法について	越智	<input type="checkbox"/>					
8	乳児保育における職員間の協働について理解できる	乳児保育における職員間の協働	越智	<input type="checkbox"/>					
9	乳児保育の現状と課題について理解できる	乳児保育の現状と課題	越智	<input type="checkbox"/>					
10	乳児保育における指導計画を作成できる	乳児保育における指導計画とは	越智	<input type="checkbox"/>					
11	乳児を観察、記録するポイントを理解できる	乳児の観察と記録	越智	<input type="checkbox"/>					
12	子どもにとってふさわしい保育環境を理解できる	子どもにとって魅力的な保育環境	越智	<input type="checkbox"/>					
13	子どもの遊びを豊かにする方法について理解できる	遊びのアイデアについて	越智	<input type="checkbox"/>					
14	集団での生活における配慮について理解できる	乳児保育における集団生活	越智	<input type="checkbox"/>					
15	環境の変化や移行に対する配慮について理解できる	乳児保育における環境変化とは	越智	<input type="checkbox"/>					
授業計画に関する特記事項									

授業は基本的に対面で実施します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては授業形態が変更になる可能性もあります。その際は連絡します。

教科書

<乳児保育 I と同じ教科書を使用>

参考書、教材等

評価方法

試験55%、受講課題45%

授業外における学習方法

授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は授業の内容をまとめておくこと。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

授業の中でさまざまな演習課題を行います。積極的に参加することを期待します。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/03/28 16:44

印刷

閉じる

シラバス詳細

福祉子ども学専門科目		子ども学							
授業科目名									
カリキュラム2012									
保育内容「音楽表現」の指導法Ⅱ									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	217602401	後期	火曜2限						
ナンバリング									
B_SCS3220									
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1					3◎				
履修における注意点・履修条件等									
幼稚園教諭一種選択必修：教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）－ 保育内容の指導法									
科目責任者	伊藤 知子		単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習			
科目担当者									
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
保育内容(音楽表現Ⅰ)をふまえ、子どもが遊びながら「音楽」と出会う事を想定し、保育現場におけるうたとの出会いを想定した活動を主に取り扱う。指導計画の作成や模擬保育を通して作品や教材の研究発表をしていく。発表内容を学生同士で評価し合い、自発的な新たな発見や指導技術向上を行う。									
学習のねらい									
領域「表現」を理解し、保育における「音楽」の存在を考える。子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○							
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者					
1	オリエンテーション 領域「表現」における音楽の存在を確認する	音と出会う	伊藤	<input type="checkbox"/>					
2	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	生活に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
3	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	生活に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
4	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける	生活に関するうた(3)発表会と意見交換	伊藤	<input type="checkbox"/>					
5	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	家族やお友達に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
6	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	家族やお友達に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
7	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける	家族やお友達に関するうた(3)発表会と意見交換	伊藤	<input type="checkbox"/>					
8	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	おはなしに関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
9	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	おはなしに関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
10	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける	おはなしに関するうた(3)発表会と意見交換	伊藤	<input type="checkbox"/>					
11	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	生き物に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
12	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	生き物に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					
13	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける	生き物に関するうた(3)発表会と意見交換	伊藤	<input type="checkbox"/>					
14	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	自然に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>					

	要な保育技術を習得する。	研究		
15	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。	自然に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究	伊藤	<input type="checkbox"/>
16	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける	自然に関するうた(3)発表会と意見交換	伊藤	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
<p>本授業は、声を出して歌ったり、グループでディスカッションしたりします。</p> <p>2020年度は新型コロナ感染予防のため、オンライン（zoom）授業としました。2021年度は状況に応じてオンライン（zoom）、対面授業を行いました。</p> <p>2022年度は基本対面授業を進めていきます。状況に応じて授業形態を変更せざるを得なくなるやもしれません。</p> <p>本授業の対面時は、「歌う時の感染予防」の観点から「不織布マスク」の着用を義務付けます。布やウレタンマスクを使用したい時も、必ず、不織布マスクも着用してください。</p> <p>本授業は、オンライン授業時も声を出して歌ったり、身近なものを使って楽器を作成しそれを演奏したりします。</p> <p>遠隔授業となる場合は各自、PC、タブレット、スマートフォンなどを準備し、授業時は発言をしたり、歌ったり、できる環境を整えておいてください。授業やウェブクラスの掲示で案内いたしますのでそれに従ってください。</p>				
教科書				
小林美実(編) こどものうた200 チャイルド本社(1975) 小林美実(編) 続・こどものうた200 チャイルド本社(1996) 他プリント配布				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
評価方法				
授業での取り組み意欲30%、課題への取り組み20%、提出物20%、発表会の成果30%				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に臨むこと。 子どもの目線に立ち、そこから子どもの成長に寄り添える保育者、教育者には何が必要か考えていきましょう。 				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/03/11 15:45				<input type="button" value="印刷"/> <input type="button" value="閉じる"/>

シラバス詳細

福祉子ども学専門科目						子ども学					
授業科目名											
カリキュラム2019											
教育方法論 (幼) Teaching Methods of Early Childhood Education											
No.	時間割番号			開講時期			曜日・時限				
1	217600901			後期			水曜5限				
ナンバリング											
B_SCS1410											
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職		
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻			
1					1◎						
履修における注意点・履修条件等											
幼稚園教諭一種必修											
科目責任者	森田 満理子			単位数・時間数	2 単位 30 時間		授業形態	講義			
科目担当者											
科目に関連する実務経験	○ 幼稚園にて保育に当たった経験から、理論を実践に引き付けて授業を行います。										
授業の概要											
幼児教育の基本原則・特質と小学校教育への連続性をおさえながら、実際に遊びを体験したり、DVDの視聴・教材作成や鑑賞を行ったりして、体感を通して、現在に求められる教育の方法・技術・技能を学ぶ。											
学習のねらい											
主体的・対話的で深い学びを実現する教育の方法と技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 (1) 幼児期の見方・考え方を踏まえた幼児期の教育方法のあり方を理解する。 (2) 主体的・対話的で深い学びを導くための保育者の働きかけのあり方を理解する。 (3) 幼児が自ら興味関心を深めるためたり、体験を意味あるものとして振り返ったりするために効果的な情報機器・教材の活用方法を理解する。											
関連するディプロマポリシー											
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域			
○		○		○							
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者			
1	就学前教育の現状と課題について説明できる。			就学前教育の現状と課題			森田	<input type="checkbox"/>			
2	保育方法の系譜について説明できる。			保育方法の系譜			森田	<input type="checkbox"/>			
3	わが国における保育の基準について説明できる。			わが国における保育の基準 (教育要領・保育所保育指針等)			森田	<input type="checkbox"/>			
4	保育の基本理念、環境を通して行う教育の考え方について説明できる。			環境を通して行う教育			森田	<input type="checkbox"/>			
5	幼児教育における環境のあり方について説明できる。			環境とは何か			森田	<input type="checkbox"/>			
6	幼児教育における遊びの意味するものについて説明できる。			遊びとは何か			森田	<input type="checkbox"/>			
7	学びの芽生えを支える保育者の役割を説明できる。			遊びを通した総合的な指導			森田	<input type="checkbox"/>			
8	主体的・対話的で深い学びについて、具体的な事例を通してイメージをもち、説明することができる。			主体的・対話的で深い学び			森田	<input type="checkbox"/>			
9	教材研究の重要性と方法について説明できる。			教材研究 (リアルタイムオンライン)			森田	<input type="checkbox"/>			
10	基本的な生活習慣の形成・指導について説明できる。			基本的な生活習慣の自立 (リアルタイムオンライン)			森田	<input type="checkbox"/>			
11	集団生活で必要とされる習慣やきまりと保育者の役割について説明できる。			集団生活をすすめる (リアルタイムオンライン)			森田	<input type="checkbox"/>			
12	行事の意義とあり方について説明できる。			育ちを促す行事 (リアルタイムオンライン)			森田	<input type="checkbox"/>			
13	レゾ・エミリア市の教育から学ぶべきことについて説明できる。			海外の幼児教育 (レゾ・エミリア市の保育) (リアルタイムオンライン)			森田	<input type="checkbox"/>			
14	幼児をとりまくICT環境の現状を説明できる。			幼児をとりまくICT環境 (リアルタイムオンライン)			森田	<input type="checkbox"/>			
15	機器の特徴を生かし、保育活動や業務に活用する方			幼児教育におけると視聴覚教育の役割とICT機器			森田	<input type="checkbox"/>			

法を説明できる。		活用（リアルタイムオンライン）	
授業計画に関する特記事項			
『年齢別 保育研究 5歳児の協同的学びと対話的保育』加藤繁美編著, 2005（ひとなる書房）は、次年度の保育内容の指導法「人間関係」においても使用します。			
教科書			
『年齢別 保育研究 5歳児の協同的学びと対話的保育』加藤繁美編著, 2005（ひとなる書房） 『幼児教育・保育のための教育方法論』垂見直樹・池田竜介, 2021（ミネルヴァ書房）			
参考書、教材等			
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省） レッジョ・エミリア 保育実践入門 保育者は今、何を求められているか（石垣恵美子、玉置哲淳監訳J.ヘンドリック編（2000）、北大路書房） DVD レッジョ・エミリア市の挑戦2001 子どもたちの100の言葉（佐藤学・秋田喜代美監修、編集（2001）、ワタリウム美術館企画協力） 子どもはうたっている～幼児と保育者のかかわり～（文部科学省指定教材シリーズDVD、岩波映像株式会社） 3年間の保育記録①（3歳児編前半）よりどころを求めて（文部科学省特別選定DVD、岩波映像株式会社（2004））			
評価方法			
授業中の取り組みと授業後のリフレクション・確認小テスト（50%）、最終レポート（50%）			
授業外における学習方法			
参考書についても積極的に学習に活用すること			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
教科書は授業内にはごく一部のみ使用します。他の部分は次年度継続して使用していきます。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日：2022/03/09 14:43			印刷 閉じる

シラバス詳細

福祉子ども学専門科目		子ども学											
授業科目名													
カリキュラム2019													
幼児と人間関係 Young Child and Human Relations													
No.	時間割番号	開講時期						曜日・時限					
1	217603001	後期						水曜3限					
ナンバリング													
B_SCS2120													
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別													
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職				
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻					
1						2◎							
履修における注意点・履修条件等													
科目責任者 越智 幸一													
科目担当者		単位数・時間数		2 単位 30 時間		授業形態		演習					
科目に関連する実務経験													
授業の概要													
現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。													
学習のねらい													
幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解する。また、人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解する。さらには、幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。具体的には、乳児期に育つ人と関わる力の発達、幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達、教師や幼児との関係性、幼児の自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生え、家族や地域との関わりと育ち等について説明できることを目指す。													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域					
○		○		○									
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員		講演者				
1	現代社会において幼児がおかれている人間関係の現状について歴史的背景も踏まえて理解できる			幼児を取り巻く人間関係について			越智		<input type="checkbox"/>				
2	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」との関連性について説明できる			「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」			越智		<input type="checkbox"/>				
3	幼児期において道徳性・規範意識がどのように芽生え、育っていくかについて理解できる			幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち -他者との葛藤体験を通してきまりの必要性を理解し、気持ちを調整し折り合いをつける力の育ち			越智		<input type="checkbox"/>				
4	関係発達の基本的な概念を理解できる			関係発達論とは			越智		<input type="checkbox"/>				
5	主体概念について理解できる			子どもの主体性をどう育てるか			越智		<input type="checkbox"/>				
6	養護と教育の一体的な関わりについて理解できる			保育における養護と教育			越智		<input type="checkbox"/>				
7	乳幼児期にどのようにして子どもたちの自立心が育っていくかについて理解できる			乳幼児期の自立心の育ち-「イヤ」「ジブンデ」から始まる自立への道			越智		<input type="checkbox"/>				
8	1歳前から1歳半にかけての相互主体性の様相について理解できる			1歳前から1歳半にかけての相互主体性			越智		<input type="checkbox"/>				
9	1歳半から2歳にかけての相互主体性の様相について理解できる			1歳半から2歳にかけての相互主体性			越智		<input type="checkbox"/>				
10	2歳前半ごろの相互主体性について理解できる			2歳前半ごろの相互主体性			越智		<input type="checkbox"/>				
11	2歳半から3歳ごろにかけての相互主体性について理解できる			2歳半から3歳ごろにかけての相互主体性			越智		<input type="checkbox"/>				
12	非認知能力としての人間関係について理解できる			非認知能力としての人間関係			越智		<input type="checkbox"/>				
13	非認知能力と人間関係について理解できる			気づく力に注目して			越智		<input type="checkbox"/>				
14	非認知能力としてのやりぬく力について理解できる			やりぬく力と人間関係			越智		<input type="checkbox"/>				

15	協同遊びなどにおいて子どもたちが仲間と協力して物事を成し遂げようとする力がどのように育っていくかについて理解できる	幼児期の協同性の育ち-目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち	越智	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
授業は基本的に対面で実施します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては授業形態が変更になる可能性もあります。その際は連絡します。				
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省）				
評価方法				
定期試験（55%）、各回の小課題（45%）				
授業外における学習方法				
各授業の前に各回の内容に該当する参考書、教材を読んでおく。授業後は内容をまとめておく。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/03/28 16:47				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

健康行動科学専門科目					健康行動科学専門科目				
授業科目名									
カリキュラム2019									
健康科学1 (健康教養) Health Sciences 1 (Health Concept)									
No.	時間割番号			開講時期			曜日・時限		
1	219200301			後期			木曜2限		
ナンバリング									
B_BHS1130									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1						1◎			
履修における注意点・履修条件等									
本授業は基本的に対面で実施します。ただし、感染状況により遠隔に変更する場合があります。									
科目責任者	北畠 義典			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義	
科目担当者	北畠義典								
科目に関連する実務経験									
授業の概要									
健康科学や健康文化論を学ぶ際に必要な、基本的な知識の習得を目的とする（科目を健康教養として位置付ける）。									
1. 健康の定義を理解し、健康観について考察を深める。									
2. 疾病予防の知識を養う。									
3. 正しい健康情報の取得と伝え方を学ぶ。									
学習のねらい									
健康に関する専門的な知識の習得									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○		○					
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要			担当教員	講演者			
1	1. 健康の定義を理解する	健康の定義			北畠	<input type="checkbox"/>			
2	非感染性疾患について理解し、日本の状況を理解する	身体的健康（非感染性疾患）			北畠	<input type="checkbox"/>			
3	身体活動の定義を理解し、日本の状況を理解する	身体的健康（身体活動Ⅰ）			北畠	<input type="checkbox"/>			
4	身体活動と非感染性疾患との関連性を理解する	身体的健康（身体活動Ⅱ）			北畠	<input type="checkbox"/>			
5	精神疾患と日本の現状について理解する	精神的健康（こころの健康Ⅰ）			北畠	<input type="checkbox"/>			
6	精神疾患と身体活動の関連性について理解する	精神的健康（こころの健康Ⅱ）			北畠	<input type="checkbox"/>			
7	睡眠と身体活動の関連性について理解する	精神的健康（こころの健康Ⅲ）			北畠	<input type="checkbox"/>			
8	社会的健康について理解する	社会的健康（総論）			北畠	<input type="checkbox"/>			
9	健康格差について理解する	社会的健康（健康格差）			北畠	<input type="checkbox"/>			
10	健康の公平性と倫理について学ぶ	社会的健康（公平性と倫理）			北畠	<input type="checkbox"/>			
11	一次予防の重要性を理解する	一次予防			北畠	<input type="checkbox"/>			
12	住民の健康増進について理解する	健康なまちづくり			北畠	<input type="checkbox"/>			
13	健康日本21（第二次）を学ぶ	健康施策			北畠	<input type="checkbox"/>			
14	健康情報について理解し、正しい健康情報の取得方法を学ぶ	健康情報リテラシー			北畠	<input type="checkbox"/>			
15	1から14までの内容のまとめ	まとめ			北畠	<input type="checkbox"/>			
教科書									
必要に応じて授業の中で資料を配布したり文献を紹介する。									
参考書、教材等									

評価方法			
授業参加度・平常点・参加意欲 4割、試験およびレポート6割			
授業外における学習方法			
配付資料を参考に予習、復習を行い、理解を深めましょう。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日：2021/12/27 14:38			印刷 閉じる

シラバス詳細

健康行動科学専門科目					健康行動科学専門科目				
授業科目名									
カリキュラム2019 健康科学9 (地域保健) Health Sciences 9 (Community Health)									
No.	時間割番号		開講時期		曜日・時限				
1	219201101		後期		木曜2限				
ナンバリング									
B_BHS2210									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1						2◎			
履修における注意点・履修条件等									
科目責任者 大木 いずみ 単位数・時間数 2 単位 30 時間 授業形態 講義									
科目担当者									
科目に関連する実務経験 ○ 保健医療分野で、疫学の方法を用いて対策に生かす実務を経験している。特にがん登録を用いた「データ」の収集から解析、結果・考察をすることにより、がん対策に活用する経験がある。									
授業の概要									
<p>埼玉県においても急速な高齢化の進展により、医療や介護の需要は大幅に増大することが見込まれる。さらに、生産年齢人口の減少により、医療・介護を担う人材の確保はより一層困難となることが想定される。</p> <p>複数の慢性疾患や認知症などの疾患を抱えながらも、住み慣れた地域で質の高い生活を送りたいと願う高齢者を支えるためには、いままでの「治す医療」だけでは不十分であり、「予防保健活動」「効率的で質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」を同時に進め、保健・医療と介護が相互に連携し患者を支える「治し、支える医療」への転換が求められている。埼玉県地域保健医療計画は、超高齢社会を迎える本県において、将来にわたり持続可能で質の高い保健医療体制を確保するため、平成30年度（2018年度）から平成35年度（2023年度）までの6年間に取り組むべき施策の方向性を示すものである。</p> <p>本授業では、埼玉県の保健医療計画の概略を把握し、現在の課題、克服すべき最重要課題について、基礎を学びその方策を分かりやすく説明する。（本年度は対面授業を基本とするが、感染拡大状況によっては遠隔に変更する。）</p>									
学習のねらい									
わが国の地域保健と健康増進のための活動は高齢者の医療確保に関する法律により各保険者ごとに実施されている。本講義では主に地域保健の基本的な内容を学ぶ。埼玉県保健医療計画という実地に即した教材によって、将来集団を対象として働くであろう専門職や健康行動科学専攻の卒業生の連携の強化に寄与する。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域	
○		○		○		○		○	
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者	
第1回	地域保健全般を理解し、自治体が作成する地域保健医療計画の重要性を説明できる			授業の概要（成績方法、授業形態）、地域保健の復習 ①埼玉県地域保健医療計画 表紙～P.8 ②授業の概要（成績方法、授業形態） ③地域保健の復習 ④第1回目 感想			大木	□	
第2回	健康指標を理解し、埼玉県地域保健医療計画の背景と現在直面している課題について説明できる			埼玉県地域保健医療計画①計画の背景 + 健康指標 ①埼玉県地域保健医療計画 P.9～P.36 ②健康指標 ③第2回目 感想			大木	□	
第3回	健康指標を理解し、埼玉県地域保健における問題点を優先順位をつけ整理し、説明できる			埼玉県地域保健医療計画②医療圏 ①埼玉県地域保健医療計画 P.37～P.52 ②記述疫学 ③第3回目 感想			大木	□	
第4回	ライフステージに応じた健康づくり、国民健康・栄養調査の詳細と埼玉県民栄養調査の結果の概要について説明できる			埼玉県地域保健医療計画③くらしと健康 + 国民健康・栄養調査 ①埼玉県地域保健医療計画 P.53～P.92 ②国民健康・栄養調査 ③第4回目 感想			大木	□	

第5回	ライフステージに応じた健康づくり、国民健康・栄養調査の詳細と埼玉県民栄養調査の結果の概要について説明できる	埼玉県地域保健医療計画④くらしと健康 + 県民栄養調査 ①埼玉県地域保健医療計画 P.53~P.92 ②県民栄養調査 ③第5回目 レポート	大木	<input type="checkbox"/>
第6回	脳卒中・心血管疾患対策の概要を説明できる	埼玉県地域保健医療計画⑤医療の推進（疾病ごと） ①埼玉県地域保健医療計画 P.93~P.118 ②埼玉県の脳卒中・心血管疾患対策他 ③第6回目 感想	大木	<input type="checkbox"/>
第7回	がん対策についての概要を説明できる	埼玉県地域保健医療計画⑥医療の推進（疾病ごと） ①埼玉県地域保健医療計画 P.93~P.118 ②がん対策 ③第7回目 感想	大木	<input type="checkbox"/>
第8回	事業ごとの医療提供体制についての概要を説明できる	埼玉県地域保健医療計画⑦事業ごとの医療提供体制 + 災害公衆衛生 ①埼玉県地域保健医療計画 P.119~P.136 ②災害公衆衛生 ③第8回目 感想	大木	<input type="checkbox"/>
第9回	在宅医療についての概要を説明できる	埼玉県地域保健医療計画⑧在宅医療の推進 ①埼玉県地域保健医療計画 P.137~P.164 ②地域包括ケア ③第9回目 感想	大木	<input type="checkbox"/>
第10回	広く保健医療福祉についての概要を説明できる	埼玉県地域保健医療計画⑨地域医療構想 国民医療費 ①埼玉県地域保健医療計画 P.165~最後 ②国民医療費 ③第10回目 感想	大木	<input type="checkbox"/>
第11回	地域保健に関する実践的な活動について理解する	地域保健実践に関する講義⑩ ①第11回目 感想	大木	<input checked="" type="checkbox"/>
第12回	埼玉県の健康問題への対応方法を個人で検討し、課題を探求できる	埼玉県の健康問題に対する事業立案⑪-① ①事業計画書案提出	大木	<input type="checkbox"/>
第13回	埼玉県の健康問題への対応方法を個人で検討し、課題を探求できる	埼玉県の健康問題に対する事業立案⑪-② ①事業計画書案提出	大木	<input type="checkbox"/>
第14回	埼玉県の健康問題への対応方法を個人で検討し、課題を探求できる	埼玉県の健康問題に対する事業立案⑪-③ ①事業計画書案提出	大木	<input type="checkbox"/>
第15回	地域保健と医療政策について理解する	地域保健活動と政策医療の実際⑫ ①第15回 感想	大木	<input checked="" type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
特になし				
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
埼玉県地域保健医療計画				
評価方法				
定期試験（レポート方式）および毎回の出席課題と提出物から評価する				
授業外における学習方法				
埼玉県や各自治体が発する保健、医療に関する事業・取り組みについて調べ、理解しておく				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
基本的な内容を整理し応用します。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
11	早川貴裕	地域保健の実際		
15	須釜幸男	政策医療		
最終更新日： 2022/02/17 23:42				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

健康行動科学専門科目		健康行動科学専門科目							
口腔保健科学専門科目		教育実践							
授業科目名									
カリキュラム2019									
看護学概論 Nursing Basics									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	200550601	後期	火曜4限						
ナンバリング									
健康行動 :B_BHS2300、口腔保健 :B_OHS2630									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護	理学	作業	社福 専攻	福子	行動 専攻	検査	口腔	教職
	編入						専攻	専攻	
1						2○		2◎	◎
履修における注意点・履修条件等									
①テストを受けるには授業時間数の2/3以上の出席が必要である。									
②教員免許（養護教諭免許状取得のための養護に関する科目、科目区分看護学）を選択する場合は、教職必修科目である。									
③看護臨床実習（3年生9月に実習：2単位、養護教諭免許状取得のための必修科目）前に単位を取得すること。									
④口腔保健科学専攻は必修科目である。									
科目責任者	佐藤 玲子			単位数・時間数	2単位 15時間		授業形態	講義	
科目担当者	井上和久								
科目に関連する実務経験	○	看護師・保健師・養護教諭の経験のある教員が、その経験を生かして、成人期・高齢期のライフステージにある健康事象や家族について、疾患・疾病予防・健康管理について講義を行う。また、リハビリテーション分野において理学療法士の経験がある教員が、中途障害の発症に伴う障害の種類や装具について講義を行う。							
授業の概要									
カリキュラムマップでは、口腔保健科学専攻の教育実践の科目である。健康行動科学専攻の生命科学に位置する。成人期から高齢期のライフステージを主にして、対象者・家族の健康、社会制度・ヘルスケアサービスなどを学習する。健康の多面性に於いて、健康増進、疾病予防、健康変化に応じた治療や療養、障害、終末期の死などについて基礎的な知識を理解する。対象理解に必要な理論、健康ニーズを充足する方法、援助技術、専門職の態度などを学習する。									
学習のねらい									
看護の対象である人間をライフステージの視点から理解し、看護を考える。 健康で活力ある成人期から高齢期への健康の移行を理解し、生活習慣病の発症、障害の予防や対応を理解する。 また、社会制度、療養期の支援を学び、ヘルスケアサービスの利用が、健康を維持したり、家族・社会生活を維持することを理解する。 将来、援助を必要とする人と接する時に、対象を理解して関わることを考えることができる。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○	○	○					
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要			担当教員	講演者			
1	成人期・高齢期の健康支援と看護を理解する	10月11日 科目のオリエンテーション、ライフステージ、人間の基本的欲求を学習する。講義は教科書を使用する。			佐藤	<input type="checkbox"/>			
2	成人期の健康と生活習慣病について理解する	10月18日 人口動態、成人期・高齢期の健康と疾病、生活習慣病を学習する。			佐藤	<input type="checkbox"/>			
3	成人期に発症する生活習慣病を理解する①	10月25日 循環器疾患、脂質代謝異常、肥満、疾患に伴う看護を学習する。			佐藤	<input type="checkbox"/>			
4	成人期に発症する生活習慣病を理解する②	11月1日 糖尿病と合併症、看護を学習する。			佐藤	<input type="checkbox"/>			
5	成人期に発症する生活習慣病を理解する③	11月8日 がん看護、予防活動を学習する。			佐藤	<input type="checkbox"/>			
6	成人期から高齢期の加齢現象の変化を理解する	11月15日 健康移行、長寿、虚弱、中途障害、看護を学習する。			佐藤	<input type="checkbox"/>			
7	成人期から高齢期を支援する生活環境調整を理解する	11月22日			佐藤				

	る	高齢者の事故予防、室内外の環境づくり、生活用品・看護を学習する。ヒューマンケア実習室の見学。		<input type="checkbox"/>
8	高齢期の健康－虚弱状態への支援	11月29日 廃用症候群と看護を学習する。	佐藤	<input type="checkbox"/>
9	高齢期の健康-障害に応じた装具の使用と移動能力の改善を理解する。	12月6日 高齢期の障害、脳卒中後の障害、骨折の際に用いる装具の使用をと生活動作の拡大・自立を学習する。	井上	<input type="checkbox"/>
10	成人期・高齢期の認知能力を理解する	12月13日 認知症の病態、症状、治療と受診、介護者、家族を理解する。	佐藤	<input type="checkbox"/>
11	成人期・高齢期を支える社会制度を理解する	12月20日 障害者や認知症の者を支援する介護保険制度と事業、保健事業を理解する。	佐藤	<input type="checkbox"/>
12	家族の発達、家族凝集性と、高齢者のケアを理解する	1月10日 家族の保護機能を理解し、高齢者と子ども・孫世代と高齢期の認知症を学習する。	佐藤	<input type="checkbox"/>
13	家族の発達、問題への対処方法を理解する	1月17日 成人期・高齢期に変化する家族と、家族を支援する制度、ジェノグラムの書き方を学習する。	佐藤	<input type="checkbox"/>
14	地域（居宅）で継続して生活するために必要なサービスや健康を理解する	1月24日 疾患から生じる危機・対処方法、健康を維持するためにすべきことを学習する。	佐藤	<input type="checkbox"/>
15	まとめ	1月31日 まとめ、3年・4年次での学習について	佐藤	<input type="checkbox"/>
16	テスト	2月7日	佐藤	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
教科書の購入について：履修が決まっている学生は、春の販売の時に購入すること。毎年、出版社が印刷し4月には教科書の内容が新しくなる（前年に販売されたものでは、項目や頁がずれることがある）、後期に講義が始まってから購入しようとすると、教科書が手に入らない・書店で探し出してもらっても古い版しか購入できないことがある。また教科書は2・3年生でも使用する。このような理由から、新年度が始まったらすぐ4月に購入すること。（大学売店で販売中）				
教科書				
ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア MCメディカ出版 3400円+税				
参考書、教材等				
ナースが視る病気 薄井担子 講談社				
評価方法				
授業態度・レポート・試験を総合的に評価する。				
授業外における学習方法				
ライフステージは、活力ある成人期から、虚弱な高齢期に移行する。この時期の看護には、健康管理・疾病対応・虚弱期のケアなどがある。まずは血縁の高齢者の方々がどのような生活をしているか訪問して生活の様子を理解しましょう。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
新型コロナウイルス流行により、講義方法がZOOMもしくは対面になり、変更の可能性はある。 健康管理を行い、体調を整え、欠席しないようにして学習すること。 履修者数が50人前後になるので、他の人の迷惑にならないよう私語を慎むこと。 SNS等の通信サービスに投稿したり情報流出をさせてはいけない。このような場合は大学の規定により対応する。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/02/04 16:55				
				印刷 閉じる

シラバス詳細

健康行動科学専門科目		健康行動科学専門科目							
口腔保健科学専門科目		教育実践							
授業科目名									
カリキュラム2019									
小児保健看護学 Pediatric Nursing and Health									
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限						
1	200550701	後期	木曜3限～4限						
ナンバリング									
健康行動 :B_BHS2300、口腔保健 :B_OHS2630									
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別									
No.	看護 編入	理学	作業	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1						2○		2○	◎
履修における注意点・履修条件等									
①テストを受けるには授業時間数の2/3以上の出席が必要である。 ②教員免許（養護教諭一種免許状取得のための養護に関する科目、科目区分看護学）を選択する場合は、必修科目である。 ③看護臨床実習（3年生9月に実習：2単位、養護教諭免許状取得のための必修科目）前に単位を取得すること。									
科目責任者	佐藤 玲子		単位数・時間数	2単位 15時間		授業形態	講義		
科目担当者	押野修司								
科目に関連する実務経験	○	看護師・保健師・養護教諭の経験のある教員が、その経験を生かして女性の妊娠・胎生期・小児期における保健や福祉の政策・予防活動・発達に応じた健康管理について講義を行う。また、保健行政において作業療法士の経験がある教員が発達支援について講義を行う。							
授業の概要									
カリキュラムマップでは、口腔保健科学専攻の教育実践の科目である。健康行動科学専攻の生命科学に位置する。科目の概要は、胎生期から小学校入学前の小児の成長発達を理解し、健康増進・予防・疾病・障害などを理解する。産み育てる母性を理解することや、乳幼児期の小児・母性・家庭を支援する保健・福祉サービスの内容も加え、広く学習する。また、一部に成長発達が遅れる子どもがいることを理解する。									
学習のねらい									
乳幼児期を中心にした小児・母性の対象理解を深め、健康的な育児発達・母性への支援・家族への支援・現代社会の状況・法的支援の内容を理解する。養護教諭一種免許状の教職必修科目であり、3年次以降に履修する必修科目の母性看護学、小児看護学、看護援助方法論、看護臨床実習、養護教諭実習の基礎を成す科目である。									
関連するディプロマポリシー									
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域					
○	○	○	○	○					
授業の到達目標及び授業概要									
回	授業の到達目標	授業概要			担当教員	講演者			
1回	小児・母性・家族の健康を理解する。	12月15日3限 科目のオリエンテーション、少子高齢社会の子育てを概観する。教科書を使用する。			佐藤	□			
2回	ライフステージの健康課題、家族の発達と妊娠を理解する。	12月15日4限 ライフステージ、親性、家族の生活、妊娠を学習する。			佐藤	□			
3回	妊娠の成立と出産、社会制度を理解する	1月5日3限 胎生期～妊娠初期まで、労働基準法、育児休業～関する法律、母子保健法、法の内容と実施を理解する。			佐藤	□			
4回	妊娠の成立と出産、社会制度を理解する	1月5日4限 妊娠中期～後期、出産、産後1か月まで。出生児の健康、母の健康、健康診査を理解する。			佐藤	□			
5回	小児の発達と養育環境を理解する	1月12日 3限 小児の発達と健康（運動発達）を学習する。			佐藤	□			
6回	小児の発達と養育環境を理解する	1月12日4限 小児の発達と健康（情動の発達）を学習する。			佐藤	□			
7回	小児の発達と養育環境を理解する	1月19日3限 小児の発達と健康（言語発達）を学習する。			佐藤	□			
8回	小児の成長発達、養育環境を理解する	1月19日4限 小児の発達と健康（社会性の発達）を学習する。			佐藤	□			
9回	小児の成長発達と遅れを理解する①	1月26日 3限 発達発達の遅れと補助具の使用を理			押野				

		解する。(2月2日10回へ移行する可能性があります)		<input type="checkbox"/>
10回	小児の成長発達の違いを理解する②	1月26日4限 発育発達の遅れと補助具の使用を理解する。(2月2日11回へ移行する可能性があります)	押野	<input type="checkbox"/>
11回	小児の発育発達と養育環境を理解する	2月2日3限 発育発達に応じた栄養摂取、肥満やせの判定、内分泌疾患、先天性マススクリーニング検査を理解する。学校健診項目としても理解する。(1月26日と入れ替わる可能性があります)	佐藤	<input type="checkbox"/>
12回	乳幼児の社会性の発達、保健福祉の社会制度を理解する	2月2日4限 赤ちゃんの泣き、小児期の健康診査(特に3歳児健康診査)、社会性の発達、地域母子保健・福祉活動を理解する。学校と地域の連携機関を学習する。(1月26日と入れ替わる可能性があります)	佐藤	<input type="checkbox"/>
13回	小児感染症を理解する①	2月9日3限 小児感染症、感染症法、学校保健法、予防接種法と実施について理解する	佐藤	<input type="checkbox"/>
14回	小児感染症を理解する②	2月9日4限 小児感染症の概念的な理解、感染予防のための予防接種、学校健診、保健所、接触者検診を理解する	佐藤	<input type="checkbox"/>
15回	まとめ	2月16日3限 まとめ	佐藤	<input type="checkbox"/>
テスト	テスト	2月16日4限 予定	佐藤	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
1日に2コマで進みます。講義の期間が短いので、欠席しないよう体調管理をお願いします。 教科書の購入：履修が決まっている学生は、春の販売の時に購入する。その訳：毎年、出版社が印刷し4月には教科書の内容が新しくなる(前年に販売されたものは、頁がずれることがある)、後期に講義が始まってから購入しようとすると、教科書が手に入らない・書店で探し出してもらっても古い版しか購入できないことがある。また購入した教科書は今後3年生でも使用する。このような理由から、新年度が始まったらすぐ4月に購入すること。(大学売店で販売中)				
教科書				
新看護学⑨母子看護 母性看護・小児看護 医学書院 2900円(+税)				
参考書、教材等				
1)予防接種と子どもの健康、監修：予防接種ガイドライン検討委員会、(財)予防接種リサーチセンター				
評価方法				
授業態度・レポート・試験など総合的に評価する。				
授業外における学習方法				
市町村の母子活動を理解するために、住所地を管轄する市町村広報の「母子・小児」に関する内容も関心を持って読みましょう。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
後期の後半に一日2コマで開講する。テストを受けるには出席回数が必要なので、欠席しないよう体調を整えること。 新型コロナウイルス感染症流行の状況により、講義方法は検討中である(zoom、もしくは対面授業)。 講義内容は、児童生徒の理解に必要な知識である。胎児期、乳幼児期、その延長にある学童期の発育発達や保育・養育環境を理解する。 重要：SNSを用いた通信サービスに投稿したり情報流出をしてはならず、行った場合は大学規定により対応する。				
授業における講演者(ゲストスピーカー)の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/03/09 14:39				印刷 閉じる

シラバス詳細

検査技術科学専門科目		生物化学分析検査学											
授業科目名													
カリキュラム2019													
分子細胞生物学 Cell and Molecular Biology													
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限						
1	219402201	後期					金曜2限						
ナンバリング													
B_CLS1340													
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別													
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
	編入					専攻	編入		専攻	編入			
1											1◎		
履修における注意点・履修条件等													
科目責任者 村井 美代 単位数・時間数 1 単位 30 時間 授業形態 講義													
科目担当者 小林憲生													
科目に関連する実務経験													
授業の概要													
分子細胞生物学では、生物を構成する基本単位である細胞の構造と機能の基本を、最新の分子生物学分野の成果を交えて概説する。													
学習のねらい													
講義では、大腸菌のような原核生物からヒトを含めた真核生物にいたる細胞の構造と機能についてふれる。両者に共通した事象からは生命の普遍性を、それぞれに特徴的な事象からは生命の多様性を学ぶ。そのうえで、生命とは何か、生命の仕組みはどのようなものか、そして生物学的な立場から人間の本質を考えてほしい。													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観			客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合		国際的・地域		
○			○										
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標		授業概要				担当教員	講演者					
1	これから学ぶ分子細胞生物学の概要を知る		地球上に存在する生物は細胞レベルでみると驚くほど互いによく似ていて、生物としてのヒトを理解するうえで興味深い。				村井	<input type="checkbox"/>					
2	細胞とその研究方法を学ぶ		昔は口ウで固めて形を観察し、すりつぶして化学成分を調べた。今では、細胞を生きたまま観察することもできる。				村井	<input type="checkbox"/>					
3	生体膜を構成する脂質二重膜の性質と生体膜で構成される細胞内小胞の動態について理解する		細胞膜は脂質二重膜で出来ている。脂質二重膜は流動性があり、外界と細胞内を区切るだけでなく、細胞内小器官を形成し、物質の細胞内輸送や分泌の担い手となる。				村井	<input type="checkbox"/>					
4	真核細胞の細胞骨格の種類と役割を理解する		細胞骨格成分（中間径線維、微小管、アクチン線維）は、細胞の形を決めるだけでなく、それぞれが協調して細胞内小器官の配置を決めたり細胞の動きを司ったりする。				村井	<input type="checkbox"/>					
5	細胞呼吸を行う代謝経路を理解する		細胞は栄養素を分解して化学エネルギーを取り出し、ATPとして蓄える。細胞の主なエネルギー製造過程には酸素が欠かせないが、酸素がない場合急場をしのぐ方法もある。				村井	<input type="checkbox"/>					
6	細胞が増殖するしくみを理解する		細胞は二分裂で自分と全く同じ細胞（クローン）を増やしていくが、時に別の細胞と融合すると新しい細胞が生じる。				村井	<input type="checkbox"/>					
7	情報高分子の化学的性質を理解する		構成単位がたくさん連結された高分子が細胞を造る。その中でDNA、RNA、タンパクは構成単位の並び順が大きな意味を持つ。				村井	<input type="checkbox"/>					
8	ゲノムを構成する遺伝因子の種類を知る		細胞に含まれるDNAのうち自律的に複製される単位を遺伝因子という。染色体DNAの他に、プラスミド、ウイルスゲノムやトランスポゾンなどが存在す				村井	<input type="checkbox"/>					

		る。		
9	DNA複製のしくみを理解する	細胞分裂に先立ちDNAは完全に複製され、その仕組みは原核細胞と真核細胞でほぼ一緒である。しかしDNAの形の違いから、真核細胞では大きな問題が生じる。	村井	<input type="checkbox"/>
10	大腸菌の遺伝子発現のしくみを理解する	DNA塩基配列に存在する遺伝暗号が部分的にRNAに写し取られ、リボソームでタンパクに翻訳される。大腸菌もヒトも同じ遺伝暗号を使っている。	村井	<input type="checkbox"/>
11	真核細胞の遺伝子発現のしくみを理解する	真核細胞では、核内でDNAからRNAに転写された情報をRNAの段階で編集し、細胞質でタンパクに翻訳する。	村井	<input type="checkbox"/>
12	遺伝子の発現制御のしくみを理解する	細胞は外部環境に応じて読み取る遺伝子を変える。どの遺伝子がどんな刺激に応じてどれくらい読み取られるかもDNA上に書き込まれている。	村井	<input type="checkbox"/>
13	DNAの傷害と修復について学ぶ	放射線などの変異原に曝されるとDNAは傷つくが、たいていの傷は修復され元に戻る。まれに修復ミスが起こり、それが突然変異として子孫細胞に受け継がれる。	村井	<input type="checkbox"/>
14	遺伝子変異の影響について理解する	突然変異が起こると、細胞は、個体はどうなるのか？そのほとんどは影響が現れない“中立”変異であるが、たった1個の塩基変異が重篤な疾患をもたらすこともある。	小林	<input type="checkbox"/>
15	DNAには生命の歴史が刻まれていることを知る	“中立な突然変異”には、どのような利用方法があるのか？突然変異を数えることで生命の歴史を復元することができる。	小林	<input type="checkbox"/>
16	各回の講義内容を振り返り、理解度を確認する	まとめ	村井	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
毎回、その日の授業内容の理解を確認するための課題を出します。課題の提出をもって出席とみなします。				
教科書				
教科書は特に指定しません（講義プリントを配布します）。				
参考書、教材等				
参考書は自分のレベルにあった本を選んで下さい。初回の講義で何冊か紹介します。				
評価方法				
筆記試験（記述式・配布プリント持込可）により評価します。				
授業外における学習方法				
授業で使用したPower Pointファイルの画像はWebClassにアップします。講義の復習に役立ててください。また復習問題も用意しておきますので、取り組んで下さい。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
高校で生物を履修していない学生もいることを前提にわかりやすく解説するつもりですが、初めて学ぶ者にとっては生物学特有の用語も多く、難解に感じることも多いと思います。講義内容で理解不十分であったところは、関連科目（教養科目の生物学、専門基礎科目の生化学など）で学んだこととも合わせて理解を深めることを希望します。また疑問点は、その日のうちに学生同士で話し合ったり教員に質問したりして解決することも有効です。質問は随時受け付けます。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日：2022/02/25 15:26				
				印刷 閉じる

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

3年次の血液学 I、II では、血液学概論での学習内容は習得済みとして進めますので、繰り返し復習をしてください。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日: 2022/02/25 19:53

印刷 閉じる

シラバス詳細

健康行動科学専門科目		健康行動科学専門科目								
口腔保健科学専門科目		健康の基礎医学								
授業科目名										
カリキュラム2019										
免疫学 Immunology										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	200550401	後期	水曜4限							
ナンバリング										
健康行動 :B_BHS3300、口腔保健 :B_OHS1210										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護 編入	理学	作業		社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1							3○		1◎	◎
履修における注意点・履修条件等										
履修条件は特になし。										
科目責任者	柳澤 伸彰			単位数・時間数	1単位 15時間		授業形態	講義		
科目担当者										
科目に関連する実務経験	○	基礎医科学・歯科学の教育経験のある教員が、その経験を活かして免疫学の基礎から免疫系にかかわる疾患に関する免疫学の講義を行う。								
授業の概要										
生体を、病原体の侵入から守るシステム“免疫”について、どのような臓器・細胞が関わり、どのような機構で病原体を排除するのかを理解する。さらにこのシステムにより引き起こされるアレルギー、免疫の不調により起こる免疫不全について理解する。 授業の実施形態は対面授業で行います。										
学習のねらい										
2度同じ感染症にかからないという現象を引き起こしている免疫のメカニズムを理解する。それによって感染症について宿主側の側面から考察し、ワクチンによる感染症予防の重要性を理解する。アレルギーのように免疫により引き起こされる疾患についてもその病因を理解する。										
関連するディプロマポリシー										
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考			多面的・専門的			連携・統合		国際的・地域	
○				○						
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者		
1-2	免疫の概念を理解する			免疫概論 免疫担当臓器 免疫担当細胞			柳澤	□		
3	自然免疫のシステムを理解する			免疫システムの概略 自然免疫			柳澤	□		
4	獲得免疫①のシステムを理解する			獲得免疫の概略 体液性免疫 抗原・抗体			柳澤	□		
5	獲得免疫②のシステムを理解する			細胞性免疫 移植免疫			柳澤	□		
6	アレルギーを理解する ワクチン療法を理解する			アレルギー ワクチン			柳澤	□		
7	免疫により起こる疾患を理解する			免疫不全 自己免疫疾患 免疫血清学検査法			柳澤	□		
8	新型コロナウイルス感染症を理解する 免疫の総括			新型コロナウイルス感染症 まとめ			柳澤	□		
9	定期試験			筆記試験			柳澤	□		
教科書										
「病気が見える vol.6 免疫・膠原病・感染症」第2版 (メディックメディア)										
「好きになる免疫学」第2版 萩原清文 (講談社)										
参考書、教材等										
「好きになる免疫学 ワークブック」 萩原清文 (講談社)										
「標準免疫学」 (医学書院)										

評価方法			
筆記試験（80%）および学習態度〔提出物や小試験等〕（20%）			
授業外における学習方法			
授業前に当該講義内容について教科書を熟読しておくこと。 また、学習した講義内容について教科書および配布資料等で確認しておくこと。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
講義をノートに写すことに専念するのではなく、講義内容についてその場で考えてみてください。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2022/02/03 16:52

印刷 閉じる

シラバス詳細

口腔保健科学専門科目		口腔保健科学の基礎								
授業科目名										
カリキュラム2019										
臨床歯科医学総論 Introduction to clinical dentistry										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	219600201	後期	水曜3限							
ナンバリング										
B_OHS1110										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			専攻	編入	専攻	専攻	専攻		
1								1◎		
履修における注意点・履修条件等										
本科目は、後期後半の水曜日3時限目に、8週にわたり開講する必修科目である。										
科目責任者	吉田 隆	単位数・時間数	1 単位 15 時間	授業形態	講義					
科目担当者										
科目に関連する実務経験	○	歯科医師として臨床実務経験を持つ教員が、実際の臨床経験を踏まえて授業展開を行う。								
授業の概要										
歯科医療の変遷を知り、その特徴と意義を理解する。歯科医療の現場の形態および運営、歯科医療に従事する医療スタッフの構成と役割を知る。さらに歯科疾患に固有の診査法、症状やその処置法についてその概説を理解するとともに、保健医療福祉分野における歯科保健、歯科医療の必要性について学ぶ。なお本科目は新型コロナウイルス感染症対策のためZOOMを利用した授業形態であるが、希望者は教室での対面授業が可能である。ただし対面授業参加では、教室での講の人数制限が設定されている。										
学習のねらい										
口腔保健科学を学ぶにあたり、臨床歯科医学は避けて通ることが出来ない分野です。2年次から臨床歯科医学各論としての各科目が始まりますが、本科目ではその総論部分を解説します。臨床歯科医学のみならず、今後の口腔保健科学を学習する上でも、本科目は基礎となる部分であるため、その知識の習得と理解を深めることを目的としています。										
関連するディプロマポリシー										
対象者の理解・倫理観	客観的・批判的思考	多面的・専門的	連携・統合	国際的・地域						
○		○	○							
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	臨床歯科医学を学ぶ目的を理解する	歯科衛生士養成教育で何故臨床歯科医学を学ぶのか	吉田	<input type="checkbox"/>						
2	口腔内の各種疾患について説明できる	歯科疾患の概要（その1）	吉田	<input type="checkbox"/>						
3	口腔内の各種疾患について説明できる	歯科疾患の概要（その2）	吉田	<input type="checkbox"/>						
4	歯科疾患に対する処置法の概要について説明できる	歯科疾患処置法総論	吉田	<input type="checkbox"/>						
5	歯科臨床における専門分野について説明できる	歯科診療の各分野（その1）	吉田	<input type="checkbox"/>						
6	歯科臨床における専門分野について説明できる	歯科診療の各分野（その2）	吉田	<input type="checkbox"/>						
7	歯科医療の概略について理解する	歯科医療の行われる場と医療の流れ インフォームドコンセント その他	吉田	<input type="checkbox"/>						
8	臨床歯科医学の概論について理解を深める		吉田	<input type="checkbox"/>						
授業計画に関する特記事項										
授業の進行は、学生諸君の理解状況を鑑みながら進めていく。そのため必ずしも授業計画通りの進行にならないことがあることをご承知ください。その意味からも極力欠席しないよう心がけていただきたい。										
教科書										
教科書としての使用は特になし。授業に用いた資料は、webclassに掲示し、閲覧できるようにする。 授業時にはプロジェクターで資料を画面上に投影するが、タブレットなどを持参しwebclass上に掲示してある資料を手許で閲覧すればより効果的な受講ができる。										
参考書、教材等										
必要に応じ適宜紹介する。										
評価方法										
出席状況ならびに受講態度を考慮し、現段階では筆記試験によって評価する予定である。今後変更する場合には、授業時間内に説明する。										

授業外における学習方法			
本科目は事前に内容を予習する必要はありません。しかし復習は必ず行ってください。教科書もプリントも配布しないのに、どうやって復習するのかと疑問に思うかもしれません。webclassはそのためのツールです。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
歯科医療、歯科臨床については案外知られているようで、実はあまりよく知られていないのが実情です。本科目は、歯科保健医療に従事する人は勿論のこと、その他健康をサポートする職種に進む人にも必要不可欠だと考えています。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
最終更新日: 2022/03/09 14:44			
			印刷 閉じる

シラバス詳細

口腔保健科学専門科目		健康と予防に関わる人間と社会											
授業科目名													
カリキュラム2020													
口腔衛生学Ⅱ Preventive Dentistry and Dental Public Health II													
No.	時間割番号		開講時期		曜日・時限								
1	219601201		後期		水曜1限								
ナンバリング													
B_OHS2310													
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別													
No.	看護		理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
	編入					専攻	編入		専攻	編入			
1												2◎	
履修における注意点・履修条件等													
口腔衛生学は、基礎科目および臨床科目と関連する箇所が多い。また、衛生学・公衆衛生学、衛生行政、衛生統計学等とも関連が深い。したがって、関連の深い分野については、口腔衛生学で学習した内容と、それぞれの科目で学習した内容を自分でまとめ、正しい知識として習得することが必要である。													
科目責任者		植野 正之		単位数・時間数		1 単位 30 時間		授業形態		演習			
科目担当者													
科目に関連する実務経験		○											
授業の概要													
口腔衛生学は、歯・口腔の疾病・異常を予防し、口腔の健康を保持増進させることによって全身の健康を保持増進し、生涯健康で文化的な社会生活を営むことができるようにするための理論や実践方法を探求する学問である。したがって、この科目は自然科学のみならず、社会科学や人文科学の領域をも包括する。 口腔衛生学Ⅱでは、歯周疾患及びその他の口腔疾患、不正咬合、歯科保健の予防の概念に基づいた基本的手法に加え、各種歯科保健、国際保健、精神保健における歯科の関りについて学習する。 本講義は遠隔と対面の併用で行う。													
学習のねらい													
人々の歯・口腔の健康増進に関わる基礎的知識の習得をねらいとし、社会における教育的役割や多職種連携における調整的役割が担え、国際的にも活躍できる歯科保健の専門家の養成を目標とする。													
関連するディプロマポリシー													
対象者の理解・倫理観		客観的・批判的思考		多面的・専門的		連携・統合		国際的・地域					
		○		○				○					
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員		講演者				
1	歯周疾患の原因と病理学的および臨床学的所見について説明できる。			歯周疾患の発生要因			植野		□				
2	歯周疾患の発病機構、歯周疾患と全身疾患との関連について説明できる。			歯周疾患の発病機構			植野		□				
3	歯周疾患の予防法について説明できる。			歯周疾患の予防			植野		□				
4	その他の口腔疾患・異常（口臭症、口内炎、顎関節症、舌痛症、口腔がん、口腔乾燥症、歯の形成不全、智歯周囲炎など）の発生および予防について説明できる。			その他の口腔疾患の予防			植野		□				
5	不正咬合の分類およびその原因と予防法について説明できる。			不正咬合の予防			植野		□				
6	歯科保健指導と歯科健康教育、健康行動理論について説明できる。			歯科保健指導と健康教育			植野		□				
7	歯科保健活動のプライマリヘルスケアおよびヘルスプロモーションを含む各種方法論について説明できる。			歯・口腔の健康と予防			植野		□				
8	日本の健康づくり対策のための主な活動分野について説明できる。			日本の健康づくり対策			植野		□				
9	地域歯科保健の概念、組織および健康危機管理について説明できる。			地域歯科保健			植野		□				

10	母子保健における歯科の役割を説明できる。	母子歯科保健	植野	<input type="checkbox"/>
11	学校保健における歯科の役割を説明できる。	学校歯科保健	植野	<input type="checkbox"/>
12	産業保健における歯科の役割を説明できる。	産業歯科保健	植野	<input type="checkbox"/>
13	成人・高齢者保健における歯科の役割を説明できる。	成人・高齢者歯科保健	植野	<input type="checkbox"/>
14	国際歯科保健における国際協力・国際交流について説明できる。	国際歯科保健	植野	<input type="checkbox"/>
15	精神障害者の歯科保健状況とその対策について説明できる	精神歯科保健	植野	<input type="checkbox"/>
教科書				
「最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会監修（医歯薬出版）				
参考書、教材等				
「口腔衛生学」 松久保 隆・八重垣 健・前野正夫監修（一世出版） 「臨床家のための口腔衛生学」 中垣晴男・神原正樹・磯崎篤則・加藤一夫編集（永末書店）				
評価方法				
筆記試験および出席状況等による総合評価				
授業外における学習方法				
テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどの歯科保健に関する情報に常に留意すること。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
講義内容等についての質問は、随時受け付ける。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
最終更新日: 2022/01/17 12:27				
				印刷 閉じる